

アヌココロ アイヌ イコロマケナル
国立アイヌ民族博物館
年 報

2021（令和3）年度



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

国立アイヌ民族博物館
年報 2021（令和3）年度
National Ainu Museum Annual Report 2021

国立アイヌ民族博物館

年報 2021（令和 3）年度 館長あいさつ

イランカラフテ

『国立アイヌ民族博物館年報 2021（令和 3）年度』を刊行します。

アヌココロ アイヌ イコロマケナル、国立アイヌ民族博物館は 2020（令和 2）年 4 月に、ウアイヌコロコタン、民族共生象徴空間（愛称ウポポイ）の中核施設の 1 つとして、文化庁が公益財団法人アイヌ民族文化財団に運営を委託するという形で発足し、ウポポイの他の施設とともに同年 7 月 12 日に一般公開を始めました。その設立理念に「この博物館は、先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する」とある通り、当博物館はアイヌの歴史・文化に関する正しい認識と理解を促進し、新しい文化の創造・発展に寄与する活動に特化した、我が国初の国立博物館です。

当年報には、この博物館の 2 年目にあたる 2021（令和 3）年度の事業がすべて紹介されています。初年度の年報に続き、2 年目の年報もかなり遅れてしまいました。今後、当該年度の終了とともに速やかに刊行できるよう、鋭意努力していく所存です。

2021 年は、前年に始まった新型コロナウイルス感染症の流行が収まるどころか、さらに被害を拡大していった年になります。我が国にも次々と感染爆発の波が襲来しました。他方でワクチンの開発も進み、接種も始まりましたが、ウイルスもそれに対抗するように次々と新しい変異株を登場させ、感染は拡大を続けました。ウポポイも押し寄せる感染の波には勝てず、6 月に 20 日間、9 月に 1 ヶ月と 2 回にわたって休業を余儀なくされました。また、開業を再開しても感染防止対策は継続し、展示場への入場者数の制限、タッチパネルや体験型展示の使用停止などの対応は変えられませんでした。そのためもあり、1 時間当りの入場者数の制限を緩和したにもかかわらず、この年は初年度の総入場者数を超えられず、ウポポイ全体でも 19 万人あまりの来場者を迎えるに留まりました。

2021 年度は初年度に続き逆風の中での営業が続きましたが、博物館は展示、研究交流、資料収集、教育普及の各業務で活発な活動を展開しました。まず、展示では 2 回の特別展示と 2 回のテーマ展示を特別展示室で開催し、さらに 1 階のミュージアムショップ（イコロマケナル イホク ウシ）の前の展示ケースで特別展示の開催に合わせて関連の展示を行い、また、視覚障がい者を主な対象とした触れる展示を、交流室 B を使って実施しました。研究交流では、前年度に整備した体制を維持しつつ新たに博物館が組織的に実施する「基幹研究」を立ち上げ、この枠組みに沿って、7 つの研究プロジェクトが走り始めました。また前年度に引き続き個別研究 5 件、資料調査 3 件を実施しています。刊行物ではニュースレター『アヌアヌ』4 冊（4～7 号）が刊行され、当館の研究成果公開の柱である研究紀要 1 号の編集も始まりしました（刊行は 2022 年度）。ネットワーク事業（「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称ブンカラ）」）でも加盟会員機関等が 59 に上り、アイヌ資料の取扱いに関する研修会をオンラインで開催しました。

資料の収集・保存・整備では、39 件 45 点の資料を購入、1 件 2 点の寄託、7 件 8 点の寄贈を受け入れました。寄託資料は苫小牧市の海岸で発見された 2 艘分の板綴舟の底部で、苫小牧市と資料の寄託と共同研究についての合意文書を締結しています。また、博物館設立準備室以来仮収蔵庫として使用してきた旧白老町立社台小学校から当館の収蔵庫への資料の移送も行い、旧アイヌ民族博物館収蔵資料と博物館設立準備室が購入した資料のほとんどが当館の収蔵庫に収納されました。

教育普及事業では、教育旅行で来館した児童生徒向け入門コース「はじめてのアイヌ博」を、196 校 11,618 名が受講しました。「アイヌ民族に関する指導（動画）教材の作成」については、学習指導要領にあ

る小学校6年社会科（歴史）「鎖国のもとでの交流」と中学校社会科（歴史）「室町時代及び江戸時代におけるアイヌ民族の交易」の各授業に使うことができ、かつ広くアイヌ民族の歴史・文化等も学べる動画教材の作成が終了しました。これらは翌年度から実験的な授業を行い、その結果を還元して広く全国の学校で利用できる教材に仕上げていく予定です。教員向けの研修会としましては、「教員のための博物館の日@国立アイヌ民族博物館」を実施しまして、アイヌ民族に関する教育に取り組む先生たちの実践上の課題や悩みを広く聞くことができました。また、一般来館者向けの普及事業「ホリデーイベント」では、感染対策を万全にしながら計36回実施し、延べ1148人の方に参加いただきました。

運営では、アイヌ文化を担う方々やアイヌの歴史と文化を研究されている方々の意見を広く受け止め、それを中長期的な視野を持って博物館の運営に生かしていくために、2020年度に設けました博物館運営会議をこの年度にも実施しました。2020年度の第1回運営会議では、展示と調査研究の事業について外部の委員から適切な助言を得るためにワーキング会議の設置が提言されていたことから、2021年度に展示検討、研究推進、学術交流の3つのワーキング会議を設置して、それぞれの課題について助言、提言をいただきました。

このようにアヌココロ アイヌ イコロマケナル、国立アイヌ民族博物館は、開館2年目の2021年度にも様々な事業を実施しました。詳細はこの年報に収められていますので、是非ご覧下さい。今後とも皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2023年10月

アヌココロ アイヌ イコロマケナル サパネクル エトゥナンカラ

国立アイヌ民族博物館館長 佐々木史郎

目 次

館長あいさつ	3
I 概要	9
I -01 理念・目的	9
I -02 沿革	10
I -03 館内におけるアイヌ語の表記・方言について	12
I -04 博物館のロゴマークについて	15
I -05 位置と周辺環境	17
II 管理運営	19
II -01 組織	19
II -01-01 組織図	
II -01-02 人員構成	
II -01-03 専門グループ	
II -02 運営組織	24
II -02-01 国立アイヌ民族博物館運営会議	
II -02-02 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会	
II -02-03 その他の運営組織	
III 施設	33
III -01 施設概要	33
III -01-01 整備の基本方針	
III -01-02 施設概要	
III -02 建物の整備の基本方針と計画内容	34
III -03 建物の平面図	37
III -04 1階の施設	38
III -04-01 1階来館者ゾーンの施設	
アパサム	エントランスロビー
イノカヌカラ トウンブ	シアター
ウエネウサラ トウンブ	交流室
カンピソシヌカラ トウンブ	ライブラリ
イコロマケンル イホク ウシ	ミュージアムショップ
チエトウン スウォプ オマトウンブ	ロッカー室

イカオイキ トウンブ	救護室	
アシンル・セブ アシンル	トイレ・多目的トイレ	
III -04-02 1階管理・運営ゾーンの施設		
カンピヌイェ トウンブ	調査研究室	
ヤイバカシヌ トウンブ	研修室	
イコロ ウワンテ トウンブ	分析調査室	
CT トウンブ	CT 室	
イバカレ トウンブ	燻蒸室	
イノカ ウク トウンブ	撮影室	
III -05 2階の施設		50
III -05-01 来館者ゾーンの施設		
インカラ ウシ	パノラミックロビー	
イコロ トウンブ	基本展示室	
イアシケウク	導入展示	
アエキルシ	プラザ展示	
イタク	私たちのことば	
イノミ	私たちの世界	
ウレシバ	私たちの暮らし	
ウパシクマ	私たちの歴史	
ネブキ	私たちのしごと	
ウコアブカシ	私たちの交流	
イケレウシ「テンパテンパ」	探究展示 テンパテンパ	
シサク イコロ トウンブ	特別展示室	
アシンル	トイレ	
ニカラ、トウシエリキンペ、シモイエニカラ	階段、エレベーター、エスカレーター	
III -05-02 管理・運営ゾーンの施設		
イコロ プ	収蔵庫	
イコロ プ セム	収蔵庫前室	
イコロ プ	一般収蔵庫	
シサク イコロ プ	特別収蔵庫	
サバネクル トウンブ	館長室	
ウエカプ トウンブ	応接室	
IV 2021 (令和 3) 年度事業		73
IV -01 2021(令和 3)年度主要事項		73
IV -02 入館者数(月別)		75
IV -03 展示		76
IV -03-01 特別展示の企画立案・計画策定、開催		
IV -03-02 交流展示及びテーマ展示の立案・計画策定、開催		
IV -03-03 2022 (令和 4) 年度の特別展示及びテーマ展示の立案・計画策定、準備		
IV -03-04 展示関連の解説書・図録等の企画及び編集、発行		

IV -04 調査研究	91
IV -04-01 調査研究事業	
IV -04-02 ネットワーク事業	
IV -04-03 研究集会の企画・開催	
IV -04-04 研究成果の社会発信	
IV -04-05 レファレンス	
IV -04-06 外部資金獲得のための体制整備	
IV -04-07 国内外の博物館等が所蔵するアイヌ資料の調査の実施	
IV -04-08 刊行物	
IV -04-09 国際交流	
IV -05 資料の収集、保管、活用	109
IV -05-01 アイヌ文化関係資料等の受入及び貸出	
IV -05-02 博物館内及び旧社台小収蔵庫における列品等の整理及び整備	
IV -05-03 収蔵品管理システムへのデータ登録、外部公開、保守管理	
IV -05-04 資料の熟覧・画像利用	
IV -05-05 分析機器運用	
IV -05-06 資料収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）	
IV -06 教育普及	116
IV -06-01 博物館における教育事業の企画立案及び実施	
IV -06-02 アイヌの文化伝承に資する研修の企画立案及び実施	
IV -06-03 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の検討	
IV -06-04 博物館ライブラリの運営	
IV -06-05 教育旅行等で来館する学校に対する教育プログラム	
IV -06-06 学校教育と連携した取り組みの企画立案	
IV -07 一般運営業務	126
IV -07-01 利用サービス	
IV -07-02 広報企画	
IV -07-03 事業予算	

I 概要

I -01 理念・目的

理 念

この博物館は、先住民であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する。

(『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』2013年8月より)

目 的

1. アイヌの歴史・文化・精神世界等に関する正しい知識を提供し、理解を促進する博物館
2. アイヌの歴史・文化に関する十分な知識を持つ次世代の博物館専門家を育成する博物館
3. アイヌの歴史・文化に関する調査と研究を行う博物館
4. アイヌの歴史・文化等を展示する博物館等をつなぐ情報ネットワーク拠点となる博物館

(『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』2013年8月より)

I -02 沿革

- 1965年 白老町でポロトコタン営業開始
- 1967年 白老町立白老民俗資料館開業
- 1984年 北海道ウタリ協会総会で「アイヌ民族に関する法律（案）」が採択される
- 1984年 アイヌ民族博物館開業
- 1987年 第5回国連人権委員会人権保護小委員会先住民作業部会にアイヌ民族の代表が参加
- 1992年 国連総会で野村義一北海道ウタリ協会理事長が記念演説
- 1993年 国連総会が「世界の先住民族の国際年」を宣言（1995年～2004年を「世界の先住民の国際の10年」、2005年～2014年を「第2次世界の先住民の国際の10年」に指定）
- 1995年3月 ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会設置
- 1996年4月 ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会が『報告書』を提出
- 1997年5月 「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」（アイヌ文化振興法）公布。この法律の成立に伴い北海道旧土人保護法、並びに旭川市旧土人保護地処分法が廃止される
- 1997年11月 アイヌ文化振興法の指定法人として財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構を指定
- 2007年9月 国連総会「先住民族の権利に関する国際連合宣言」採択
- 2008年6月 衆参両院「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」採択
- 2008年7月 アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会設置
- 2009年7月 アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会が『報告書』を提出
「民族共生の象徴となる空間」（民族共生象徴空間）の構想が初めて打ち出される
- 2009年12月 アイヌ政策推進会議（座長：内閣官房長官）発足
- 2010年3月 アイヌ政策推進会議に民族共生の象徴となる空間、北海道外アイヌの生活実態調査の両作業部会設置
- 2011年6月 両作業部会が『報告書』を提出（民族共生象徴空間の設置場所を北海道白老郡白老町のポロト湖畔に選定）
- 2011年8月 アイヌ政策推進会議に政策推進作業部会設置
- 2012年3月 「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会（以下、博物館調査検討委員会）発足
- 2012年7月 『「民族共生の象徴となる空間」基本構想』（アイヌ政策関係省庁連絡会議）
- 2013年8月 『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』（博物館調査検討委員会）
- 2013年11月 博物館調査検討委員会の下に「展示・調査研究」、「施設整備」、「組織運営」の3つの専門部会を設置
- 2014年6月 「アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針」が閣議決定
- 2015年3月 『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』（国土交通省北海道開発局）、『「民族共生の象徴となる空間」における博物館基本計画報告書』（博物館調査検討委員会）
- 2015年7月 『国立のアイヌ文化博物館（仮称）基本計画』（文化庁）
- 2015年11月 文化庁が「国立のアイヌ文化博物館（仮称）設立準備室」を文化庁内と札幌（北海道大学

- 北キャンパス総合研究棟3号館2階)に設置
- 2016年4月 『国立の民族共生公園(仮称)基本計画』(国土交通省北海道開発局)
- 2016年5月 アイヌ政策推進会議にて民族共生の象徴となる空間を「民族共生象徴空間」、中核施設の名称をそれぞれ「国立アイヌ民族博物館」、「国立民族共生公園」、「慰霊施設」とすることが決定される。それにともない博物館設立準備室も「国立アイヌ民族博物館設立準備室」となる
- 2016年5月 『国立アイヌ民族博物館展示計画』(文化庁)
- 2016年7月 『「民族共生象徴空間」基本構想(改訂版)』(アイヌ総合政策推進会議)
- 2017年3月 『国立アイヌ民族博物館展示基本設計』、『国立アイヌ民族博物館建物基本設計』公表
- 2017年6月 『アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針について』の一部変更閣議決定
- 2017年9月 『国立アイヌ民族博物館展示実施設計』、『国立アイヌ民族博物館建物実施設計』策定
- 2017年12月 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会設置
- 2018年1月 白老町の博物館建設予定地でアイヌ民族博物館主催のチセコテノミ(地鎮祭)実施
- 2018年3月 アイヌ民族博物館閉館
- 2018年4月 一般財団法人アイヌ民族博物館と公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が合併して公益財団法人アイヌ民族文化財団設立
- 2018年5月 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議設置
- 2018年12月 民族共生象徴空間の愛称を「ウポポイ」(UPOPOY)とし、そのロゴと博物館のロゴを定める
- 2019年5月 「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」(アイヌ施策推進法)施行。この法律の成立に伴いアイヌ文化振興法が廃止される
- 2019年9月 「アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な方針」閣議決定(この閣議決定により2014年の基本方針は廃止)
- 2019年9月 国立アイヌ民族博物館建物本体竣工、11月には博物館内(白老)にも準備室を設置
- 2020年2月 国立アイヌ民族博物館展示施工完了
- 2020年3月 国立アイヌ民族博物館設立準備室閉鎖
- 2020年4月 国立アイヌ民族博物館発足
- 2020年7月 民族共生象徴空間開業記念式典挙行(11日) 国立アイヌ民族博物館を含む民族共生象徴空間が開業(12日) 新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの着用の義務化、入場入館前の検温と手指消毒の徹底とともに、博物館展示室への入室者を1時間当たり100人に制限する
- 2020年10月 展示室への入室制限を1時間当たり200人に緩和する
- 2021年6月 新型コロナウイルス感染症の蔓延により休館(6月1日~20日)
- 2021年7月 民族共生象徴空間開業1周年を迎える
- 2021年9月 新型コロナウイルス感染症の蔓延により休館(8月31日~9月30日)

I -03 館内におけるアイヌ語の表記・方言について

アイヌ語の復興を目的として、当館をはじめ民族共生象徴空間（ウポポイ）ではアイヌ語を第一言語と定めている。そのために館内及び展示室の解説パネルや案内サインにはアイヌ語が1行目、あるいは最初に表示されている。



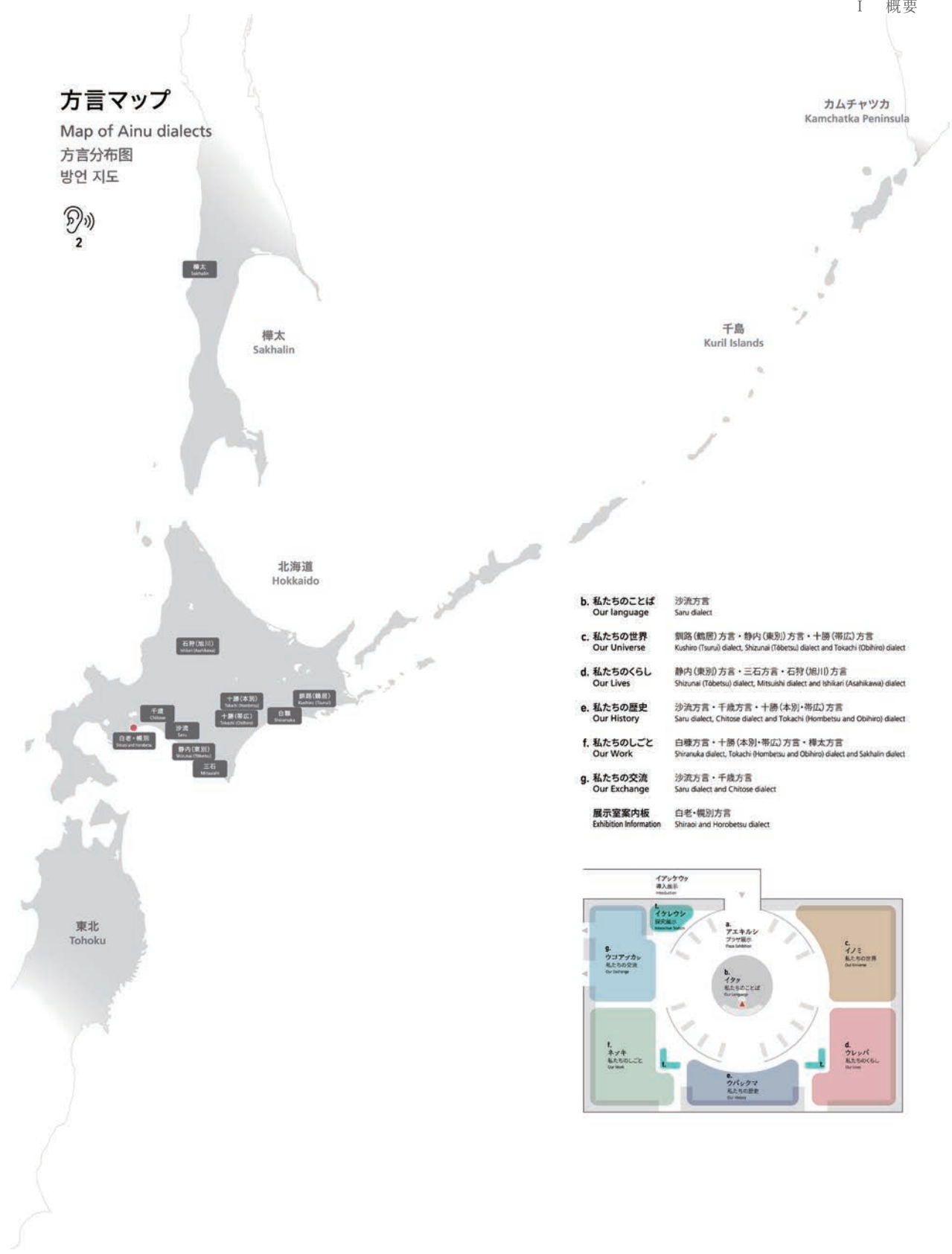
博物館の館名板 第1行目がアイヌ語

館名板の1行目にあるアイヌ語の館名は、国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議が検討、提案し、国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会が決定したものである。「アヌココロ」＝「私たちが共有する」、「イコロマケンル」＝「宝が入った建物」で、直訳すると「私たちが共有するアイヌの宝物が入った建物」となる。「私たちが共有する」が「国立」に対応し、「宝物が入った建物」が「博物館」を意味する。

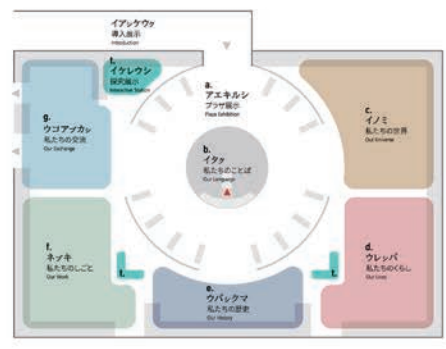
また、アイヌ語は復興とともにその方言の多様性を守っていくために、当館では基本展示室の中テーマ解説のアイヌ語文の作成を、各地域でことばを受け継ぐ人たちに依頼した。執筆者は自分が学んでいる方言や書きたい方言で記述しているために、解説文ごとに異なる方言が使われている。基本展示の各テーマで使用された方言は以下の通りである。

私たちのことば	沙流方言
私たちの世界	釧路（鶴居）方言、静内（東別）方言、十勝（帯広）方言
私たちの暮らし	静内（東別）方言、三石方言、石狩（旭川）方言
私たちの歴史	沙流方言、千歳方言、十勝（本別、帯広）方言
私たちのしごと	白糠方言、十勝（本別、帯広）方言、樺太方言
私たちの交流	沙流方言、千歳方言
展示室案内板	白老・幌別方言

方言マップ
Map of Ainu dialects
方言分布図
방언 지도



- b. 私たちのことば** 沙流方言
Our language Sanu dialect
- c. 私たちの世界** 釧路(鶴居)方言・静内(東別)方言・十勝(帯広)方言
Our Universe Kushiro (Tsurui) dialect, Shizunai (Tobetsu) dialect and Tokachi (Obihiro) dialect
- d. 私たちの暮らし** 静内(東別)方言・三石方言・石狩(旭川)方言
Our Lives Shizunai (Tobetsu) dialect, Mitsuishi dialect and Ishikari (Asahikawa) dialect
- e. 私たちの歴史** 沙流方言・千歳方言・十勝(本別・帯広)方言
Our History Sanu dialect, Chitose dialect and Tokachi (Hombetsu and Obihiro) dialect
- f. 私たちのしごと** 白糠方言・十勝(本別・帯広)方言・樺太方言
Our Work Shiranuka dialect, Tokachi (Hombetsu and Obihiro) dialect and Sakhalin dialect
- g. 私たちの交流** 沙流方言・千歳方言
Our Exchange Sanu dialect and Chitose dialect
- 展示案内板** 白老・幌別方言
Exhibition Information Shiraoi and Horobetsu dialect



基本展示の解説で使用されているアイヌ語の方言（基本展示「私たちのことば」より）



イノミ
[inomi]
私たちの世界
Our Universe
我们的宇宙
我们的世界
Наше мировоззрение
Тармак

c.1

カムイとのかわり
カムイトゥラオカヤン
[kamuy tura okayan]

Relations with the Kamuy
如何對待和敬奉 Kamuy (神靈)
如何對待和敬奉 kamuy (神靈)
카무이와의 관계
Отношения с божествами камуй
кamuй/tura/okayan

カムイ アナツネ ネツ ネヤツカイ アイヌ スカッペビツカ
エトムキ チュイ ベネワ クスシタ ヤイラケ ケイトム
アンコロ オネ イノンノ ハウ アンコヤイカヌ カムイ
オビツタ アンコヤイカヌ カムイノミアン クンベ タンナ
ネコソネ クス イノンノ ハウ オモ アエキ キコ カムイ
オレン ニクウェリミムセアン、ウチャッコマ ネイヌアン
アノカイ アツツネ カムイ トウラ オカヤン キナ。

基本展示 神靈 如何對待和敬奉

カムイはいつでも私たちアイヌを見守り、あたたかな光をさすものです。そのため、私たちはあらゆるカムイに感謝の心をもち、敬い顧みながら祈りを捧げます。万が一、私たちの祈りや願いをカムイが聞き入れなかった場合には、威圧の行進をすることでカムイに抗議をすることもあったと伝えられています。私たちはカムイとともに暮らしています。

We Ainu are constantly watched over by our spirit-deities, the kamuy. We express our gratitude for each and every kamuy through reverence and the offering of prayers. That said, if in the old days the kamuy did not listen to our prayers or wishes, we sometimes staged intimidating marches to protest their negligence. We Ainu go through our lives fully conscious of our coexistence with the kamuy.

kamuy(神靈)是始終守护我们阿伊努民族,为我们带来温暖光辉的存在。因此,我们对所有的kamuy都秉持感谢之心,恭敬虔诚地敬奉祈祷。万一kamuy没有回应我们的敬奉和祈求,有时我们会通过施压向kamuy抗议。我们和kamuy是共存的。

카무이는 항상 우리 아이누를 지켜보고 있으며, 따뜻한 빛을 내어줍니다. 우리는 모든 카무이에게 감사의 마음을 갖고, 존경하는 마음으로 기도를 올립니다. 만약, 우리의 기원이나 소원을 카무이가 이뤄주지 않을 경우에는, 위협적인 행진을 하여 카무이에게 항의를 했다고도 전해져 오고있습니다. 우리는 언제나 카무이와 함께 살아가고 있습니다.

5 言語で記された中テーマ解説
上から順にアイヌ語、日本語、英語、
中国語（簡体字）、韓国・朝鮮語
（基本展示「私たちの世界」より）

I -04 博物館のロゴマークについて



NATIONAL AINU MUSEUM
 国立アイヌ民族博物館

I -04-01 国立アイヌ民族博物館ロゴマークコンセプト

伝統的なアイヌの家屋における屋根を支える構造のひとつである三脚（ケトウンニ）をイメージ。アイヌ文化の復興、新たな文化の創造を「支える」イメージ。

メインカラーとして、伝統的なアイヌの服飾に用いられることも多い、紺と赤を採用。

下の縦線の本数は、アイヌ語で「たくさん」を表す表現にも用いられる数「6」とし、多くの人びとが集うことをイメージ。博物館の基本展示を構成するテーマ展示の数「6」とも合致。

（『国立アイヌ民族博物館ロゴマークマニュアル』より）

I -04-02 その他のロゴマークの使い方

■カラー表示

Aタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
 国立アイヌ民族博物館

Bタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

Cタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
 国立アイヌ民族博物館

Dタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

■モノクロ表示

Aタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Bタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

Cタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Dタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

■白抜き表示

Aタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Bタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

Cタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Dタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

I -05 位置と周辺環境

I -05-01 民族共生象徴空間の候補地選定の経緯

特に自然環境や交通アクセス等の自然的・地理的条件、アイヌ文化振興の活動の基盤となる人材や施設等の集積状況、地元の関係機関等の協力体制等において優れている北海道白老町が候補地としてふさわしいと判断した。

白老町内においては、ポロト湖畔において、アイヌの人々が自ら設立したアイヌ文化に関する施設等を中心に舞踊等の伝承者の育成や体験学習等の活動が展開され、国内外から多くの観光客等が訪れているとともに、同湖の周辺の区域に、アイヌ文化の伝承活動等における利活用の実績のある森林、海洋等の自然環境等の資源がコンパクトにまとまって存在すること等から、同湖周辺の区域が象徴空間の中心的な区域として最もふさわしいと想定される。

(『「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告書』アイヌ政策推進会議「民族共生の象徴となる空間」作業部会、2011年、pp.9-10より)

I -05-02 民族共生象徴空間設置対象地と周辺の概況

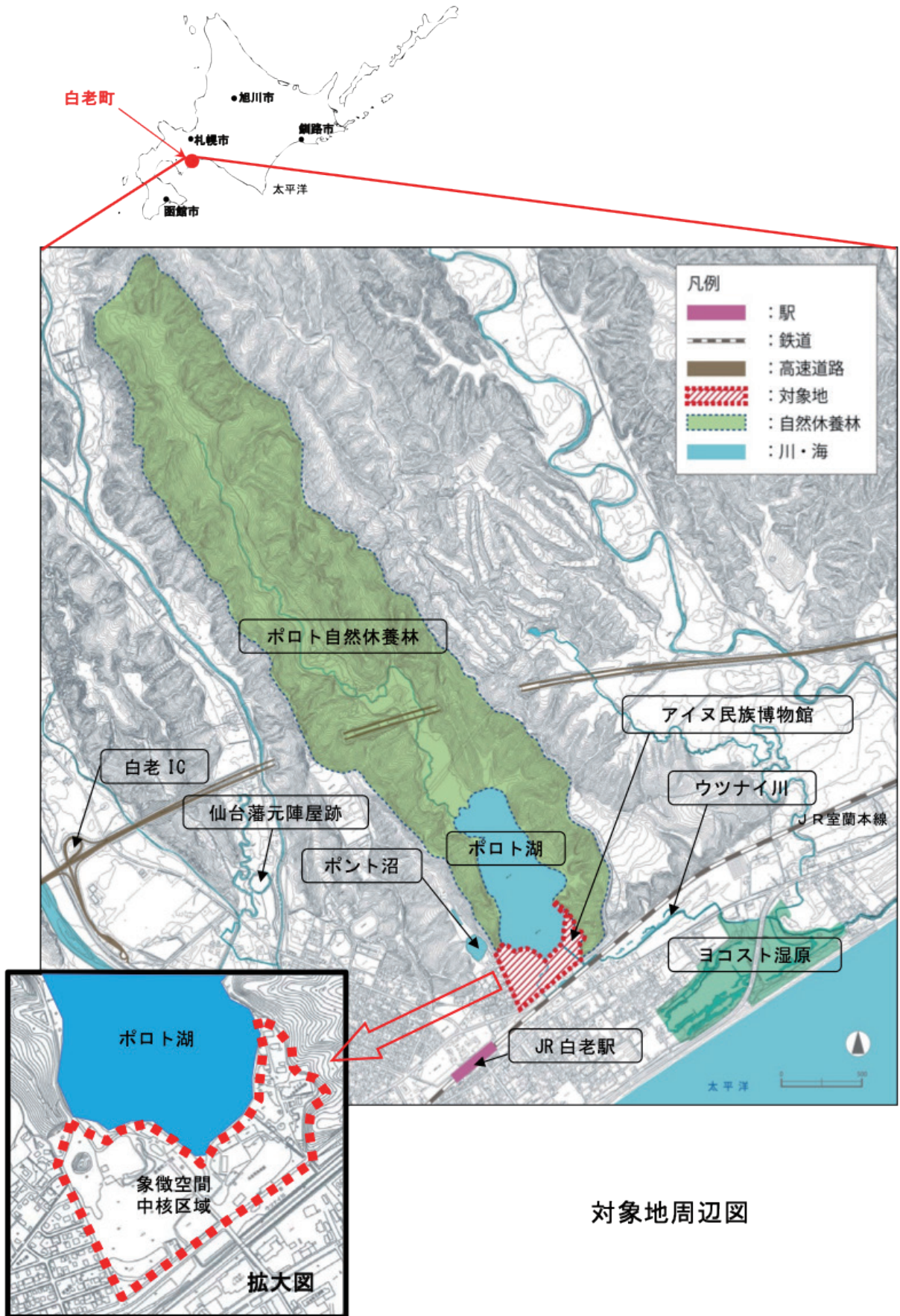
対象地は、社台川水系ウツナイ川の流域にあり、背後の山々から自然休養林、ポロト、ウツナイ川を経て、ヨコスト湿原、太平洋につながる一連の自然環境が形成されており、ポロトの近隣には、アイヌの伝承においてポロトと対をなすポイントも位置している。

対象地周辺のポロト遺跡からは縄文中期の土器などが出土しており、その時代にはすでに、この地域に人が居住していたことがうかがえる。また、古くからコタンをつなぐ海に沿ったネットワークを通じて遠距離交易が行われていた。

—中略—

交通の面では、JR 白老駅から北東約 500m に位置するとともに、道央自動車道白老 IC から道道白老大滝線と町道を介して約 3Km で接続しており、道南の函館方面及び道央の札幌方面のいずれから交通条件の至便な場所にある。

(『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』国土交通省北海道開発局、2015年、p.5より)



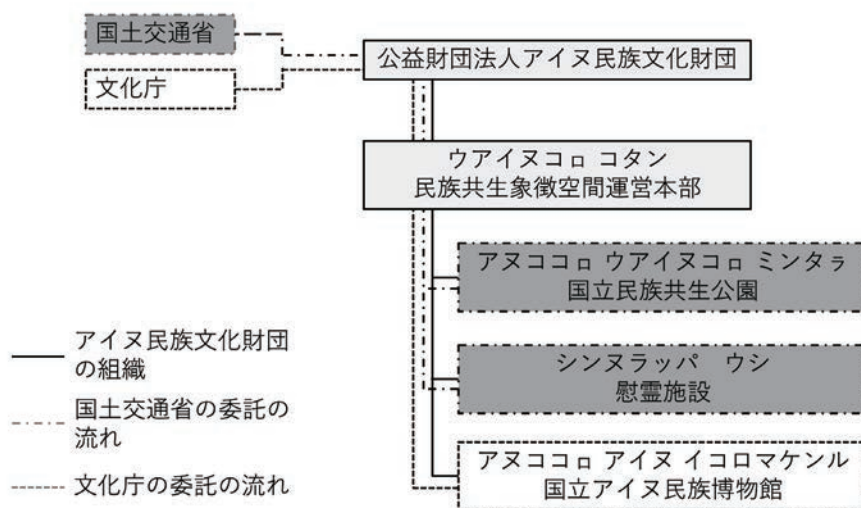
（『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』国土交通省北海道開発局、2015年、p.6より）

II 管理運営

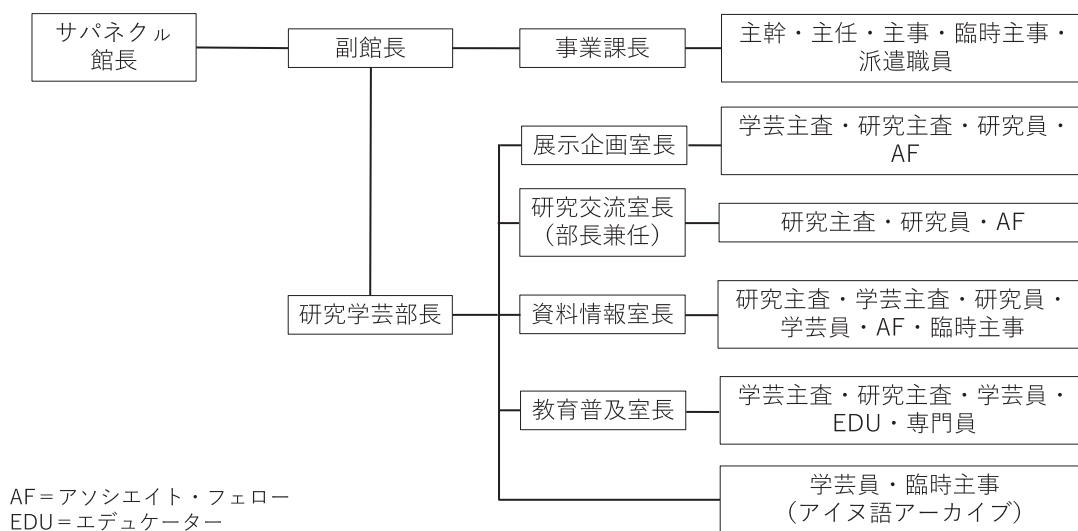
II -01 組織

II -01-01 組織図

民族共生象徴空間の組織



国立アイヌ民族博物館組織図 2022年3月時点



II -01-02 人員構成

2021（令和3）年度国立アイヌ民族博物館 人員構成（2022年3月時点）

所属室・課	役職名	氏名
	館長	佐々木 史郎
	副館長	南 健一
	研究学芸部長	藪中 剛司
事業課	課長	深澤 博昭
事業課	主幹	小田島 威
事業課	主任	佐々木 智恵
事業課	主任	山田 琴美
事業課	主事	上林 春奈
事業課	主事	小野 真鈴
事業課	主事	小林 真綾
事業課	臨時主事	小山田 郁子
事業課	臨時主事	澤口 利枝
事業課	臨時主事	赤堀 友里恵
事業課	臨時主事	宮本 ゆか
展示企画室	室長	田村 将人
展示企画室	学芸主査	立石 信一
展示企画室	研究主査	関口 由彦
展示企画室	研究員	小林 美紀
展示企画室	研究員	深澤 美香
展示企画室	アソシエイトフェロー	マーク ジョン ウィンチェスター
展示企画室	アソシエイトフェロー	劉 高力
展示企画室	アソシエイトフェロー	権 保慶
研究交流室	室長（部長兼務）	藪中 剛司
研究交流室	研究主査	奥山 英登
研究交流室	研究主査	宮地 鼓
研究交流室	研究主査	鈴木 建治
研究交流室	研究員	赤田 昌倫
研究交流室	アソシエイトフェロー	是澤 櫻子
研究交流室	アソシエイトフェロー	谷地田 未緒
資料情報室	室長	霜村 紀子
資料情報室	研究主査	中井 貴規
資料情報室	学芸主査	北嶋 由紀
資料情報室	研究員	大江 克己
資料情報室	学芸員	竹内 隼人
資料情報室	学芸員	矢崎 春菜
資料情報室	アソシエイトフェロー	古田嶋 智子

資料情報室	臨時主事	宮谷 初美
資料情報室	臨時主事	中村 孝子
教育普及室	室長	岩井 真二
教育普及室	学芸主査	八幡 巴絵
教育普及室	研究主査	笹木 一義
教育普及室	学芸員	押野 朱美
教育普及室	専門員（司書）	工藤 彩華
教育普及室	エドゥケーター	両角 佑子
教育普及室	エドゥケーター	今野 彩
教育普及室	エドゥケーター	永石 理恵
教育普及室	エドゥケーター	カサド バルド ケラール
教育普及室	エドゥケーター	シン ウォンジ
教育普及室	エドゥケーター	長谷 仁美
	学芸員（アイヌ語アーカイブ）	安田 益穂
	臨時主事（アイヌ語アーカイブ）	安田 千夏

II -01-03 専門グループ

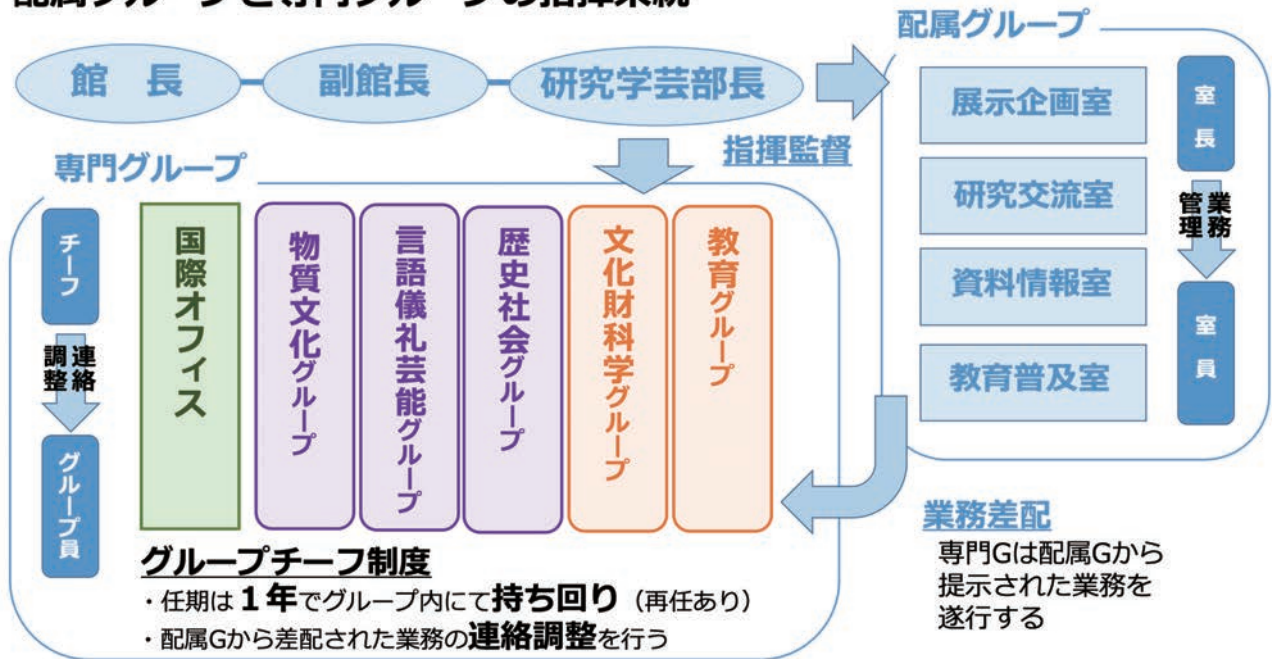
当博物館では、基本的に展示企画室、研究交流室、資料情報室、教育普及室の4室によって研究学芸業務がなされている。しかし、各研究員・学芸員はそれぞれの専門性をもって採用されているものの、各室の業務と合致していることは少ない。そのため専門が近い者どうしが集まり、室を越えて業務を処理することも多々あり、歪な状況にあった。

そこで、館長裁定による「国立アイヌ民族博物館における研究・学芸業務の実施体制について」に基づいて、5つの専門グループ（物質文化、言語儀礼芸能、歴史社会、文化財科学、教育）と国際オフィスを設置し、各室長から指示された用務を専門的に処理することとした。そこには、「専門的知見等を研究学芸部の業務に随時反映し処理する体制を整備することにより、博物館の機能強化及び調査研究・学芸業務の充実・深化等を図る」という狙いがある（「国立アイヌ民族博物館における研究・学芸業務の実施体制について」第1条による）。

研究学芸部所属の研究員・学芸員はいずれかの専門グループに所属する。国際オフィスには専門グループと重複して所属することを妨げない。なお、指揮系統としては、各グループとオフィスは研究学芸部長に直属する。また、各グループからチーフを選出し、研究学芸部長あるいは各グループ間の連絡調整を行う。チーフは1年交代として再任を妨げない。

この専門グループ、オフィスの体制は館長裁定により2020年9月1日より実施した。

配属グループと専門グループの指揮系統



2021（令和3）年度専門グループ構成（2022年3月時点）

【物質文化グループ】		
アイヌの歴史文化の基礎研究 主に物質文化に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
民具資料一般 動植物標本	藪中 剛司	物質文化
	北嶋 由紀	アイヌ文化
	宮地 鼓	環境学
	鈴木 建治	考古学
	八幡 巴絵	アイヌ文化
	竹内 隼人	アイヌ文化
	両角 佑子	学芸職
	長谷 仁美	学芸職
【言語儀礼芸能グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究 主に言語儀礼技能に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
映像・音声資料 民具資料（儀礼・芸能系）	中井 貴規	アイヌ文化、アイヌ語
	小林 美紀	アイヌ語
	深澤 美香	アイヌ語
	矢崎 春菜	アイヌ語
	竹内 隼人	アイヌ文化
	谷地田未緒	文化政策
	劉 高力	文化人類学

【歴史社会グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究 主に歴史社会に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
文書・絵図資料 現代資料一般 考古資料	霜村 紀子	美術史
	田村 将人	近現代史
	関口 由彦	近現代史
	鈴木 建治	考古学
	立石 信一	現代史
	マーク ジョン ウィンチェスター	アイヌ近現代史・歴史社会学
	是澤 櫻子	歴史、文化人類学
【文化財科学グループ】		
博物館機能強化のための研究 文化財科学に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
資料全般の保存環境	赤田 正倫	保存科学
	大江 克己	保存科学
	古田嶋 智子	保存科学、保存環境
【教育グループ】		
博物館機能強化のための研究 教育に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
教育普及資料	岩井 真二	教育学
	奥山 英登	博物館教育
	笹木 一義	博物館学
	押野 朱美	アイヌ文化
	シン ウォンジ	学芸職
	カサド バルド ケラール	学芸職
	永石 理恵	学芸職
	両角 佑子	学芸職
	今野 彩	学芸職
	長谷 仁美	学芸職
【国際オフィス】		
博物館の多言語化及び国際交流に関する分野を専門とする		
主担当	氏名	専門分野
国際交流	谷地田 未緒	文化政策
多言語化	権 保慶	日韓比較文学・比較文化、翻訳論

II -02 運営組織

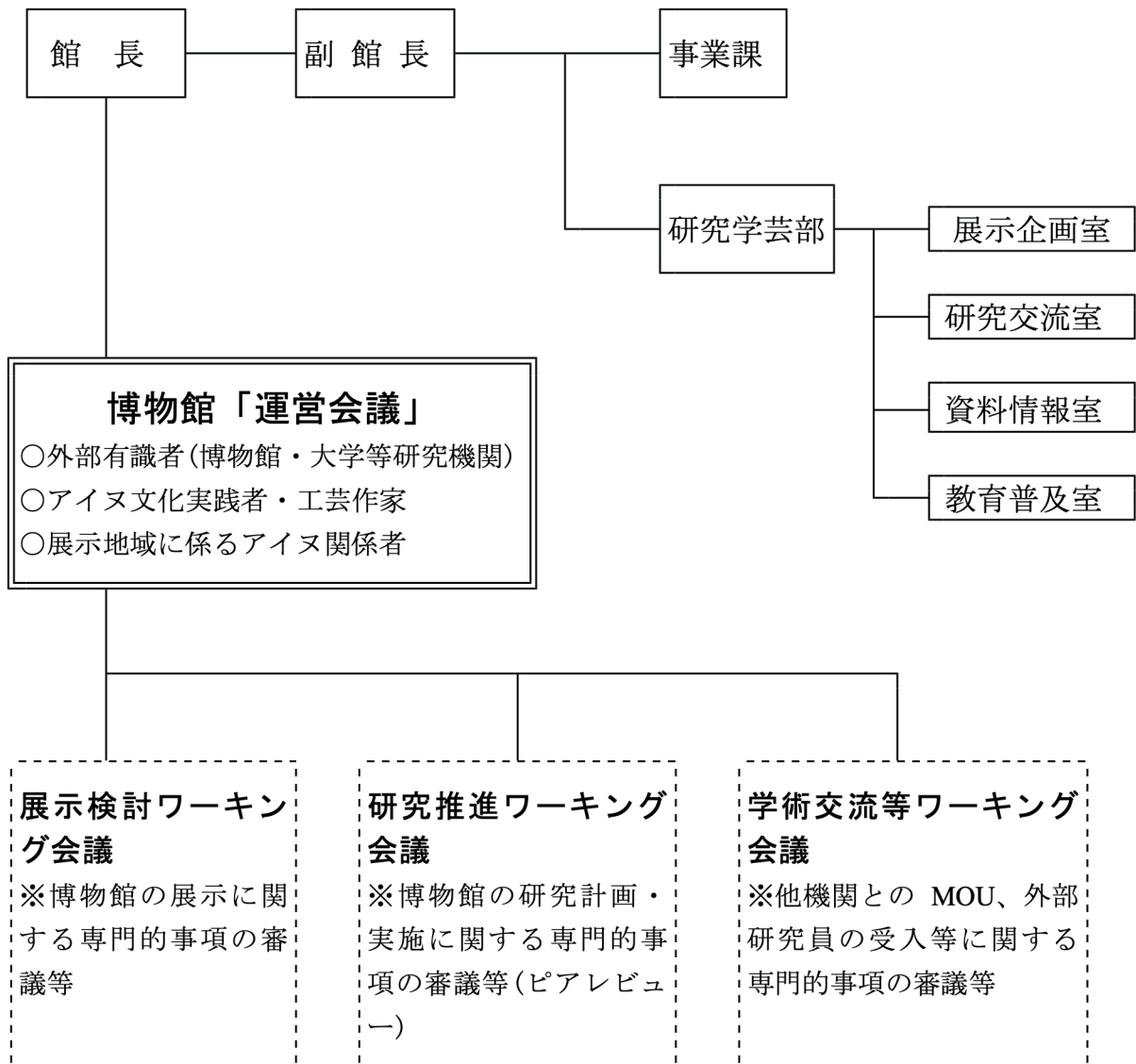
II -02-01 国立アイヌ民族博物館運営会議

国立アイヌ民族博物館では、「博物館の展示及び学術研究等に関する専門事項について、外部有識者及びアイヌ文化実践者等アイヌ関係者（以下「外部有識者等」という）の意見を聞くため」（公財ア事業第51号『国立アイヌ民族博物館運営会議設置要領』（2020年10月30日国立アイヌ民族博物館長裁定）第1条より）、運営会議を置いている。

なお、本運営会議は決定機関ではなく、諮問機関である。

1) 組織

当運営会議では、同要領第3条第4項に基づき、下にワーキング会議を設置している。それに必要な事項は運営会議の座長が別に定めるとあり、また、その構成員も座長が委嘱する。



国立アイヌ民族博物館運営会議組織図

2) 2021（令和3）年度運営会議構成員（五十音順）

氏 名	所 属・職
○秋辺 日出男	阿寒アイヌ工芸協同組合専務理事
秋山 純子	東京文化財研究所保存科学研究センター保存環境研究室長
宇梶 剛士	俳優
大川 勝	北海道アイヌ協会理事長
小川 正人	北海道博物館学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長
貝澤 守	工芸家 二風谷民芸組合代表理事
萱野 志朗	萱野茂二風谷アイヌ資料館館長
川村 久恵	川村カ子トアイヌ記念館副館長
北原 次郎太 モコットウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
齋藤 玲子	国立民族学博物館人類文明誌研究部准教授
◎佐々木 利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授
品川 欣也	東京国立博物館学芸研究部調査研究科考古室長
田澤 守	樺太アイヌ協会会長
谷本 晃久	北海道大学大学院文学研究院教授
中川 裕	千葉大学大学院人文公共学府教授
中村 吉雄	北海道アイヌ協会副理事長
本田 優子	札幌大学地域共創学群教授

◎：座長、○：座長

3) 開催状況

2021（令和3）年度には以下の日程と議題で会議を開催した。

日時：2022年3月17日（木）15:00～17:00

会場：国立アイヌ民族博物館 1階 交流室

議題：

1. 審議事項

(1) 議長と副議長の選出

2. 報告事項

- (1) 研究推進ワーキングの報告
- (2) 展示検討ワーキングの報告
- (3) 学術交流等ワーキングの報告
- (4) 展示企画室の業務について
- (5) 研究交流室の業務について
- (6) 資料情報室の業務について
- (7) 教育普及室の業務について
- (8) その他

4) ワーキング会議開催状況

2021年度は2020年度の運営会議での諮問に基づき、展示検討、研究推進、学術交流等の3つのワーキング会議を組織し、展示、研究、学術交流等の3つの業務について、意見を求め、それに基づき、各業務の改善を図った。

① 展示検討ワーキング会議

2021（令和3）年度構成員（五十音順）

○秋辺 日出男	阿寒アイヌ工芸協同組合専務理事、演出家
大坂 拓	北海道博物館学芸主査
岡田 育子	アイヌ文様刺繍サークルフッチコラチ代表
貝澤 珠美	TAMA kor design ～タマ コロ デザイン代表
佐藤 優香	東京大学大学院情報学環客員研究員
関根 真紀	二風谷工芸組合
百瀬 響	北海道教育大学教育学部札幌校教授
山崎 幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授

○：座長

開催状況

日時：2022年1月25日（火） 13:30～15:30

場所：国立アイヌ民族博物館 1階 研修室 オンライン併用

検討事項：

- (1) 基本展示室に関する事項
- (2) テーマ展示、特別展示及びその他展示事業に関する事項
- (3) その他

② 研究推進ワーキング会議

2021（令和3）年度構成員（五十音順）

秋山 純子	東京文化財研究所保存科学研究センター保存環境研究室長
五十嵐 聡美	北海道立三岸好太郎美術館副館長
小川 義和	国立科学博物館調査役
小野 哲也	標津町ポー川史跡自然公園園長
北原 次郎太 モコットウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
中川 裕	千葉大学名誉教授
○谷本 晃久	北海道大学大学院文学研究院教授

○：座長

開催状況

日時：2021年7月12日（月） 13:00～15:00

場所：国立アイヌ民族博物館 1階 研修室 オンライン併用

検討事項：

- (1) 国立アイヌ民族博物館調査研究プロジェクト事業について
研究体制について

調査研究における基本計画について

(2) 令和3年度調査研究プロジェクト課題について

③ 学術交流等ワーキング会議

2021（令和3）年度構成員（五十音順）

小川 正人	北海道博物館学芸副館長
○加藤 博文	北海道大学アイヌ・先住民研究センター長
齋藤 玲子	国立民族学博物館学術資源研究開発センター准教授
品川 欣也	東京国立博物館学芸研究部調査研究課考古室長
本田 優子	札幌大学地域共創学群教授

○：座長

開催状況

2021年度は開催せず。

II -02-02 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会

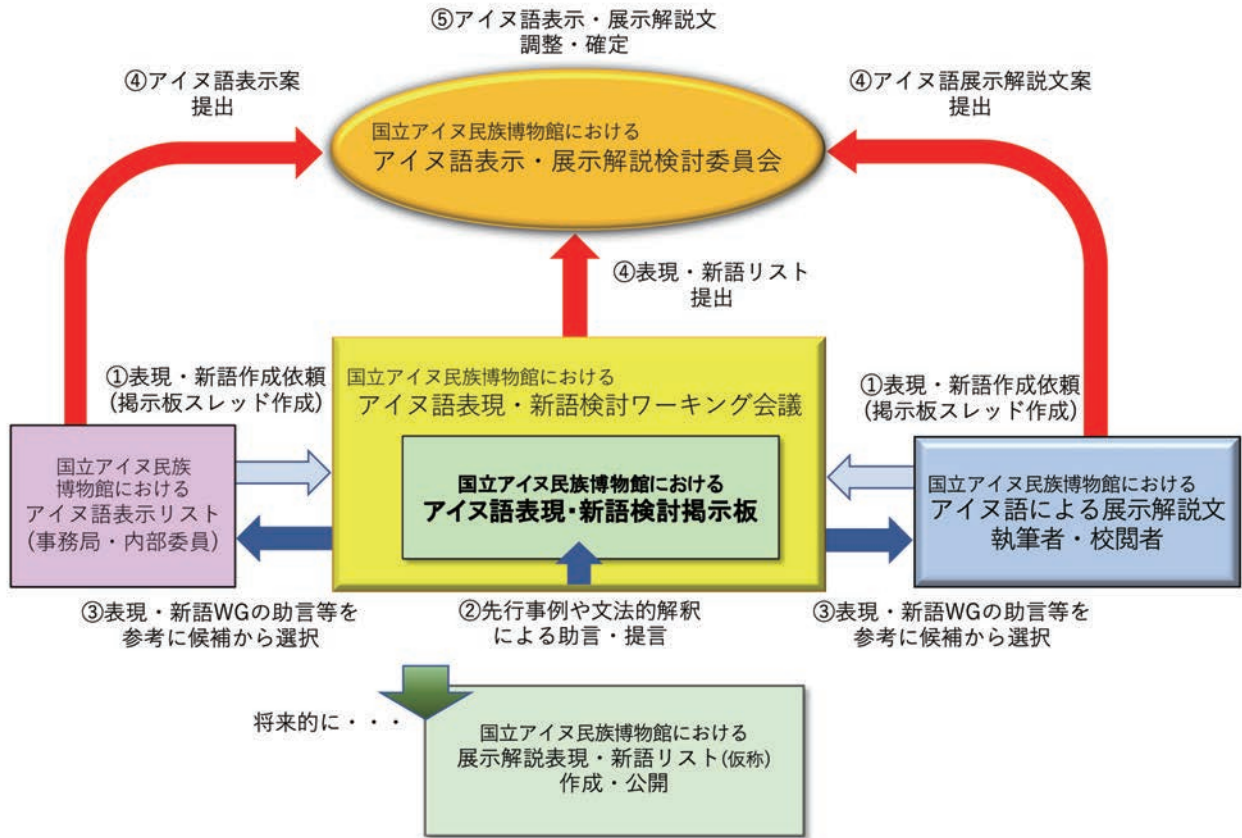
博物館におけるアイヌ語の表示と展示に用いるアイヌ語の表記の方法、方言の選定、新しい言葉の作成に際してのガイドラインなどについて検討するために、2017（平成29）年度に当時の（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構が「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会」を設置した。また、この委員会の設置要綱第3条第3項に基づいて、博物館で使用する数多くの専門用語をアイヌ語で表現するための新しい言葉について議論するために、同財団は2018（平成30）年度に「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議」を設置した。

この委員会とワーキング会議は、当初は博物館内のアイヌ語の表示について検討することが主目的だった。しかし、ウポポイ（民族共生象徴空間）全体でのアイヌ語のあり方についての議論が必要になったために、事実上ウポポイにおけるアイヌ語表示についての議論をする委員会とワーキング会議となった。

この委員会とワーキング会議は2020（令和2）年度の博物館の正式な発足に伴い、設置母体が博物館に変更された（委員委嘱者が財団理事長から博物館長に変更）。

1) 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語検討の仕組み

アイヌ語表示・展示解説文作成イメージ（案）



2) 2021（令和3）年度アイヌ語表示・解説検討委員会構成員

氏名	所属・職
大須賀 るえ子	白老楽しく・やさしいアイヌ語教室講師
奥田 統己	札幌学院大学人文学部教授
○萱野 志朗	萱野茂二風谷アイヌ資料館館長
北原 次郎太 モコットゥナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
佐藤 知己	北海道大学大学院文学研究院教授
関根 健司	平取町教育委員会生涯学習課学校教育係係長
◎中川 裕	千葉大学名誉教授
中村 吉雄	公益社団法人北海道アイヌ協会副理事長 千歳アイヌ協会会長
本田 優子	札幌大学教授
村木 美幸	アイヌ民族文化財団民族共生象徴空間運営本部副本部長

◎：委員長、○：副委員長

3) 2021（令和3）年度アイヌ語表現・新語検討ワーキング会議構成員

氏 名
奥田 統己
神崎 雅好
○北原 次郎太 モコットウナシ
◎佐藤 知己
関根 健司
八谷 麻衣
浜田 隆史

◎：座長、○：副座長

4) 2021（令和3）年度実施状況

2021（令和3）年度には以下の日程で委員会とワーキング会議を開催した。

◆ 第1回委員会

日時：令和3年9月27日（月）13:00～15:00

会場：国立アイヌ民族博物館 交流室（オンラインシステムを併用）

議事：

1. 開会
2. 委員長・副委員長の選出
3. 議事
 - (1) 今年度の予定について
 - (2) 今年度のアイヌ語による展示解説文の執筆について
 - (3) 今年度のアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議について
 - (4) その他
4. 閉会

◆ 第2回委員会

日時：令和3年12月13日（月）午前の部：9:00～12:00、午後の部：13:00～14:30

会場：国立アイヌ民族博物館 交流室（オンラインシステムを併用）

議事：

1. 開会
2. 議事

パネリストとして各専門分野の講師3名を招き、各講演後に行われるディスカッションにおいてこれまでのアイヌ語表示・展示検討に関する取り組みについて議論。

○午前の部

- 9:00-9:30 導入／国立アイヌ民族博物館およびウポポイのアイヌ語の取り組みと課題
- 9:30-10:10 パネリスト1：手話の事例／神田和幸氏
（国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 外来研究員）
- 10:10-10:20 質疑・応答

- 10:20-10:30 休憩
10:30-11:10 パネリスト2：ハワイ語の事例／大原由美子氏
（ハワイ大学ヒロ校 ハワイ語学部 准教授）
11:10-11:20 質疑・応答
11:20-12:00 ディスカッション①

○午後の部

- 13:00-13:40 パネリスト3：言語政策・計画について／大友瑠璃子氏
（北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 准教授）
13:40-13:50 質疑・応答
13:50-14:20 ディスカッション②
14:20-14:30 まとめ

3. 閉会

◆ 第3回委員会

日時：令和4年3月22日（火）15:00～17:00

場所：国立アイヌ民族博物館 交流室（オンラインシステムを併用）

議事：

1. 開会
2. 議事
(1) 今年度に執筆したアイヌ語による展示解説文について
(2) 今年度にアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議で検討した内容について
(3) 次年度のスケジュール等について
(4) その他
3. 閉会

◆ 第1回ワーキング

日時：令和3年12月13日（月） 午前の部：9:00～12:00、午後の部：13:00～14:30

会場：国立アイヌ民族博物館 交流室（オンラインシステムを併用）

議事：

1. 開会
2. 議事

パネリストとして各専門分野の講師3名を招き、各講演後に行われるディスカッションの時間においてこれまでのアイヌ語表示・展示検討に関する取り組みについて議論。

○午前の部

- 9:00-9:30 導入／国立アイヌ民族博物館およびウポポイのアイヌ語の取り組みと課題
9:30-10:10 パネリスト1：手話の事例／神田和幸氏
（国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 外来研究員）
10:10-10:20 質疑・応答
10:20-10:30 休憩

10:30-11:10 パネリスト2：ハワイ語の事例／大原由美子氏
(ハワイ大学ヒロ校 ハワイ語学部 准教授)

11:10-11:20 質疑・応答

11:20-12:00 ディスカッション①

○午後の部

13:00-13:40 パネリスト3：言語政策・計画について／大友瑠璃子氏
(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 准教授)

13:40-13:50 質疑・応答

13:50-14:20 ディスカッション②

14:20-14:30 まとめ

14:45-15:45 座長・副座長の選出、今年度のワーキング会議について

3. 閉会

◆ 第2回ワーキング

日時：令和4年2月25日(金) 15:30～17:30

会場：ウポポイ(民族共生象徴空間)内 管理棟2F(オンラインシステムを併用)

議事：

1. 開会

2. 議事

(1) 表現・新語に関するディスカッション

・名詞形成の規則、新語についての考え方、翻訳と歴史的評価について
(話題提供者：佐藤知己先生)

・質疑・応答およびディスカッション

(2) 表現・新語の検討

(3) その他

3. 閉会

II -02-03 その他の運営組織

1) 外部委員を含むもの

アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク運営委員会(詳細はIV-04参照)

国立アイヌ民族博物館鑑査会議(詳細はIV-05参照)

国立アイヌ民族博物館買取協議会(詳細はIV-05参照)

国立アイヌ民族博物館買取評価(詳細はIV-05参照)

国立アイヌ民族博物館寄贈評価(詳細はIV-05参照)

2) 館内の会議、委員会

博物館連絡会議

博物館全体会議

情報セキュリティ委員会

図書委員会

ニュースレター「アヌアヌ」編集委員会

III 施設

III -01 施設概要

III -01-01 整備の基本方針

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和
- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

III -01-02 施設概要

建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）

延べ面積：約 8,600m²（1階：3,500 m²、2階：4,800 m²、3階：300 m²）

規模：地上3階

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

設計：久米設計

建築：竹中・田中特定建設企業体





国立アイヌ民族博物館 概要

整備の基本方針

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ポロト湖畔の自然景観等，周辺環境との調和
- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点



※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており，本イメージ図には含まれていない。



施設概要

建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）
 延べ面積：約8,600㎡
 規模：地上3階
 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館 建物基本設計」より

III -02 建物の整備の基本方針と計画内容

（文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館 建物基本設計」より）

基本方針① ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和

- 自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和
 - ・ポロト湖畔周囲に広がるすり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状
 - ・展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保
- 国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出
 - ・来館者が公園と相互に利用できるよう、公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置


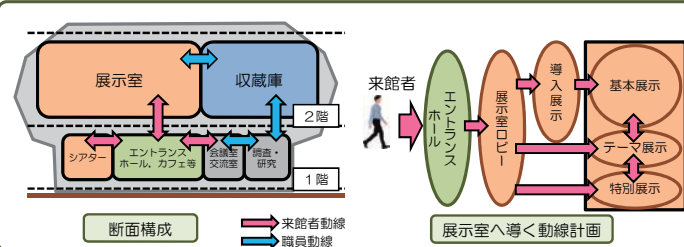
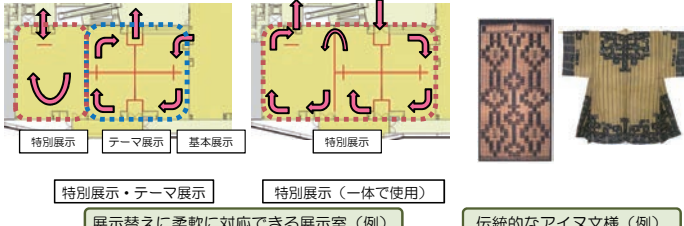
基本方針② アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点

- 来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画
 - ・展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く、期待感を高められる動線計画
 - ・映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター、アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意
- 確実な資料保存や研究に必要な空間の確保
 - ・貴重な資料を展示、収蔵するため、展示室や収蔵庫の適切な環境を維持するとともに、調査・研究に必要なスペースを用意

基本方針③ 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

- 展示替えに対応できる展示室
 - ・展示室に可動間仕切り壁を設置し、国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応
- 多言語対応、アイヌ文様の活用
 - ・アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画
 - ・アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現

国立アイヌ民族博物館 建物の整備の基本方針と計画内容

<p>【基本方針①】 ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和</p> <p>○自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポロト湖畔周囲に広がる、すり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状 ・展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保 <p>○国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者が公園と相互に利用できるように、公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置 	 <p style="text-align: center;">ポロト湖周辺の自然との調和 ポロト湖畔を眺望できる展示室ロビー</p>
<p>【基本方針②】 アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点</p> <p>○来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く、期待感を高められる動線計画 ・映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター、アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意 <p>○確実な資料保存や研究に必要な空間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な資料を展示、収蔵するため、展示室や収蔵庫の適切な環境を維持するとともに、調査・研究に必要なスペースを用意 	 <p style="text-align: center;">断面構成 来館者動線 展示室へ導く動線計画</p>
<p>【基本方針③】 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点</p> <p>○展示替えに対応できる展示室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室に可動間仕切り壁を設置し、国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応 <p>○多言語対応、アイヌ文様の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画 ・アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現 	 <p style="text-align: center;">展示替えに柔軟に対応できる展示室（例） 伝統的なアイヌ文様（例）</p>

文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館 建物基本設計」より

参考：博物館の建物を飾るアイヌの伝統的な文様について

博物館内には要所要所にアイヌ文様を図案化した模様を入れている。

例えば、博物館のメインエントランスの自動ドアの周囲には、アイヌのゴザ文様を図案化した模様を金属板で表現し、自動ドアのガラス面には衣服の文様にヒントを得た模様を入れて、この博物館がアイヌ文化を展示する博物館であることを強調している。また、透明なガラスに貼り付ける衝突防止用シートにも、アイヌ文様を図案化した模様を使用している。

1階ロビーからエレベータールームに向かう入り口の自動ドアには、アイヌの衣服に使われる切り伏せと刺繍の文様を施し、同じ模様をインフォメーション奥の壁面に投影している。また、1階と2階のトイレの洗面台の鏡にもアイヌ文様を図案化した模様を入れた。

これらの文様、模様はいずれも、文化伝承者でアイヌの服飾や刺繍を数多く手がけてきた津田命子氏がデザインしたものである。

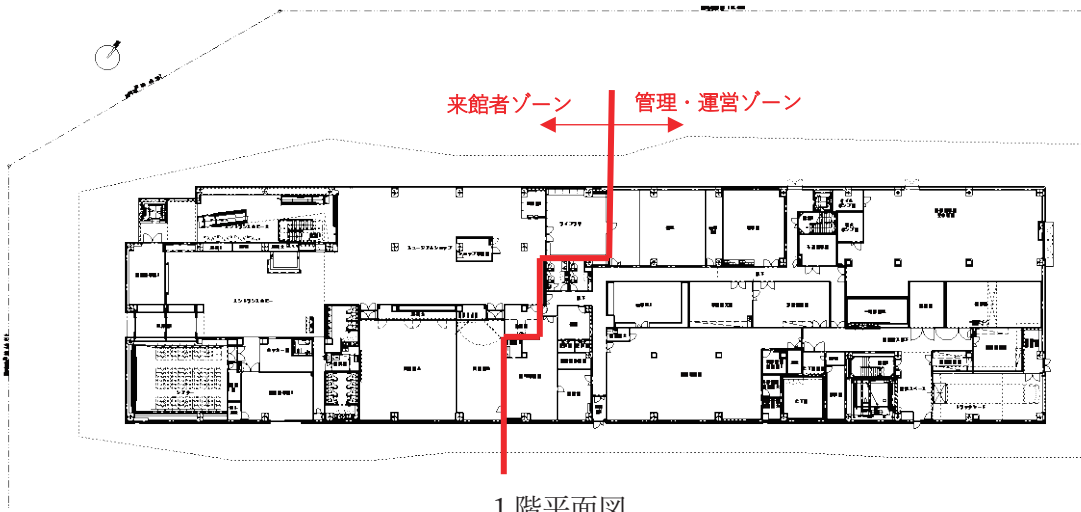


正面エントランスを飾るゴザ文様を図案化した模様

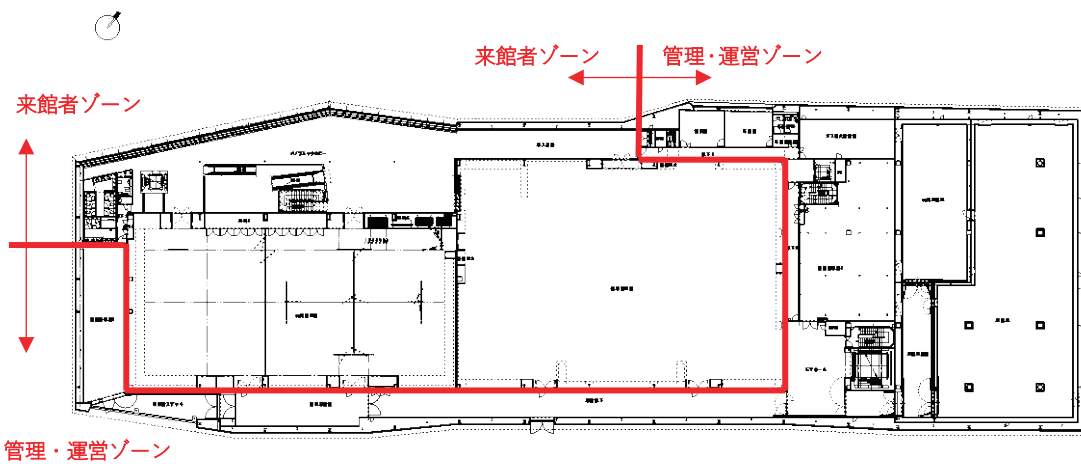


1階ロビーからエレベータールームへ続くドアのアイヌ文様

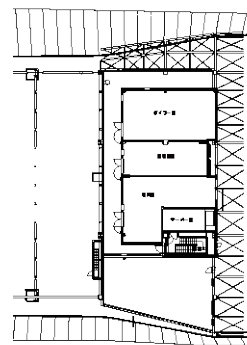
III -03 建物の平面図



1階平面図

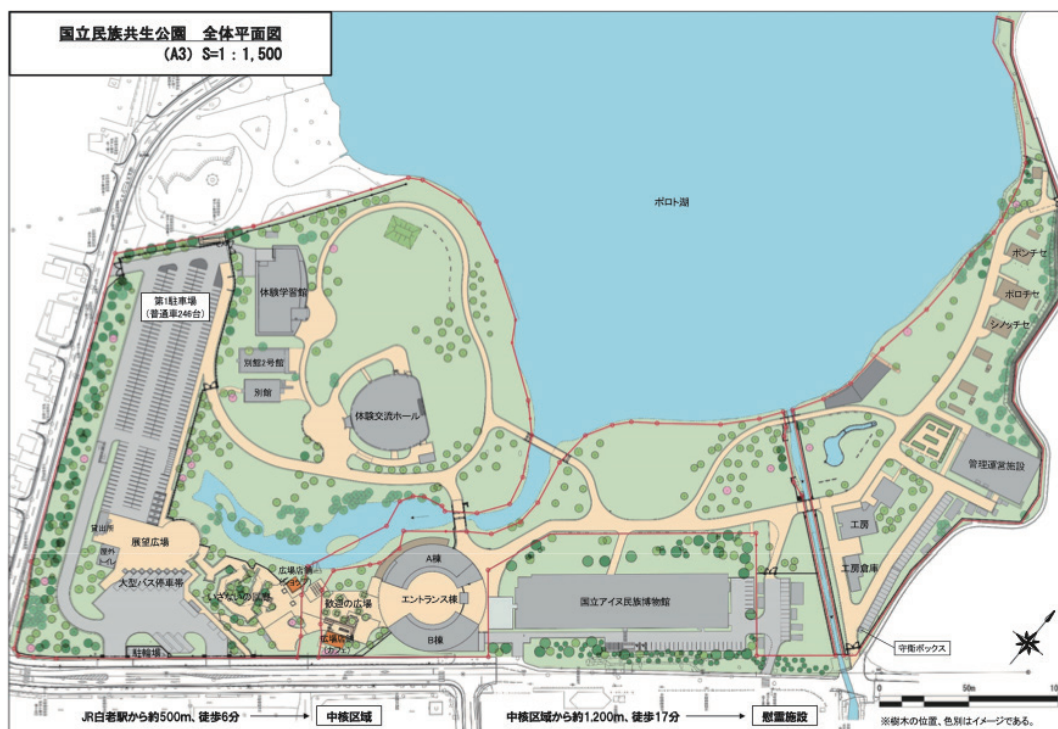


2階平面図



3階平面図

参考図 国立民族共生公園 全体平面図



III -04 1 階の施設

1階の施設は一般来館者を迎え入れる「来館者ゾーン」と博物館のバックヤードである「管理・運営ゾーン」とに大別できる。

○ 来館者ゾーンの施設

風除室、エントランスロビー、シアター、交流室、ライブラリー、ミュージアムショップ、ロッカー室、救護室、トイレ

○ 管理・運営ゾーンの施設

管理事務室、警備員室、休憩室、調査研究室、物品庫1、書庫、物品庫2、研修室、修復復元室、分析実験室、CT室、資料一時保管庫、燻蒸室、撮影室、梱包荷解室、トラックヤード、資料整備室、機械室

ここでは、そのうち主立った施設を紹介する。

III -04-01 1階来館者ゾーンの施設

アパサム（エントランスロビー）

大勢の来館者を迎えるため、風除室を2重とすることで館内空気環境の安定と防虫対策を行った。また、2階の展示室に向かうエスカレーター等の交通部分を区画することで、さらなる防虫対策を行った。（国土交通省北海道開発局営繕部編『国立アイヌ民族博物館事業記録』2020年、p.76）



建物完成直後のメインエントランス（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

正面エントランスを入ると総合案内がお客様を迎え、壁面にはアイヌ語をはじめとした多言語による館内案内が映像で表示される。ロッカーやデジタルサイネージなどの設備も備えられている。2階の展示室に向かう途中には、6面マルチモニターによる「アイヌ文化ゆかりの地ガイド」があり、アイヌ民族のこれまでの歩みや、現代のアイヌ文化に触れられる場所を紹介する。

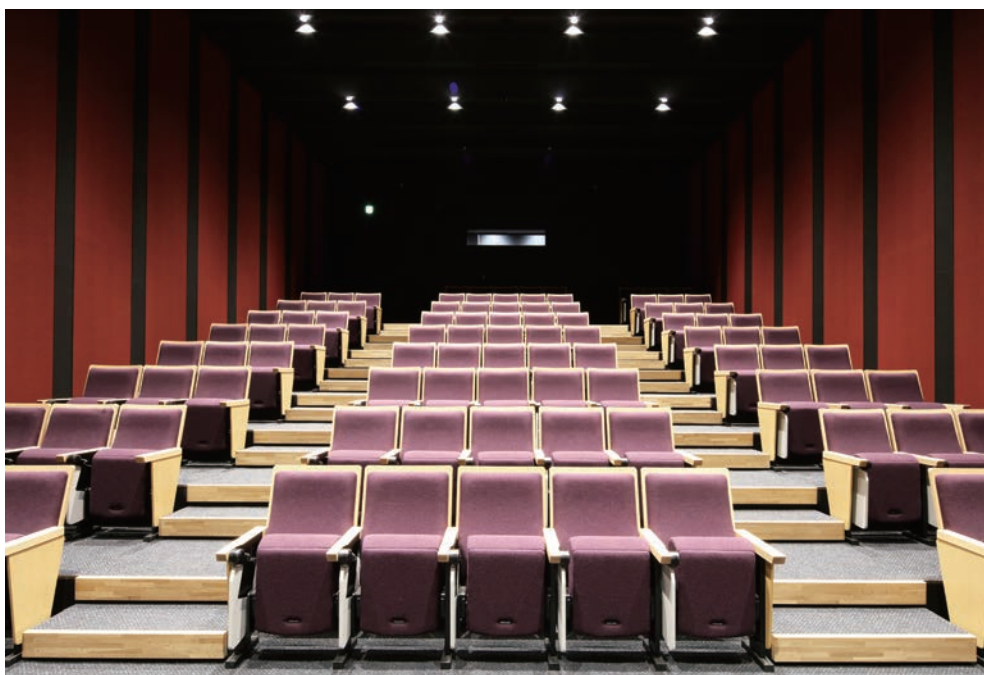


ミュージアムショップから6面マルチ画面方面への眺め

イノカヌカラ トウンブ（シアター）

1階にはアイヌ文化を映像でわかりやすく紹介するシアターがある。

座席数96席、入場無料。アイヌ文化を大画面映像でわかりやすく紹介する。現在用意しているプログラムは2本で、どちらも上映時間は約20分である。映像プログラム「アイヌの歴史と文化」では、人類が日本列島にやってきてから現代までのアイヌ民族の歴史と文化についてわかりやすく解説する。また、映像プログラム「世界が目にしたアイヌの技」では、18世紀以降、世界から高い注目を集め、ヨーロッパとアメリカの博物館に約1万点収蔵されているアイヌ民族資料について紹介する。



建物完成直後のシアター（両写真とも提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

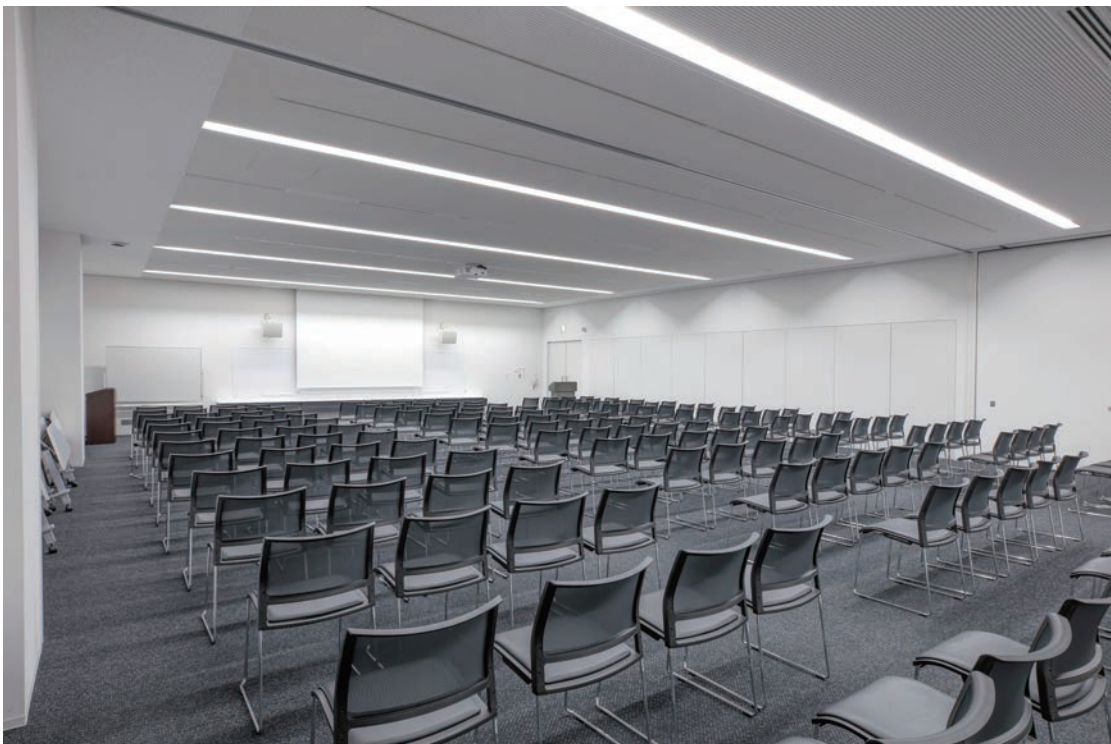
ウウェネウサラ トウンブ（交流室）

館主催の教育普及事業や修学旅行での説明会（「はじめてのアイヌ博」）など来館者対応に利用する他、館の会議や研究集会、研修、ウポポイ全体での集会や会議など多目的に利用するためのスペース。スクリーン、プロジェクター、ホワイトボード、演台、マイク・スピーカーシステム、ビデオカメラなどプレゼンや会議に必要な装置を備える。

間仕切りによってAとBの区画に区切ることができる。

広さ：約 274 m²（交流室A：約 186 m²、交流室B：約 88 m²）

最大収容人数 A・B合わせて 150 名



交流室

カンピソシヌカラ トウンブ（ライブラリ）

アイヌに関する書籍を閲覧できるライブラリは、立ち寄りやすいようにガラスの間仕切りとし、室内の壁面には CLT で制作した棚を配置した（国土交通省北海道開発局営繕部編『国立アイヌ民族博物館事業記録』2020年、p.76）。開館後は開架式図書室として、新型コロナウイルス感染症対策のため入室者数を制限しながら運用している。



建物完成直後のライブラリ（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



ライブラリ内部

イコロマケンル イホク ウシ (ミュージアムショップ)

1階北側の湖に面した空間にミュージアムショップが設置されている。ここでは木彫、刺繍などのアイヌ工芸品の他、アイヌ文様をデザイン化した商品、アイヌ料理の缶詰・レトルト食品、アイヌの歴史と文化についての書籍などを販売している。また、コーヒー他の飲料も販売され、湖に面した席で軽い飲食も可能。



ミュージアムショップ

チエトウン スウォフ オマトウン (ロッカー室)

博物館内を快適に観覧できるよう、荷物を一時的に保管するコインロッカーを180基設置した(解錠時にコインは返還)。



ロッカー室

イカオイキ トゥンプ（救護室）

来館者の急な体調不良などに備え、来館者ゾーン内に救護室を設けた。2基のベッドと洗面台を備えており、体調不良の来館者が一時的に休憩できるようにしている。

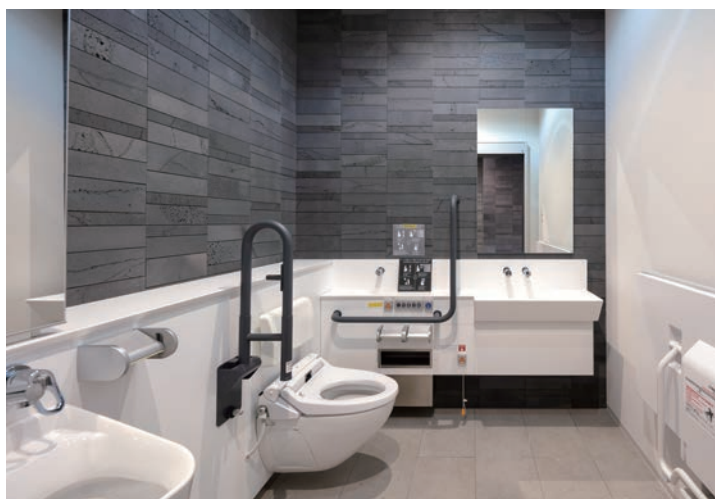


救護室

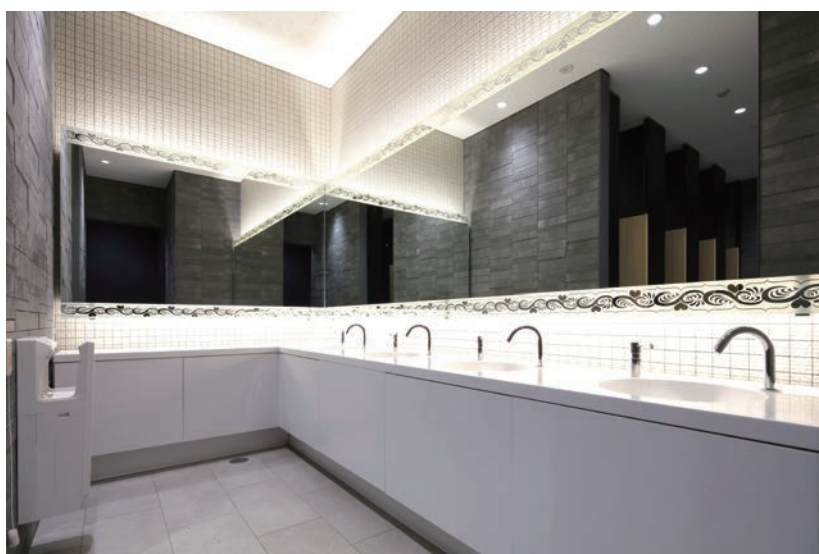
アシシル・セブ アシシル （トイレ・多目的トイレ）

来館者ゾーンの1階と2階のトイレには必ず多目的トイレを設置し、障がいを持つ人だけでなく、様々なニーズを持つ人が利用できるようにした。

また、男女のトイレの手洗い場の鏡に津田命子氏デザインのアイヌ文様を図案化した模様を施し、トイレ空間に華やぎを持たせた。



多目的トイレ（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



手洗い場の鏡のアイヌ文様（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

III-04-02 1階管理・運営ゾーンの施設

キャンパスエントランス（調査研究室）

研究学芸部の研究員、学芸員が研究業務に従事する部屋である。広大な一間だが、中をブースで仕切り、研究に集中できる環境を整えている。打合せ用のブースとテーブル、研究員、学芸員がすぐに必要とする図書、資料等を収納する書棚、コピー・印刷機なども設置されている。

調査研究室に隣接して映像音響室が3室並び、また、各課、室の必要な書類等を収納するための物品庫も設けられている。



建物完成直後の調査研究室（写真提供：北海道開発局営繕部）

ヤイパカシストウンプ（研修室）

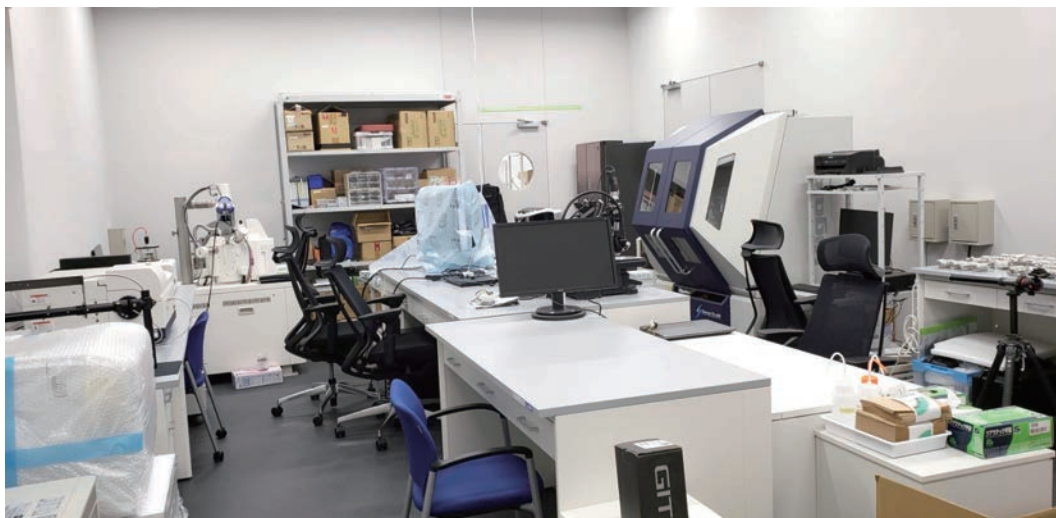
研修室は会議、打合せ、研究会、研修、資料熟覧など多目的に使える部屋である。食文化に関する研修もできるように水道、流し台、給湯設備も設けられている。また、ホワイトボードの他、モニター、マイクروفオン、スピーカーなどペーパーレスの会議やリモート会議、各種プレゼンにも対応できる設備も備えた。普段は机をロの字型に並べた会議形式の調度配置をしているが、用途に応じて机、椅子の並びは自由に変更できる。



研修室（左：窓方面、右：出入口方面）

イコロ ウワンテ トウンブ（分析調査室）

当博物館では収蔵資料の科学分析も調査研究の一環として重視しており、またその成果を展示に活用している。当館で使用する分析機器には、蛍光X線分析装置、携帯型蛍光X線分析装置、X線回折装置、走査電子顕微鏡、X線CT装置、レントゲン装置、デジタルマイクロスコープ、三次元蛍光分光分析装置、ハイパースペクトルカメラ、キセノン型耐候試験機、純水製造装置、恒温恒湿装置、恒温装置、真空凍結乾燥機、3Dプリンタ、3Dスキャナがある。



分析調査室

蛍光X線分析装置



資料表面の元素分析を行う装置。アイヌ民族資料の中で、特に金属製品や絵画資料の調査に利用。鉄 (Fe) や銅 (Cu) の様に、資料を構成する元素分析から、利用された材料の調査を行う。

X線回折装置



資料表面の化合物を調べる装置。アイヌ民族資料の中で、特に金属製品の調査に利用。例えば、鉄を調査した場合、酸化鉄 (Fe_3O_4) か塩化鉄 (FeCl_2) など、化合物の情報が得られる。この情報を基に、劣化具合の判断や修復方法の検討を行う。

走査電子顕微鏡



資料表面を数万倍まで拡大し観察する装置。拡大面の元素分析も可能。アイヌ民族資料の脱落片（繊維片、漆片、金属片等）の調査から、素材の加工法等を観察する。

三次元蛍光分光分析



資料表面の光学情報を捉える装置。アイヌ民族資料中で、特に染色製品（衣類等）の調査に利用。退色や繊維の劣化の様子などを調査し、劣化診断やコンディション向上に関する検討を行う。

分析調査室・CT室の利用について

★導入した分析装置一覧

・内部構造調査装置

調達機器
X線CT装置
レントゲン装置

・材質調査装置

調達機器
蛍光X線分析装置
携帯型蛍光X線分析装置
X線回折装置
三次元蛍光分光分析装置
ハイパースペクトルカメラ

・表面等観察装置

調達機器
走査電子顕微鏡
電動型ズーム顕微鏡、実体顕微鏡
デジタルマイクロスコープ
3Dスキャナ（広域用・高精細用）
3Dプリンタ

・処置装置類

調達機器
恒温恒湿装置
恒温装置
真空凍結乾燥機
生物処理装置（二酸化炭素殺虫処理装置）
キセノン型耐候試験機

CT トランプ（CT室）

当館には最新のコンピュータ断層撮影装置（X線CT）を備えた分析室がある。X線の漏洩を防ぐため、壁、天井、床は鉛張りとなっている。



X線断層撮影装置（CT）

X線断層撮影装置（CT）の概要

資料内部を三次元的に観察できる装置。アイヌ民族資料の中でも立体物の調査に利用。非破壊で安全に資料構造の把握や内面加工の観察ができる。（2021年度/23件調査）

機器寸法 左右幅：約3760mm 総高：約2900mm 奥行：約980mm

撮影範囲 高さ：1400mm程度 直径：600mm程度

特 徴 ・アイヌ民族資料に合わせ装置性能を設計。

- ・金属製品等の資料を調査する高出力管球と、木製品等の細部を調査する管球を有する。
- ・画像検出器は、フラットパネルを使用。

イパカレ トランプ（燻蒸室）

博物館に搬入した直後の展示・収蔵資料には、文化財を劣化させる害虫が付着していたり内蔵していたりする場合がある。この部屋は、害虫や蛹、卵等の生物処理（二酸化炭素処理）を行うための部屋である。害虫の付着が見られない場合の経過観察でも使用する。ただし、カビの除去はこの装置ではできないため、アウトソーシングしている。



二酸化炭素処理装置

イノカ ウェットアップ (撮影室)

展示図録や調査研究、資料管理等に使用するための写真を撮影する部屋。大型照明装置、資料の背景となるスクリーン、資料を置く机などが装備されている。また天井近くにはキャットウォークが設置されており、そこから床面に向かって真下に撮影することができる。



撮影室

III -05 2階の施設

2階の施設も1階と同様に一般来館者を迎え入れる「来館者ゾーン」と博物館のバックヤードである「管理・運営ゾーン」とに大別できる。

○ 来館者ゾーンの施設

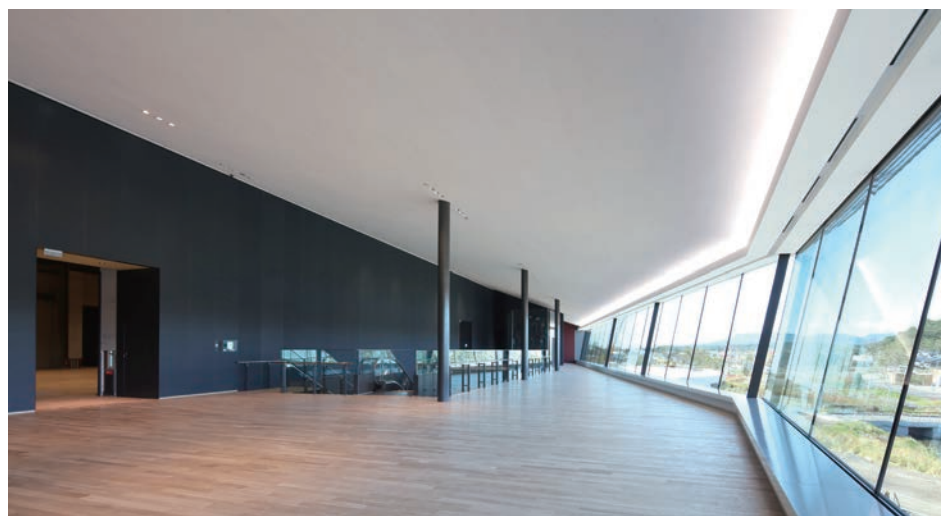
パノラミックロビー、基本展示室（導入展示、プラザ展示、6テーマの展示、探究展示 テンパテンパ）、特別展示室、トイレ、エレベーター、エスカレーター

○ 管理・運営ゾーンの施設

展示準備室、収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫、館長室、応接室、機械室

III -05-01 来館者ゾーンの施設

インカウシ（パノラミックロビー）



建物完成直後のパノラミックロビー（上：冬景色、下：基本展示室入口からの眺め）
（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

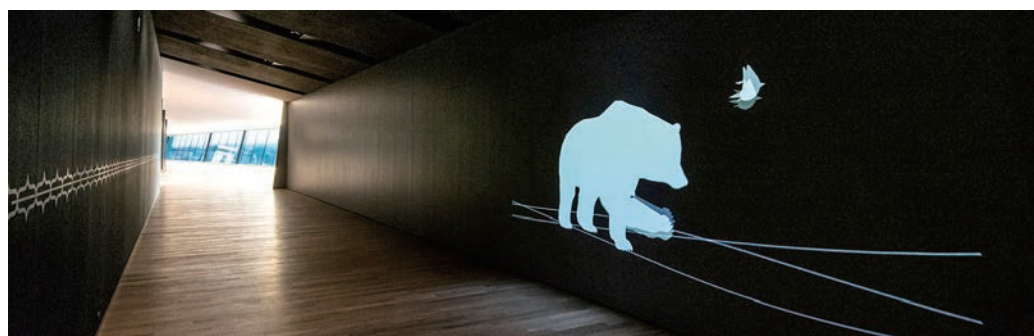
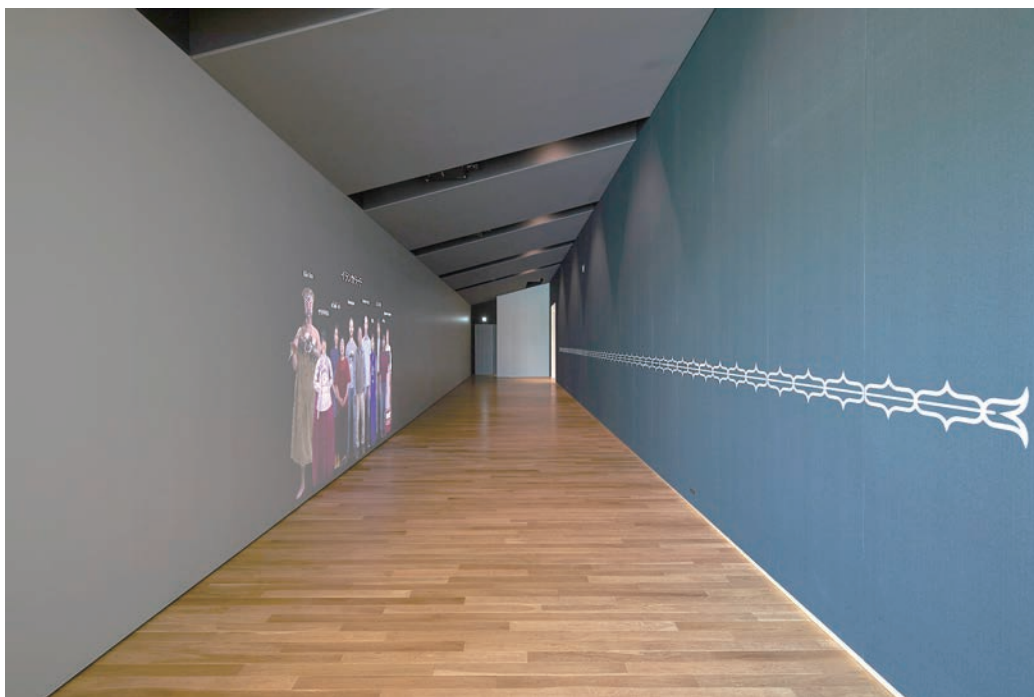
1階のエントランスロビーからエスカレーターで2階に上がると、まず目に飛び込むのはポロト湖の眺望とウポポイの全景である。それらを見渡すことができるこの大空間をパノラミックロビーと呼ぶことにしている。ここでは四季を通じてポロトの様々な姿を楽しむことができる。

イコロ トウンブ（基本展示室）

約1250㎡ある基本展示室に設置されている基本展示は導入展示、プラザ展示、アイヌの視点で描く6つのテーマ（ことば、世界、暮らし、歴史、しごと、交流）、探究展示 テンパテンパから構成されている。

イアッケウク（導入展示）

ポロト湖を望むパノラミックロビーを抜けると、導入展示が始まる。そこでは、明かりを落としたトンネル状の空間にアイヌ民族を含む世界の諸民族が自分たちのことばであいさつする。その中からアイヌの人々が抜け出して、自分たちの活動を紹介する。世界の民族と出会い、そのひとつの民族であるアイヌの人々が来館者を展示室へ誘う。



導入展示（上：展示場入り口方向、下：待機画面）

アエキルシ（プラザ展示）

この博物館の展示の魅力のひとつは、プラザ方式という中心から周辺へと自由に展示室を回れる構成である。基本展示室の中央に設置したプラザにはアイヌ文化の粋を集めた、芸術品としても高いレベルにある作品を展示して、それを見るだけでもアイヌ文化の概略とすぐれた芸術性を理解できるようにしている。そして、より詳しく知りたい人には周辺の個別の展示を見て理解を深めてもらう構成となっている。



プラザ展示全景



プラザ展示（イナウ）



プラザ展示（女性の装い）

イタク（私たちのことば）

アイヌ語や口承文芸、地名やアイヌ語復興のための現在の取り組みを紹介する。資料の展示だけではなく、アイヌ語に親しめる空間にもなっている。いろいろ端に座っているような気分でアイヌ語の語りを聞くことができるコーナーの他、アイヌ語の仕組みや発音を、ゲームを通して知ることができるコンテンツや、地名や会話についての映像もある。



私たちのことば全景



私たちのことば（囲炉裏）

イノミ（私たちの世界）

アイヌ文化の中で重要な位置を占める精神文化を紹介する展示。ありとあらゆるものにラマツ（靈魂）が宿るという世界観、その中で特に人間（アイヌ）と深い関わりを持つカムイという存在などアイヌの精神世界についてグラフィックを交えて解説する。樺太のクマの霊送り儀礼でクマを繋ぐ高さ6m余りの木の杭は当館で最大の展示物である。その周囲ではさまざまな儀礼に関わる諸道具を、使い方を含めて紹介する。



私たちの世界全景



私たちの世界（樺太アイヌのクマつなぎ杭）

ウレシバ（私たちの暮らし）

装い・食・住まいをはじめ音楽や舞踊、子どもたちの遊びにも触れながら、暮らしの文化について、道具や映像を通じて紹介する。衣服については、樹皮衣に使うオヒョウ樹皮の皮剥ぎから糸づくり、機織りまでを映像と織機類の実物で紹介する他、江戸時代以降に導入された木綿素材の衣服と刺繍についても展示する。また様々な食材と料理、伝統的な住居の構造、人の一生、伝統芸能、さらには伝承に携わる人々の取り組みなども映像や実物資料を交えて紹介する。



私たちの暮らし全景



私たちの暮らし（d.1 今に受け継ぐ衣服と心、d.2 受け継がれる食文化）



私たちの暮らし (d.3住まう)

ウパクマ (私たちの歴史)

アイヌ民族が語り継ぎ、残してきた歴史と、周辺の民族が残したアイヌ民族の足跡を取り上げる。当館では北海道に人が移住してきた約3万年前から当館が開館する2020年までをアイヌ民族の歴史として、その視点で紹介する。上部壁面に事柄とそれに呼応する年代や地図が連動する年表が表示され、アイヌ民族の出来事を次々に紹介するとともに、展示ケースでは各時代をよく表す考古遺物や文書類、さらには実物資料を展示する。



私たちの歴史全景



私たちの歴史 (e.1 遺跡から見た私たちの歴史)



私たちの歴史 (e.3 私たちの生活が大きく変わる)

ネツキ（私たちのしごと）

アイヌ民族が過去から現在にわたって携わってきたしごとを取り上げる。前半は、狩猟・漁撈・農耕・採集など「伝統的」とされてきたしごとで使用された道具やその仕組みを紹介する。一年を通して行うしごとを検索するタッチパネルもある。後半では、明治以降に従事してきたしごとや工芸品を取り上げる。使う道具や作品などを通じて、現代のアイヌ民族の活動などを伝えるとともに、アイヌ民族が来館者と同じ時代を生きる人々であることを理解してもらう。



私たちのしごと全景



私たちのしごと (f.1 先祖のしごと)



私たちのしごと（f.3 現代のしごと）

ウコアブカシ（私たちの交流）

アイヌ民族を取り巻く周辺諸民族との過去から現在にいたるまでの交流を紹介する。展示のシンボルの一つとして北海道厚岸湖出土の板綴舟（厚岸町所蔵）を展示する。そのために厚岸町でクリーニング作業を行い、白老町に輸送後、展示に向けて微細クリーニング・補強処理作業を実施した。また、「北海道」という名称の名付け親である松浦武四郎の事績を紹介するコーナーも設けている。



私たちの交流全景



私たちの交流 (g.1 生活圏と海を越える交流)



私たちの交流 (g.2 外からみたアイヌ文化、g.3 伝統を魅せる)

イケレウシ「テンパテンパ」（探究展示 テンパテンパ）

体験を通じてアイヌ文化にふれることができるコーナー。ジオラマ・住居模型・タマサイ（首飾）作りキット、サケとシカの立体パズルなど、18の体験ユニットがあり、大人も子どもも楽しめる。来館者には探究展示とまわりの6テーマ展示を行き来しながら、アイヌ文化への理解をさらに深めてもらうことをねらっている。（※「テンパテンパ」とは、「さわってね」という意味のアイヌ語。）



探究展示 テンパテンパ t.1



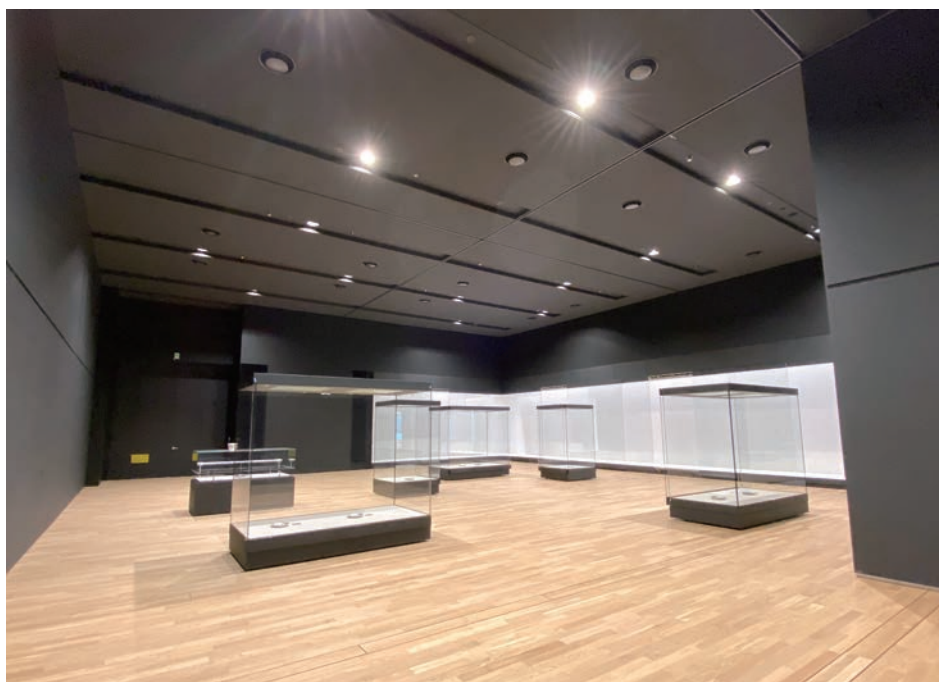
探究展示 テンパテンパ t.2



探究展示 テンパテンパ t.3

シサク イコロ トウンブ（特別展示室）

約 1000 m²ある特別展示室は、規模の異なる特別展示とテーマ展示を実施するために、可動壁によって複数の部屋に仕切ることができる。2021 年度は開催順に、第 1 回テーマ展示：収蔵資料展「イコロー資料にみる素材と技」、第 2 回特別展示：「ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアン ー杉元佐一とアシリバが旅する世界」、第 3 回特別展示：国立アイヌ民族博物館特別展／国立民族学博物館巡回展「ビーズ アイヌモシリから世界へ」、第 2 回テーマ展示：「地域からみたアイヌ文化展 白老コタンの衣服文化」を実施した。



特別展示室



特別展示室

アシナル（トイレ）

来館者ゾーンの1階と2階のトイレには必ず多目的トイレを設置し、障がいを持つ人だけでなく、様々なニーズを持つ人が利用できるようにした。また、男女のトイレの手洗い場の鏡に津田命子氏デザインのアイヌ文様を図案化した模様を施し、トイレ空間に華やぎを持たせた。



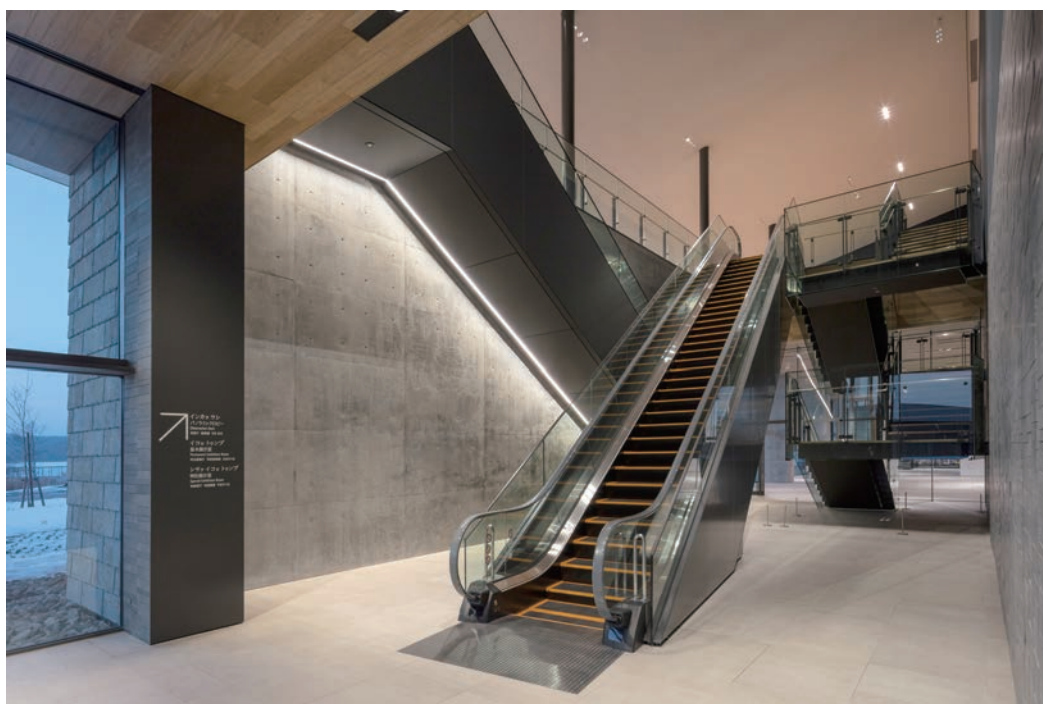
2階トイレ洗面台（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

ニカラ、トウシエリキンベ、シモイエニカラ（階段、エレベーター、エスカレーター）

1階ロビーから展示室へと向かう扉の向こうに広がる吹き抜けに、エレベーター、エスカレーター、階段が設置され、1階と2階とをつないでいる。エレベーターには内部に手すりが設けられ、日英のアナウンスが流れ、点字表示がなされている。



階段（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



エスカレーター（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



エレベーター（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

III -05-02 管理・運営ゾーンの施設

イコロプ（収蔵庫）

当博物館の収蔵庫は、収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫からなる。

収蔵品は、着物、木製品、植物を利用した民具、動物の皮類、金属・石、絵画類、はく製、漆器類など多種多様である。そうした資料たちは、民具等の立体の資料から絵画等の平面の資料というように、多岐にわたる形状を有している。そこで、効率よく安全に収蔵して保管するために特注寸法の収蔵棚を設置した。

また、東北地方太平洋沖地震や北海道胆振東部地震等の災害例を踏まえ、収蔵庫の本体構造は地震等による縦横の揺れが発生した場合でも容易に倒れないものとなっている。

収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫ともに、24時間空調で温度20～22℃、湿度55%を維持することを目標としている。ただし、特別収蔵庫は漆器類を保管しているため、55%よりも若干高めに設定している。

将来的な収蔵資料の増加に備え、メザニン増設も可能な作りになっている。

イコロプセム（収蔵庫前室）

一般収蔵庫や特別収蔵庫が直接バックヤードに面しないための緩衝の役割を果たすとともに、計測器具、薄葉紙、マット等を収納しておくための部屋。資料情報の入力作業や簡易な資料調査も行うことが可能。



収蔵庫前室

イコロプ（一般収蔵庫）

衣類、木製品、植物を利用した民具、動物の皮類、金属・石、絵画類、はく製、舟といった大型資料を収蔵している。



一般収蔵庫全景（右側に舟を収納する棚）



イナウのような民具を立てて収納するための移動集密棚



棚上部には、資料落下防止対策として引き戸を備えている

シサク イコロ プ (特別収蔵庫)

素材により最適な温湿度条件が異なるため、特別収蔵庫にはシントコやトゥキといった漆器類を収蔵している。



特別収蔵庫 (棚設置前、写真提供：久米設計)



特別収蔵庫全景

サパネクル トウンブ（館長室）

館長の執務用のデスクと椅子、書類棚、給湯施設、少人数での打合せのためのテーブルと椅子が設置されている。ここでは4人までの打合せが可能。



館長室

ウエカブ トウンブ (応接室)

内外の賓客等を迎え入れることが可能な応接室。テーブル2脚と椅子8脚が設置され、最大8人での会合が可能。専用のトイレも完備されている。



応接室



応接室

IV 2021（令和3）年度事業

IV-01 2021（令和3）年度主要事項

2021年

(3月30日)

第1回テーマ展示：収蔵資料展「イコロ ～資料にみる素材と技～」開幕（第3期：令和3年3月30日～5月23日）

4月7日

ノルウェー王国 インガ M. W. ニーハマル (Inga M. W. NYHAMAR) 大使来館

5月5日

河瀬直美映画監督視察

6月1日

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の延長による臨時休館（6月20日まで）

6月18日

Zoom ウェビナー「暮らしの変化と文化伝承 ―グリーンランド・イヌイットとアイヌの事例―」（北極域研究加速プロジェクト (ArCSII) 沿岸環境課題、国立アイヌ民族博物館共催）

7月3日

第2回特別展示「ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアン ―杉元佐一とアシリパが旅する世界―」開幕（会期：令和3年7月3日～8月22日）

7月29日

堀井巖参議院議員視察

北村経夫参議院議員視察

大野泰正参議院議員視察

馬場成志参議院議員視察

吉川ゆうみ参議院議員視察

8月9日

小杉善信日本テレビ放送網代表取締役副会長執行役員視察

8月21日

第1回交流室展示「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく、国立アイヌ民族博物館」第1期 開幕（会期：令和3年8月21日～10月3日）

8月31日

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言による臨時休館（9月30日まで）

10月2日

グリーンシード21（超党派の市町村議会議員等の会）視察

第3回特別展示 国立アイヌ民族博物館特別展／国立民族学博物館巡回展「ビーズ アイヌモシリから世界へ」開幕（会期：令和3年10月2日～12月5日）

10月3日

ホリデーイベント アイヌ博×みんぱく共催記念 オープニングイベント『世界のビーズ アイヌのビーズ』

10月9日

山東昭子参議院議長視察

10月14日

小原昇アイヌ総合政策室長視察

10月19日

フィンランド共和国 ペッカ・オルパナ (Pekka ORPANA) 大使来館

10月23日

ホリデーイベント シンポジウム『2万年続くビーズアイランドー 旧石器から近世までの北海道のビーズ史』

10月24日

ホリデーイベント みんぱくビーズ研究最前線①『ビーズの魅力を探る その1：玉からみたアイヌモシリ』

10月29日

ニュージーランド ヘイミッシュ・クーパー (Hamish COOPER) 大使来館

11月6日

佐伯勇人四国経済連合会会長・真弓明彦北海道経済連合会会長視察

ホリデーイベント みんぱくビーズ研究最前線②『ビーズの魅力を探る その2：玉と文明』

11月19日

米国 レイモンド・F・グリーン (Raymond F. GREENE) 臨時代理大使来館

11月20日

ホリデーイベント 講演会『ビーズ つなぐ・かざる・みせる』

12月3日

台湾 粘信士 台北駐日経済文化代表処札幌分処処長来館

12月5日

金子恭之総務大臣視察

12月5日

北海道アイヌ協会と研修者の取扱いに関する協定を締結

2022年

1月12日

パキスタン・イスラム共和国 イムティアズ・アハマド (Imtiaz Ahmad) 大使来館

1月13日

公益財団法人アイヌ民族文化財団と学校法人札幌大学との連携協力に関する協定調印式を交流室にて挙行

1月14日

中山展宏国土交通副大臣視察

1月29日

第1回交流室展示「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく、国立アイヌ民族博物館」
第2期 開幕（会期：令和4年1月29日～2月27日）

2月4日

ボスニア・ヘルツェゴビナ シニシャ・ベリヤン（Sinisa BERJAN PhD）大使来館

2月18日

障害者団体（北海道視覚障害者福祉連合会、北海道ろうあ連盟、室蘭身体障害者福祉協会）視察

2月25日

池光崇観光庁審議官視察

3月15日

第2回テーマ展示：「地域からみたアイヌ文化展 白老コタンの衣服文化」開幕（会期：令和4年3月15日～5月15日）

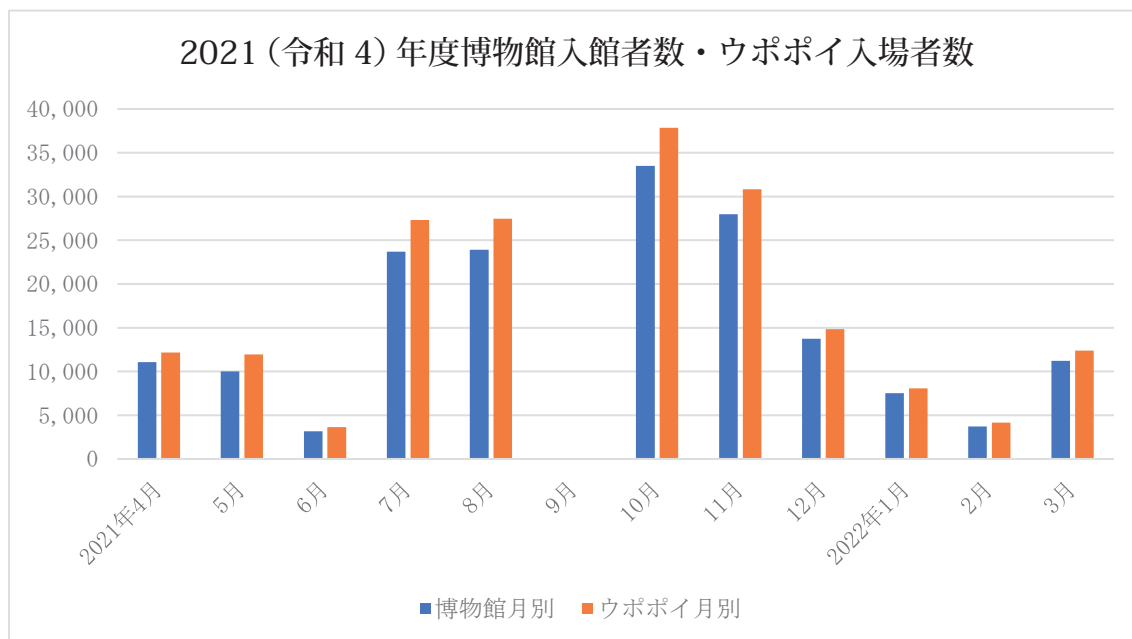
IV -02 入館者数（月別）

2021年

	博物館月別	博物館累計	ウポポイ月別	ウポポイ累計
4月	11,074	11,074	12,165	12,165
5月	10,008	21,082	11,935	24,100
6月	3,174	24,256	3,646	27,746
7月	23,682	47,938	27,302	55,048
8月	23,905	71,843	27,465	82,513
9月	0	71,843	0	82,513
10月	33,502	105,345	37,852	120,365
11月	27,985	133,330	30,814	151,179
12月	13,728	147,058	14,835	166,014

2022年

1月	7,501	154,559	8,075	174,089
2月	3,696	158,255	4,159	178,248
3月	11,213	169,468	12,370	190,618



IV-03 展示

IV-03-01 特別展示の企画立案・計画策定、開催

- 1) 第2回特別展示 「ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアン ― 杉元佐一とアシリバが旅する世界 ―」
 下記のとおり実施した。なお、会期については新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の会期を変更して実施した。

後援者名	北海道、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	令和3年7月3日（土）～8月22日（日）
入場者数	20,520名
入場料金	300円

概要

当展示会では、アイヌ文化をモチーフとした原作の内容に沿って、原画と実物の民具資料をもとに、伝統的なアイヌ料理や動植物との関わり、当時のコタン（村）の生活などについて展示した。また、アイヌ文化だけではなく、作中に登場するサハリン北部、沿海地方およびアムール川流域に住むニヴフや、ツングース系のウイльтаなどアイヌ民族に隣り合う先住民族や、北海道の砂金、日露戦争とアイヌ、小樽などの当時の町の文化など、作品の中心的な歴史的な背景についても紹介した。

20世紀初頭の北海道・樺太を舞台としたアイヌと和人の関係史を軸に、先住民族アイヌの歴史と文化を紹介した。

事業内容	<p>特別協力：集英社「週刊ヤングジャンプ」編集部 出品協力及び展示数：阿寒アイヌ工芸協同組合、旭川市博物館、旭川市図書館、小樽市総合博物館、札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）、新ひだか町博物館、大樹町教育委員会、東北歴史博物館、名寄市北国博物館、登別温泉ケーブル株式会社のぼりべつクマ牧場、博物館 網走監獄、函館市中央図書館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、北鎮記念館、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、北海道大学附属図書館北方資料室、北海道博物館、北海道立北方民族博物館、野外博物館 北海道開拓の村、本館収蔵資料（個人は省略） 約 161 点</p> <p>関連事業：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会：『『ゴールデンカムイ』のアイヌ語監修者・中川先生のお話を聞こう』 令和3年7月23日（金・祝） 参加人数：現地：91人、オンライン：92人 ・研究員・学芸員による特別展示の解説：「日露戦争と、北海道と樺太」 令和3年7月31日（土） 参加人数：30人 ・講演会：「小樽市総合博物館の石川館長のお話を聞こう「いかにして小樽は舞台となったのか？」」 令和3年8月7日（土） 参加人数：現地：35人、オンライン：65人 ・研究員・学芸員による特別展示の解説：「子守唄から知る、生活の中のうたおどり」 令和3年8月14日（土） 参加人数：30人 ・ゲストトーク：『『ゴールデンカムイ』の編集者・大熊さんのお話を聞こう』 令和3年8月22日（日） 参加人数：現地：51人、オンライン：165人 ・第2回エントランスロビー展示「アイヌ文化に興味を持った人に読んでほしいマンガ！特集」
事業成果	<p>本展覧会では、アイヌ文化をモチーフとした漫画『ゴールデンカムイ』（野田サトル作）の内容に沿って、原画と実物の民具資料をもとに、伝統的なアイヌ料理や動植物との関わり、当時のコタン（村）の生活などについて展示した。また、作中に登場するサハリン北部、沿海地方およびアムール川流域に住むニヴフ、ウイльтаなどアイヌ民族に隣り合う先住民族や、北海道の砂金、日露戦争と北海道アイヌ、小樽などの当時の街の文化など、作品の中心的历史的背景についても紹介した。これらの展示により、20世紀初頭の北海道・樺太を舞台としたアイヌと和人の関係史を軸に、先住民族アイヌの歴史と文化に関する正しい認識と理解の促進に大いに寄与するものとなった。</p>
担当者	矢崎・深澤・田村・内田・押野・竹内・ウィンチェスター・永石・笹木



第2回特別展示「ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアン — 杉元佐一とアッシバが旅する世界 —」
© 野田サトル／集英社



第2回特別展示「ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアン — 杉元佐一とアッシバが旅する世界 —」
© 野田サトル／集英社



第2回特別展示「ゴールデンカムイ トゥラノ アブカシアン — 杉元佐一とアシリバが旅する世界 —」
© 野田サトル/集英社



第2回特別展示「ゴールデンカムイ トゥラノ アブカシアン — 杉元佐一とアシリバが旅する世界 —」
© 野田サトル/集英社

2) 第3回特別展示 国立アイヌ民族博物館特別展／国立民族学博物館巡回展

「ビーズ アイヌモシリから世界へ」

下記のとおり実施した。なお、会期については新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の会期を変更して実施した。

後援者名	北海道、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会、北海道新聞社、朝日新聞北海道支社、毎日新聞社北海道支社、読売新聞北海道支社、苫小牧民報社、室蘭民報社、NHK 北海道、北海道放送、STV 札幌テレビ放送、北海道テレビ、北海道文化放送、テレビ北海道、STV ラジオ、AIR-G ‘エフエム北海道、エフエム・ノースウェーブ
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	令和3年10月2日（土）～令和3年12月5日（日）
入場者数	21,682名
入場料金	300円

概要

国立民族学博物館で2017年に開催された特別展「ビーズ—つなぐ・かざる・みせる」の内容をもとに、北海道で発掘されたビーズ、アイヌ民族のビーズを交えて紹介した。

事業内容	出品協力及び展示数：国立科学博物館、北海道立北方民族博物館、北海道埋蔵文化財センター、石狩市教育委員会、大阪市クラフトパーク、小樽市教育委員会、釧路市教育委員会、根室市教育委員会、北斗市教育委員会、浦幌町立博物館、奥尻町教育委員会、白老町教育委員会、知内町教育委員会、平取町教育委員会、余市町教育委員会、礼文町教育委員会、KOBETON ほんぼ玉ミュージアム、タジマ工業株式会社、トーホー株式会社（個人は省略）約500点
	<p>関連事業：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ博×みんぱく共催記念 オープニングイベント『世界のビーズ アイヌのビーズ』 令和3年10月3日（日） 参加人数：39人 ・ホリデーイベント 製作イベント『自分だけのタマサイをつくろう』 令和3年10月16日（土） 参加人数：15人 ・シンポジウム『2万年続くビーズアイランド — 旧石器から近世までの北海道のビーズ史』 令和3年10月23日（土） 参加人数：60人 ・みんぱくビーズ研究最前線①『ビーズの魅力を探る その1：玉からみたアイヌモシリ』 令和3年10月24日（日） 参加人数：42人 ・みんぱくビーズ研究最前線②『ビーズの魅力を探る その2：玉と文明』 令和3年11月6日（土） 参加人数：40人 ・製作イベント『自分だけのタマサイをつくろう』 令和3年11月13日（土） 参加人数：11人 ・講演会『ビーズ つなぐ・かざる・みせる』 令和3年11月20日（土） 参加人数：19人 ・第3回エントランスロビー展示「ビーズ作品の作り手や博物館を探そう！」 <p>関連図書刊行： 池谷和信編『アイヌのビーズ：美と祈りの2万年』平凡社、令和3年3月。</p>

	世界のビーズとアイヌのビーズを比較することによってアイヌ文化の特徴を世界に発信すると同時に、地球上に普遍的にみられるビーズをとおして「人類とは何か」という基本課題を正面から追求するものとなった。
担 当 者	藪中・鈴木・北嶋・八幡・両角・関口



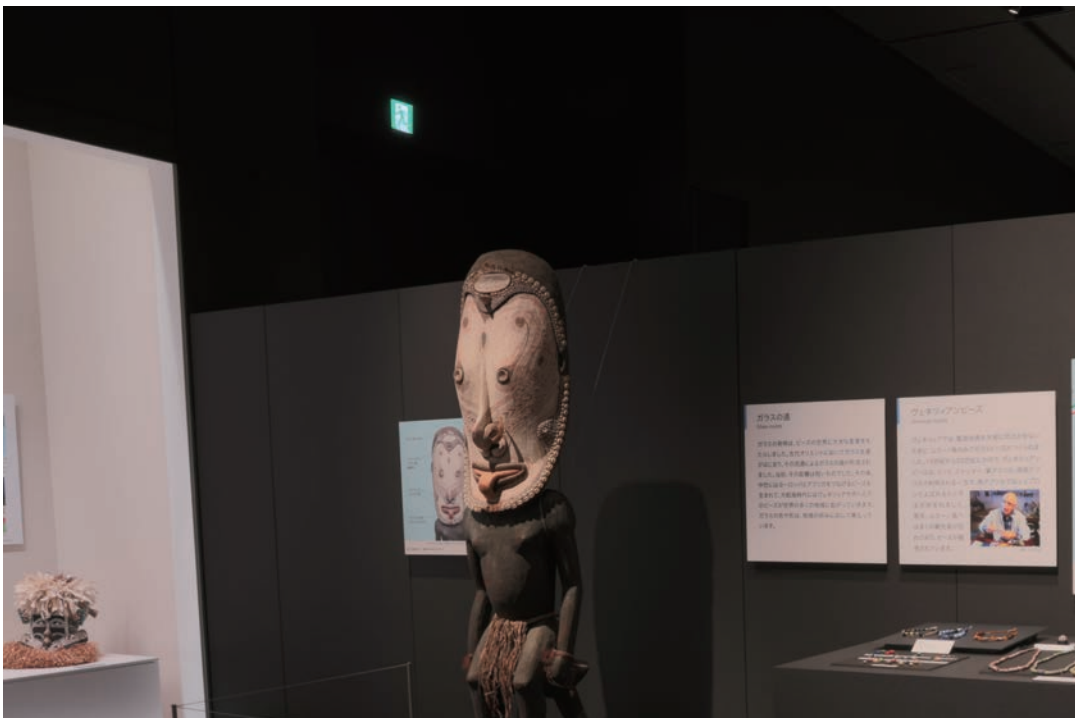
第3回特別展示 国立アイヌ民族博物館特別展／国立民族学博物館巡回展「ビーズ アイヌモシリから世界へ」



第3回特別展示 国立アイヌ民族博物館特別展／国立民族学博物館巡回展「ビーズ アイヌモシリから世界へ」



第3回特別展示 国立アイヌ民族博物館特別展／国立民族学博物館巡回展「ピース アイヌモシリから世界へ」



第3回特別展示 国立アイヌ民族博物館特別展／国立民族学博物館巡回展「ピース アイヌモシリから世界へ」

IV -03-02 交流展示及びテーマ展示の立案・計画策定、開催

1) 第1回交流室展示「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく、国立アイヌ民族博物館」

協 力	苫小牧市社会福祉協議会、苫小牧身体障がい者福祉連合会、苫小牧市点訳赤十字奉仕団 音・映像：春日聡（映像・音響作家、映像人類学者、国立歴史民俗博物館 客員准教授）
実 施 会 場 実 施 期 間	国立アイヌ民族博物館 交流室 B [第1期] 令和3年8月21日（土）～10月3日（日） 当初の会期は9月12日（日）までとされていたが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令に伴い、当館は8月31日（火）から9月30日（木）まで臨時休館となった。そのため会期を10月3日（日）までに変更した。 [第2期] 令和4年1月29日（土）～2月27日（日）
入 場 者 数	[第1期] 1,623名、[第2期] 1,714名 計 3,337名
入 場 料 金	無料
事 業 内 容	関連事業： [第1期] ・講演会「未開の知」に触れるーユニバーサル・ミュージアムとは何かー（8月21日） 参加人数：会場参加：27名 オンライン：15名 ・ユニバーサルミュージアム&パーク「音楽を体験してみよう！」（8月28日） [第2期] ・オープニングイベントユニバーサルミュージアム&パーク「音楽と民具にふれてみよう！」（1月29日） ・ユニバーサルミュージアム&パーク「音楽を体験してみよう！」（2月11日、2月13日、2月23日） ・ユニバーサルミュージアム&パーク「民具をつかってみよう！」（2月6日、2月19日） ・ワークショップ「さわる、みる、きく、そしてはなす」（2月27日）
事 業 成 果	博物館を視覚だけに頼らずに体験するため、博物館教育用に制作する教材資料と、誰もが博物館を楽しめるような展示資料（触図等）を制作し展示した。視覚障がい者（主に全盲者対象）が国立アイヌ民族博物館を体験するための機会とすることを目的のひとつとしたが、それだけでなく視覚頼り（見る）の博物館体験のあり方を広く一般に問い直すものとなった。
担 当 者	立石・宮地・押野・今野・ケラール



第1回交流室展示「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく、国立アイヌ民族博物館」



第1回交流室展示「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく、国立アイヌ民族博物館」

2) 第1回テーマ展示：収蔵資料展「イコロ 一資料にみる素材と技」

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外の館との人的往来、物的往来が阻害されたため、当館所蔵資料を中心にテーマ展示を実施した。前年度に第1期：令和2年12月1日（火）から令和3年1月24日（日）まで（55日間）、第2期：令和3年2月2日（火）から3月21日（日）まで（48日間）を開催し、今年度は第3期を行った。

協 力	エクスロン・インターナショナル株式会社
実 施 会 場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実 施 期 間	[3期] 令和3年3月30日（火）から5月23日（日）まで、55日間
入 場 料 金	無料（ただし、ウポポイ（民族共生象徴空間）入園に際しては入園料を徴収）
事 業 内 容	出品展示数：約80点（当館所蔵資料）
	関連事業： ホリデーイベント もっと知りたい！「収蔵資料展 イコロ」（各回30分、全6回） 【開催日】令和3年2月27日、3月13日、3月20日、4月10日、4月24日、5月8日
展 示 替 え	1期、2期、3期において一部展示替えを行った。
事 業 成 果	国立アイヌ民族博物館では、旧アイヌ民族博物館から受け継いだものを合わせ、1万点を超える資料を収蔵している。本展示では、開館に向けて収集した新着資料を6つのテーマにわけて紹介した。資料に用いられた「素材と技」に注目した本展で、新たに導入した科学分析装置による調査成果とアイヌ民族の技を紹介した。
担 当 者	霜村・大江・中井・矢崎・深澤・竹内・古田嶋・谷地田・赤田・八幡・北嶋・小林・ウィンチェスター



第1回テーマ展示：収蔵資料展「イコロ ―資料にみる素材と技―」[3期]



第1回テーマ展示：収蔵資料展「イコロ ―資料にみる素材と技―」[3期]

3) 第2回テーマ展示：「地域からみたアイヌ文化展 白老コタンの衣服文化」を以下のとおり実施した。

実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	令和4年3月15日（火）～5月15日（日）[62日間]
観覧料金	無料（ウポボイ入園料のみ）
事業内容	出品展示数：約80点（当館所蔵資料）
	関連事業： ・ホリデーイベント 講演会「白老の衣服文化」 令和4年5月4日（水・祝） 参加人数：39名 ・ホリデーイベント きいてみよう！「白老の衣服文化」（各回30分、全3回） 【開催日】令和4年4月16日、4月30日、5月7日 ・第4回エントランスロビー展示「シラウォイ ウン クル テケカラ ペー ー白老 で活動するアイヌ工芸サークルー」
担当者	八幡・鈴木・矢崎・竹内・大江・永石



第2回テーマ展示：「地域からみたアイヌ文化展 白老コタンの衣服文化」



第2回テーマ展示：「地域からみたアイヌ文化展 白老コタンの衣服文化」

IV-03-03 2022（令和4）年度の特別展示及びテーマ展示の立案・計画策定、準備

- ・第4回特別展示：「CHIRI MASHIHO 知里真志保 — アイヌ語研究にかけた熱意—」
を下記のとおり実施する。

実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	令和4年6月25日（土）～令和4年8月21日（日）[58日間]

- ・第5回特別展示：「イコロ ウエカリレーアイヌ資料をコレクションする—」を下記のとおり実施する。

実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	令和4年9月17日（土）～令和4年11月20日（日）[65日間]

- ・第3回テーマ展示：「ウアイヌコロ コタン アカラー民族共生象徴空間（ウポボイ）のことばと歴史」
を下記のとおり開催する。

実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	令和4年12月13日（火）～令和5年2月12日（日）[62日間]

- ・第4回テーマ展示：「地域からみたアイヌ文化展 アカント ウン コタン —阿寒湖畔のアイヌ文化—」
を下記のとおり開催する。

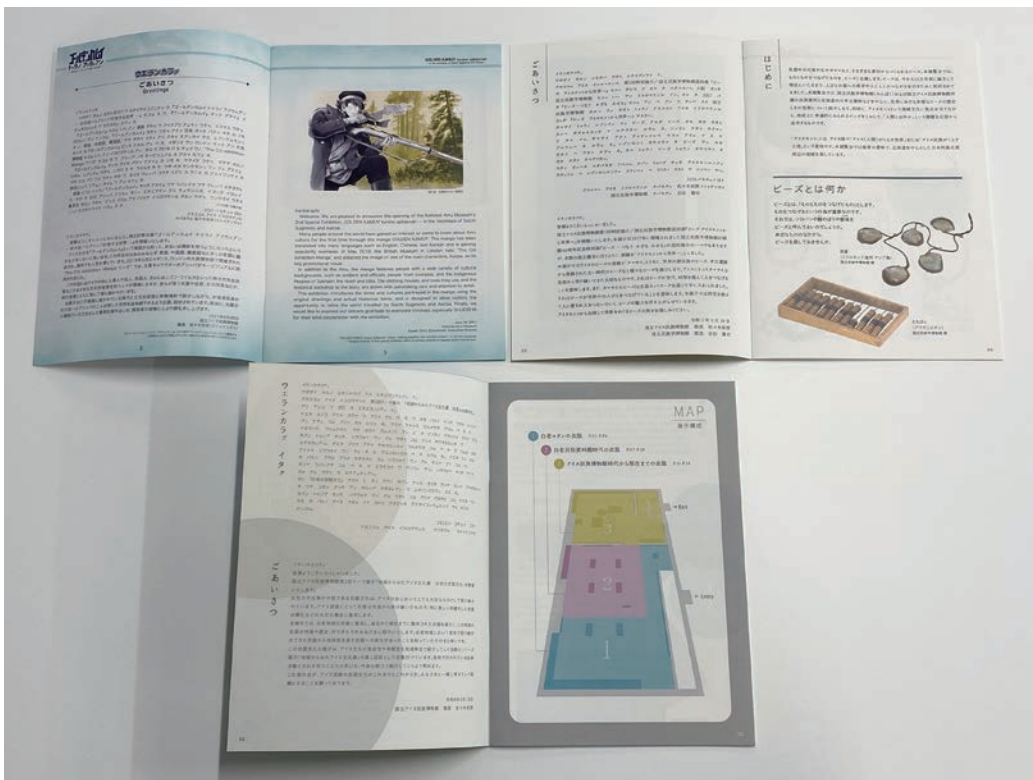
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	令和5年3月14日（火）～令和5年5月14日（日）[62日間]

IV -03-04 展示関連の解説書・図録等の企画及び編集、発行

第2回および第3回特別展示、第2回テーマ展示のパンフレット（各16ページ）を作成し、特別展示室にて無料配布した。なお、前年度に作成した第1回テーマ展示「収蔵資料展 イコロー資料にみる素材と技—」のパンフレット（8ページ）を会期中に特別展示室にて無料で配布した。また、これらのパンフレットを、国内の博物館、図書館等の関係諸機関、さらに展示協力者等に発送した。



パンフレット3種 ©野田サトル/集英社



パンフレット3種 ©野田サトル/集英社

IV -04 調査研究

IV -04-01 調査研究事業

アイヌの歴史と文化に関する調査研究及び博物館機能強化を目的とした調査研究を12件（A班基幹研究7件、B班個別研究4件）、そしてアイヌの歴史と文化等に関する資料・資材・情報等の収集調査（C班資料調査）3件の計15件のプロジェクトを実施した。

実施したプロジェクトは下記の一覧の通りである。

令和3(2021)年度調査研究プロジェクト課題一覧

課題番号	調査研究課題名	専門G	代表者	メンバー	メンバー（外部）
A 基幹研究					
2021A01	博物館利用者ならびに、国立アイヌ民族博物館基本展示の展示観覧行動と展示評価に関する研究	教育	笹木一義	奥山英登、シン ウォンジ	佐藤優香（東京大学）
2021A02	芸能の持続的な継承と発展に関する研究：保存会の実態調査と担い手の人材育成	言語儀礼 芸能	押野朱美、谷地田未緒	野本正博、山道ヒビキ（アイヌ文化財団）	甲地利恵（北海道博物館）
2021A03	アイヌ語資料等のアーカイブ化とその活用に関する基礎研究	言語儀礼 芸能	小林美紀	深澤美香、矢崎春菜、中井貴規	荒田このみ、山丸賢雄、山道ヒビキ（アイヌ文化財団）
2021A04	アイヌ民具と技術伝承に関する研究	物質文化	北嶋由紀	藪中剛司、八幡巴絵、宮地 鼓、竹内隼人、鈴木建治、長谷仁美、両角佑子	
2021A05	アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究	文化財科学	大江克己	赤田昌倫、古田嶋智子、霜村紀子、中井貴規、八幡巴絵	呂俊民（文化財虫菌害研）
2021A06	近現代におけるアイヌ民族および世界の先住民族に関する表象の形成、変遷及び創造の研究	歴史社会	田村将人	立石信一、関口由彦、マーク ウィンチェスター、是澤櫻子	内田順子（国立歴史民俗博物館）、山崎幸治（北海道大学）
2021A07	チャシの形成に関する考古学的研究	歴史社会	藪中剛司	鈴木建治、大江克己	熊崎能夫、小田島賢（厚岸町教育委員会）
B 個別研究					
2021B01	視覚障害者の鑑賞支援・体験型プログラムの開発と実践	物質文化	宮地 鼓	立石信一、押野朱美、今野 彩、カサドバルド ケラール	
2021B02	博物館における多言語化の意味と方法について		権 保慶		
2021B03	17世紀蝦夷地に漂着した朝鮮人及び欧米人等によるアイヌ文化に関する記録の比較研究	歴史社会	田村将人	シン ウォンジ	
2021B04	MLA 連携に関する実践例の収集と検討：レファレンス連携の構築を中心に	教育	笹木一義	関口由彦、工藤綾華	

2021B05	アイヌ文化を画題とした絵画史料について－揺籃と終焉－	歴史社会	霜村紀子	劉 高力	
C 資料調査					
2021C01	アイヌ研究における言語に関する資料調査	言語儀礼 芸能	矢崎春菜	小林美紀、深澤美香	
2021C02	アイヌ研究における物質文化に関する資料調査	物質文化	北嶋由紀	藪中剛司、八幡巴絵、 宮地 鼓、竹内隼人、 鈴木建治、長谷仁美、 両角佑子	
2021C03	博物館機能強化における体験型展示の事例調査	教育	岩井真二	笹木一義、奥山英 登、押野朱美、カサ ド パルド ケラー ル、シン ウォンジ、 長谷仁美、永石理恵、 両角佑子、今野 彩	

IV -04-02 ネットワーク事業

1) 「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会及びネットワーク構築

a) 「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会設置

ネットワーク事業の開始に伴い、新たに当財団に「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会を設置した（令和3年4月1日施行（公財ア研交第21号））。会議を9月と3月に2回開催し、ネットワーク構築に関する協議を行った。

当協議会の委員名簿は以下の通りである。

参加組織	氏名	地域
旭川市博物館	飯岡 郁穂	旭川
北海道博物館	小川 正人	札幌
市立函館博物館	奥野 進	函館
北海道大学植物園	加藤 克	札幌
新ひだか町博物館	斉藤 大朋	新ひだか
北海道立北方民族博物館	笹倉 いる美	網走
北海道博物館協会学芸職員部会	澤田 健	富良野
釧路市博物館	城石 梨奈	釧路
(公財)北海道埋蔵文化財センター	田口 尚	札幌
平取町立二風谷アイヌ文化博物館	森岡 健治	平取
帯広百年記念館	山原 敏朗	帯広

・第1回会議：令和3年7月27日

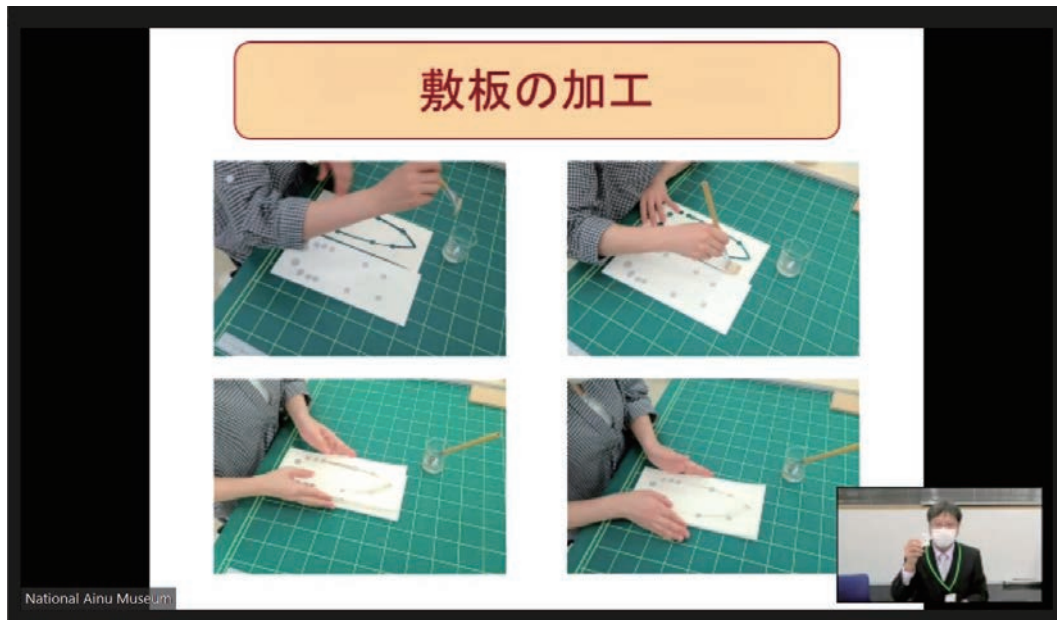
・第2回会議：令和4年3月19日

b) アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称ブンカラ）の構築

国立アイヌ民族博物館を中心にした、アイヌの歴史、文化等に関する資料情報の集約と利活用の促

進や様々な事業を行う独自のネットワークを通じて、各種事業を開始した。

11月には会員機関の所属職員を対象としたアイヌの歴史・文化に関する基礎的知識及びアイヌ民族資料の取扱等に関する研修会をオンラインにより実施した。新たに6機関より入会申込があり、会員は59機関となった。



（図：令和3年度第1回アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク研修会）

令和3年度の会員館一覧は以下の通りである（番号は入会申込み順による参加機関番号）。

令和3年度アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク会員機関一覧

No.	会員機関番号	施設・機関名
1	namnet001	富良野市博物館
2	namnet002	だて歴史文化ミュージアム
3	namnet003	湧別町ふるさと館 JRY
4	namnet004	浦幌町立博物館
5	namnet005	厚真町軽舞遺跡調査整理事務所
6	namnet006	天理大学附属天理参考館
7	namnet007	恵庭市郷土資料館
8	namnet008	厚岸町海事記念館
9	namnet009	平取町立二風谷アイヌ文化博物館
10	namnet010	沙流川歴史館
11	namnet011	根室市歴史と自然の資料館
12	namnet012	苫前町郷土資料館
13	namnet013	様似郷土館
14	namnet014	しらおいイオル事務所チキサニ
15	namnet015	登別市教育委員会（登別市郷土資料館）
16	namnet016	北海道立埋蔵文化財センター
17	namnet017	旭川市博物館

18	namnet018	美幌博物館
19	namnet019	弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館
20	namnet020	オホーツクミュージアムえさし
21	namnet021	松浦武四郎記念館
22	namnet022	北海道立北方四島交流センター
23	namnet023	下川町ふるさと交流館
24	namnet024	勝山館跡ガイダンス施設、重要文化財旧笹浪家住宅
25	namnet025	標茶町博物館ニタイ・ト
26	namnet026	仙台藩白老元陣屋資料館
27	namnet027	標津町ポー川史跡自然公園
28	namnet028	浜頓別町郷土資料館
29	namnet029	知内町郷土資料館
30	namnet030	新冠町郷土資料館
31	namnet031	北海道立北方民族博物館
32	namnet032	札幌市アイヌ文化交流センター
33	namnet033	北海道博物館
34	namnet034	市立函館博物館
35	namnet035	函館市北方民族資料館（公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団）
36	namnet036	大黒屋光太夫記念館
37	namnet037	北海道立文学館（公益財団法人北海道文学館）
38	namnet038	アポイ岳ジオパークビジターセンター
39	namnet039	釧路市立博物館
40	namnet040	北海道立近代美術館
41	namnet041	帯広百年記念館
42	namnet042	國學院大學博物館
43	namnet043	新ひだか町博物館
44	namnet044	大阪府立近つ飛鳥博物館
45	namnet045	新潟県立歴史博物館
46	namnet046	八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館
47	namnet047	知里幸恵 銀のしずく記念館
48	namnet048	余市水産博物館
49	namnet049	九州国立博物館
50	namnet050	最上徳内記念館
51	namnet051	室蘭市民俗資料館
52	namnet052	苫小牧市美術博物館
53	namnet053	美唄市郷土史料館
54	namnet054	幕別町蝦夷文化考古館
55	namnet055	日本民藝館
56	namnet056	阿寒アイヌ民族文化保存会
57	namnet057	三石民族文化保存会
58	namnet058	市立小樽美術館・市立小樽文学館
59	namnet059	別海町郷土資料館 附属施設加賀家文書館

2) 連携協定の締結（1件）

共同研究の推進と教育活動の協力を目的とし、12月に北海道アイヌ協会が当館に派遣する研究者の取り扱いに関する協定を締結した。

アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統およびアイヌ文化に関する知識の普及・啓発を図ることを目的として、2022年1月に、公益財団法人アイヌ民族文化財団と札幌大学との連携協定を締結した。

IV-04-03 研究集会の企画・開催

国内の研究集会（シンポジウム）の企画・開催（6件）

北極域研究加速プロジェクト（ArCS II）沿岸環境課題と共催により、当館とのシンポジウムを6月に開催した。また、当館と国立民族学博物館の共同により10月に開催された「ビーズ アイヌモシリから世界へ」の関連イベントとして、当館にてシンポジウム4件、講演会1件を10月から11月にかけて実施した。

前年度、学術連携協定を締結した北海道大学アイヌ・先住民研究センターと当館で、次年度開催予定の共催連続シンポジウムの企画について、3月に共同会議を実施した。

暮らしの変化と文化伝承

グリーンランド・イヌイットとアイヌの事例

現代の私たちの生活や文化の伝承の仕方は、温暖化や国の政策転換など近年の自然的、社会的、政治的環境の変化をうけ刻々と変わっています。本シンポジウムでは、グリーンランド・イヌイットとアイヌの暮らしの変化の事例から、先住民族の文化復興・文化創造の向かう先について考えてもらいたいと思います。

2021年6月19日（土）10:00-12:30
Zoomウェビナー（定員 500名）

※オンライン開催（参加無料・事前参加申込が必要です）
※QRコードもしくは下記URLからお申込みをお願いします。
<https://forms.gle/KTj3wSc43JG51E8N8>





日下 稜（北海道大学）「グリーンランドイヌイットの狩猟と気候変動による暮らしの変化」
林直孝（カルガリー大学）「現代のグリーンランドにおける生業：グリーンランド人らしさとは？」
関口由彦（国立アイヌ民族博物館）「アイヌ文化伝承活動の＜現在＞」
八幡巴絵（国立アイヌ民族博物館）「白老のアイヌの漁業一昭和期を中心に」

総会討論 司会：是澤櫻子（国立アイヌ民族博物館）



共催：北極域研究加速プロジェクト（ArCS II）沿岸環境課題
国立アイヌ民族博物館

お問合せ：北海道大学 低温科学研究所 氷河・氷床グループ 日下 稜
Tel: 011-706-5482 E-mail: kusaka@lowtem.hokudai.ac.jp




シンポジウム「暮らしの変化と文化伝承」（6月）

「暮らしの変化と文化伝承 ―グリーンランド・イヌイットとアイヌの事例―」

主 催：北極域研究加速プロジェクト（ArCS II）沿岸環境課題、国立アイヌ民族博物館

開催日時：2021年6月19日（土） 10:00～12:30

開催方法：Zoom ウェビナーによる開催（事前申込制、参加無料）

プログラム

日下凌（北海道大学）「グリーンランド イヌイットの狩猟と気候変動による暮らしの変化」

関口由彦（国立アイヌ民族博物館、展示企画室）「アイヌ文化伝承活動の〈現在〉」

八幡巴絵（国立アイヌ民族博物館、教育普及室）「（仮）白老のアイヌの漁業―昭和期を中心に」

総合討論 司会：是澤櫻子（国立アイヌ民族博物館、研究交流室）

IV -04-04 研究成果の社会発信

研究成果の社会発信として、論文（査読有）5件、論文（査読無）8件、寄稿・解説等64件のほか、学会発表（国外）5件、学会発表（国内）15件、講演会・講義66件を実施した。

1) 2021年度研究業績

2021年度の研究業績として、1. 論文（査読有）、2. 論文（査読無）※学術雑誌、研究報告書等、3. 学会発表〈国際学会〉〈国内学会〉、4. 生涯学習・学校教育に関わる活動等、5. 寄稿・解説※一般誌、新聞、6. 図書、7. 外部資金の獲得状況として区分した

1. 論文（査読有）

※著者名（館スタッフにはアンダーライン）、論文標題、雑誌名、巻（号）、発行年、最初と最後の頁、掲載論文のDOI

- 1) 是澤櫻子，ロシア連邦の先住民運動における先住民組織ライボンの活動変遷と特徴，東北アジア研究，26，2022，33-56
- 2) 大江克己，古田嶋智子，北嶋由紀，八幡巴絵，中井貴規，平面形のアイヌ民族資料を対象としたX線CTによる構造調査の有効性―樹皮衣・木綿衣・ござを中心として―，北海道民族学，18，2022，1-12
- 3) 立石信一，「議論の場」としての博物館の構築に向けて ―国立アイヌ民族博物館での展示における試み―，境界研究，12，2022，107，126，10.14943/jbr.12.107
- 4) 是澤櫻子，マーク・ウィンチェスター，「ウボポイと報道～道内新聞を中心とした内外発信における類似と相違分析に向けて」，境界研究，北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター内境界研究ユニット，No.12，2022，127-142，<https://doi.org/10.14943/jbr.12.127>
- 5) 谷地田未緒，押野朱美，「芸能の継承―「アイヌ古式舞踊」の保存継承をめぐる文化政策研究」，文化政策研究，日本文化政策学会，14号，2022，138-154

2. 論文（査読無）※学術雑誌，研究報告書等

※著者名（館スタッフにはアンダーライン）、論文標題、雑誌名、巻（号）、発行年、最初と最後の頁

- 6) 笹木一義, 奥山英登, シンウオンジ, 多民族共生, 多文化共生, 地域に根ざした知識体系と, サイエンスコミュニケーション (特集: これからの10年), サイエンスコミュニケーション, 11, 2021, 10-13
- 7) 立石信一, アイヌ民族博物館から民族共生象徴空間へー地域の記憶の映像化に向けてー, 国立歴史民俗博物館編, 歴博映像フォーラム15 映画とアイヌ文化, 2021, 15-19
- 8) 深澤美香, 中井貴規, an=kor itak ani an=kor puri an=eisoytak (私たちのことばで私たちの文化を語る), ことばと社会, 23号, 2021, 241-257
- 9) Fukazawa, M., Stop series in Ainu, Studies in Asian and African Geolinguistics I, 2021, 29-30
- 10) Fukazawa, M., Subgrouping of Ainu, Studies in Asian and African Geolinguistics II, 2021, 2
- 11) Fukazawa, M., Grammatical relations in Ainu, Studies in Asian and African Geolinguistics II, 2021, 5
- 12) 田村将人, GHQ 幹部宛て北海道アイヌ協会関係資料について, 北海道・東北史研究, 12, 2021, 1-3
- 13) 佐々木史郎, 分科会1 博物館と文化の多様性 博物館研究, 57, 3, 2022, 14-15

3. 学会発表

<国際学会>

※発表者名, 発表表題, 学会等名, 発表年月日, 発表場所

- 14) Koresawa, S., Anthropological Study on the Relation between Indigenous Organizations and Institutions for the Realization of Indigenous Rights in the Russian Federation., 1st Japan-Finland Seminar on the Arctic and East Asia., 21.Jan.2022, online
- 15) Sasaki, K., Okuyama, H., Oshino, A., and Sato, Y., Co-creation with the National Ainu Museum and source communities for educational role of museums which focuses on indigenous culture, ICOM CECA (International Councils of Museums International Committee for Education and Cultural Action) Conference, Leuven, Belgium, 2021.10.25-10.28, online
- 16) Yachita, M., Approach to teaching Arts Management in Japan, The Asia-pacific Network of Cultural Education and Policy (ANCER) ANCER Lab 03 Manila, 2021.10.6, online
- 17) Kotajima, T., and Inuzuka, M., Acetic acid emissions from traditional Japanese kiri-bako wooden boxes and their influence on lead, International Council of Museums-Committee for Conservation 19th Triennial Conference, 2021.5.17-2021.5.21, online
- 18) Sasaki, S., Representation of the Ainu culture in the National Ainu Museum, PTJC Webinar #1 - The Road to Equity, Diversity, and Inclusion: Approaches in Japan and Canada, 2021.10.28, online

<国内学会>

※発表者名, 発表表題, 学会等名, 発表年月日, 発表場所

- 19) 是澤櫻子, 制度は先住民族の権利の実現にどのように貢献するのか?～手紙資料からみるロシア連邦における先住民組織と制度利用の関係に関する試論～, 日本シベリア学会, 2021年12月19日, オンライン

- 20) 奥山英登, 笹木一義, 押野朱美, カサド・パルド・ケラール, 今野彩, シンウォンジ, 永石理恵, 長谷仁美, 両角佑子, 佐藤優香, アイヌ民族の文化と歴史の多様さを感じさせる体験ユニットの開発—国立アイヌ民族博物館探究展示テンパテンパの事例から(2)—, 全日本博物館学会第47回研究大会, 2021年6月27日, 高知みらい科学館 オーテピア (ハイブリッド開催)
- 21) 佐藤優香, 笹木一義, 奥山英登, 押野朱美, カサド・パルド・ケラール, 今野彩, シンウォンジ, 永石理恵, 長谷仁美, 両角佑子, 博物館におけるワークシート開発を通じた教育スタッフの育成—国立アイヌ民族博物館の探究展示を活用した取り組み—, 全日本博物館学会第47回研究大会, 2021年6月27日, 高知みらい科学館 オーテピア (ハイブリッド開催)
- 22) 大江克己, 赤田昌倫, 古田嶋智子, 霜村紀子, 田村将人, 佐々木史郎, 国立アイヌ民族博物館の開館に伴う展示環境の整備, 文化財保存修復学会第43回大会, 2021年7月15日, オンライン
- 23) 大江克己, 赤田昌倫, 古田嶋智子, 霜村紀子, 田村将人, 佐々木史郎, 国立アイヌ民族博物館の新造展示ケースの有機酸及びアンモニア濃度の推移について, 文化財保存修復学会第43回大会, 2021年7月15日, オンライン
- 24) 大江克己, 北嶋由紀, 八幡巴絵, 古田嶋智子, 霜村紀子, X線CT装置によるアイヌ民族資料「樹皮衣」・「木綿衣」の模様の構造, 日本文化財科学会38回大会, 2021年9月18日, オンライン
- 25) 谷地田未緒, カンボジアの文化復興と芸術振興: カンボジア・リビング・アーツとファー・カンボジアンサーカス, 東南アジア学会 オンライン例会, 2021年11月27日, オンライン
- 26) 谷地田未緒, 『アイヌ古式舞踊』の文化財指定の経緯に関する考察—知里真志保と本田安次の原稿から—, 文化政策学会年次大会(第15回), 2022年3月21日, オンライン
- 27) 犬塚将英, 古田嶋智子, 高橋佳久, 紀芝漣, 鉛金属の腐食と空気環境との関係についての調査事例, 文化財保存修復学会第43回大会, 2021年7月15日, オンライン
- 28) 古田嶋智子, 大江克己, 霜村紀子, 田村将人, 佐々木史郎, 国立アイヌ民族博物館 開館から1年間の展示室および展示ケースの温湿度推移, 文化財保存修復学会第43回大会, 2021年7月15日, オンライン
- 29) 佐野千絵, 林美木子, 内田結花, 古田嶋智子, 浅川崇典, 熊谷賢, 陸前高田市立博物館所蔵津波被災資料の安定化処理改善のための研究—古書の含有する塩化物量, 日本文化財科学会第38回大会, 2021年9月18日, オンライン
- 30) 立石信一, 〈アイヌコタン〉の移転問題と、1965年のポロトコタンの開業をめぐる政治史研究, 日大史学会第4回例会, 2022年3月5日, オンライン
- 31) 田村将人, 開催テーマ「未来を共創する展示」: 先進事例発表 1 国立アイヌ民族博物館, 2021 日本展示学会研究大会, 2021年6月12日, オンライン
- 32) 大江克己, 北嶋由紀, 八幡巴絵, 中井貴規, 古田嶋智子, 平面形のアイヌ民族資料を対象としたX線CTによる構造調査の有効性—樹皮衣・木綿衣・ござを中心として—, 2021年度北海道民族学会第2回研究会, 2021年11月3日, 浦幌町立博物館

4. 生涯学習・学校教育に関わる活動等

<講演会・講義>

※講演・講義者名, 題目, 主催者, 実施年月日

- 33) 中井貴規, 講義「アイヌ文化論」(3コマ), 札幌大谷大学, 2021年6月11日, 2021年6月18日, 2021年6月25日
- 34) 中井貴規, アイヌの「精神世界」～国立アイヌ民族博物館の展示を通して, 神戸女学院大学文学部総合文化学科, 2021年7月1日
- 35) 北嶋由紀, 講義「アイヌ文化論」(3コマ), 札幌大谷大学, 2021年6月30日, 2021年7月7日, 2021年7月14日
- 36) 中井貴規, ウポポイにおけるアイヌ語の活動について, 旭川方言の特色, 公益財団法人アイヌ民族文化財団, 2021年8月21日, 2021年8月22日
- 37) 中井貴規, 疑問詞, 不定人称(人称接辞aとanのいろいろ), 公益財団法人アイヌ民族文化財団, 2021年9月24日, 2021年11月6日, 2021年12月4日
- 38) 中井貴規, 旭川(石狩)方言の特徴1, 公益財団法人アイヌ民族文化財団, 2021年12月16日
- 39) 中井貴規, 講義「文化人類学特殊v～先住民族アイヌを人類学する～」, 慶応大学, 2022年1月19日
- 40) 北嶋由紀, アイヌの衣服について, 図書館文化セミナー, 苫小牧市立中央図書館, 2021年10月24日
- 41) 笹木一義, 谷地田未緒, 押野朱美, Co-creation between the National Ainu Museum and source communities in developing the education a role of museums focusing on indigenous culture, 『国際研修』2021年度秋学期科目『日本の伝統文化とその変容・発展を英語で学ぶ体験型学習』「実習:北海道の自然とアイヌ文化」, 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属国際交流センター, 2021年12月11日
- 42) 笹木一義, 谷地田未緒, Why the “National” Ainu Museum was Established? — The educational exhibition, “Interactive Station ‘tempatempa’” and co-creation within/out of museum, 地球惑星環境科学国際研修, オーストラリア国立大学合同参加, 『UTokyo-ANU: Kyosei / Coexistence — Nature, Nations, and Culture —』, 東京大学理学部, 2022年2月22日
- 43) 笹木一義, ウポポイについて学ぶ — 国立アイヌ民族博物館での体験を深めるために, 札幌国際プラザ外国語ボランティア対象実地研修, 2021年12月19日
- 44) 笹木一義, 展示資料と来館者をつなぐ, 「探究展示 テンパテンパ」(国立アイヌ民族博物館/株式会社丹青社), 第15回キッズデザイン賞シンポジウム「キッズデザイン開発ストーリー2021」, 2021年9月29日
- 45) 立石信一, 歴博フォーラム15「映画とアイヌ文化」, 国立歴史民俗博物館, 2021年5月15日
- 46) 八幡巴絵, しらおい防災マスター会, 白老防災マスター会, 2021年4月28日
- 47) シン・ウォンジ, しらおい防災マスター会, 白老防災マスター会, 2021年4月28日
- 48) 鈴木建治, 博物館講座「世界が注目するシベリア北極圏の旧石器文化」, 美幌博物館, 2021年5月29日
- 49) 大江克己, 国立アイヌ民族博物館開館時における環境整備について, 文化庁公開承認施設担当者会議, 2021年6月3日
- 50) マーク・ウィンチェスター, 「ウポポイでの学び、ウポポイへの期待」, 実社会共創セミナー, 2021年8月5日
- 51) 岩井真二, 令和3年度初任段階教員研修会講師, 北海道教育庁胆振教育局, 2021年9月15日
- 52) マーク・ウィンチェスター, 「アイヌ民族に対するインターネットにおけるヘイトスピーチの問題や、差別禁止法に対する意見などについて」の報告, 研究会「差別禁止法研究会」,

2021年9月16日

- 53) 深澤美香, 北方資料室 50 周年事業 講演会「アイヌ語を書くー知里幸恵とアイヌ語の記録ー」, 北海道立図書館, 2021 年 10 月 23 日
- 54) 関口由彦, 令和 3 年度（2021 年度）熊本県市町村人権同和教育連絡協議会研修の講師, 令和 3 年度（2021 年度）熊本県市町村人権同和教育連絡協議会研修, 2021 年 10 月 21 日
- 55) 関口由彦, 講座名「分かると変わる 私の言動～人権問題についての理解を深める～」, 中村生涯学習センター 人権問題講座, 名古屋市教育委員会生涯学習センター, 2021 年 11 月 17 日
- 56) マーク・ウィンチェスター, 知里真志保を語る会での講演, 知里真志保を語る会, 2022 年 2 月 23 日
- 57) 深澤美香, 明星大学人文学部「現代文化論 I」のゲスト講師, 明星大学人文学部「現代文化論 I」, 2021 年 7 月 2 日
- 58) 北嶋由紀, 北海道大学アイヌ・先住民研究センター先住民文化研究会への参加, 先住民文化研究会, 北海道大学アイヌ・先住民研究センター, 2021 年 7 月 31 日 13:00-15:00
- 59) 笹木一義, 東京大学教養学部授業『国際研修』, 2021 年度秋学期科目『日本の伝統文化とその変容・発展を英語で学ぶ体験型学習』「実習：北海道の自然とアイヌ文化」, 東京大学教養学部授業『国際研修』, 令和 3 年 12 月 11 日（土）・12 日（日）
- 60) 押野朱美, 東京大学教養学部授業『国際研修』, 2021 年度秋学期科目『日本の伝統文化とその変容・発展を英語で学ぶ体験型学習』「実習：北海道の自然とアイヌ文化」, 東京大学教養学部授業『国際研修』, 令和 3 年 12 月 11 日（土）・12 日（日）
- 61) マユンキキ（八谷麻衣）, 谷地田未緒, シンガポール NTU 大学（Nanyang Technological University）アート・デザイン・メディア学科の授業でのゲスト講義, シンガポール NTU 大学アート・デザイン・メディア学科, 2021 年 10 月 28 日
- 62) 笹木一義, 放送大学『博物館教育論』の講義と執筆, 『博物館教育論』, 2021 年 11 月 29 日
- 63) 北嶋由紀, 北海道大学アイヌ・先住民研究センター第 2 回先住民文化研究会への参加, 第 2 回先住民文化研究会, 北海道大学アイヌ・先住民研究センター, 2021 年 11 月 24 日
- 64) 笹木一義, 東京大学大気海洋研究所が実施する, 東京大学理学部講義地球惑星環境科学国際研修への Zoom による遠隔講義, 東京大学理学部講義地球惑星環境科学国際研修, 2022 年 2 月 1 日
- 65) 佐々木史郎, 第 69 回全国博物館大会実行委員, 第 70 回全国博物館大会, 2021/11/17-11/19
- 66) 谷地田未緒, 非常勤講師（アートマネジメント・博物館と企画制作）, 成蹊大学文学部文化行政コース（アートマネジメント・博物館と企画制作）, 2021 年 5 月 19 日
- 67) 谷地田未緒, 非常勤講師（美術史演習・アートマネジメントの仕事）, 早稲田大学高等研究所（美術史演習・アートマネジメントの仕事）, 2021 年 6 月 10 日
- 68) 押野朱美, 非常勤講師（美術史演習・アートマネジメントの仕事）, 早稲田大学高等研究所（美術史演習・アートマネジメントの仕事）, 2021 年 6 月 10 日
- 69) 大江克己, 科学分析にみるアイヌ民族資料, （一社）日本非破壊検査協会 2021 年度秋季講演大会 特別講演, （一社）日本非破壊検査協会, 2021 年 11 月 10 日
- 70) マーク・ウィンチェスター, 『梨の木ピースアカデミー（NPA）』連続講座第 5 回「アイヌヘイトとの闘い方」, 『梨の木ピースアカデミー（NPA）』連続講座第 6 回「アイヌヘイトとの闘い方」, 2021 年 9 月 10 日

- 71) 佐々木史郎, 第61回北海道図書館大会への情報提供, 第61回北海道図書館大会, 2021年9月3日～9月24日
- 72) 深澤美香, 北海道大学 メディア・コミュニケーション研究院 言語伝達論講座のゲストスピーカー, 北海道大学 メディア・コミュニケーション研究院 言語伝達論講座, 2021年8月2日
- 73) 押野朱美, 第16回「ひとづくり・地域づくりフォーラム in 山口」, 「ひとづくり・地域づくりフォーラム in 山口」, 2022年2月19日
- 74) 田村将人, 茨城県県北生涯学習センターの現代的課題対策講座講師, 現代的課題対策講座, 2021年11月20日
- 75) 関口由彦, 茨城県県北生涯学習センターの現代的課題対策講座講師, 現代的課題対策講座, 2021年11月27日
- 76) 矢崎春菜, 茨城県県北生涯学習センターの現代的課題対策講座講師, 現代的課題対策講座, 2021年12月4日
- 77) 鈴木建治, 茨城県県北生涯学習センターの現代的課題対策講座講師, 現代的課題対策講座, 2021年10月30日
- 78) 佐々木史郎, 国立アイヌ民族博物館の魅力と役割, 北海道開発局, 2021年10月4日
- 79) 佐々木史郎, 北方民族文化シンポジウム網走への参加(リモート), 北方民族文化シンポジウム網走, 2021/10/16-17
- 80) 谷地田未緒, 札幌市中央区福祉のまち推進センター主催「おしゃべりサロン」講師, 2022年1月24日
- 81) 鈴木建治, 北海道文化遺産活用活性化実行事業の講演, 北海道文化遺産活用活性化実行事業の講演, 2021年12月2日
- 82) 大江克己, X線を用いた分析からわかるアイヌ民族資料の素材と技術, 令和3年度考古学講座「第二の発掘 - 考古学 x 自然科学 = 新発見!?! -」講師, 令和3年度考古学講座「第二の発掘 - 考古学 x 自然科学 = 新発見!?! -」, 2022年1月22日
- 83) 奥山英登, 札幌市立栄中学校からの講演依頼, 札幌市立栄中学校, 2022年1月19日
- 84) 小林美紀, アイヌ語, 北洋大学講義「アイヌ語」(15コマ), ①2022年2月2日②2022年2月3日③2022年2月9日④2022年2月10日
- 85) 谷地田未緒, 白老から世界へ、世界から白老へ——ポスト・コロナ時代のまちと文化創造——, NPO法人しらおい創造空間「蔵」創設記念日特別シンポジウム, 2021年11月3日
- 86) 谷地田未緒, ディスカッサント, 白老文化観光推進実行委員会主催「白老文化観光セミナー」, 2021年10月21日
- 87) 谷地田未緒, アジアのアート&ソーシャルアクション: サッポロ編「羊屋白玉と考える芸術家のための労災」, メコン・カルチュラルハブ Meeting Point 2021, 2021年7月17日
- 88) 小林美紀, アイヌ語の動詞について, 伝承者育成事業講師(アイヌ語集中講義), 2021年12月16日(木)
- 89) 笹木一義, 放送大学『改訂新版 博物館教育論('22)』のテキストへの協力, 第5回のラジオ講座への出演, 放送大学『改訂新版 博物館教育論('22)』(大高幸・寺島洋子編著), 2022年3月20日
- 90) 霜村紀子, 北海道大学講義「博物館資料保存論」7コマ, 2021年6月15日～2021年7月27日
- 91) 八幡巴絵, 北洋大学「北海道の自然と食文化」論, 15コマ, 2021年9月16日～12月23日

5. 寄稿・解説 ※一般誌、新聞

※著者名（館スタッフにはアンダーライン）、論文標題、雑誌新聞名、巻（号）、発行年月日、最初と最後の頁

- 92) 長谷仁美, エンレイソウ（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2021年6月15日
- 93) 長谷仁美, 鳥のさえずり（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2021年7月6日
- 94) 長谷仁美, 虫たち（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2021年7月27日
- 95) 長谷仁美, セミとおばあさん（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2021年8月17日
- 96) 長谷仁美, トリカブト（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2021年9月7日
- 97) 長谷仁美, ホオノキ（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2021年9月30日
- 98) 長谷仁美, ヤブマメ（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2021年10月21日
- 99) 長谷仁美, キハダの実（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2021年11月11日
- 100) 長谷仁美, シト（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2021年12月2日
- 101) 長谷仁美, ナナカマド（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2021年12月23日
- 102) 長谷仁美, エゾユキウサギ（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2022年1月27日
- 103) 長谷仁美, タラとカレイとウグイ（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2022年2月17日
- 104) 長谷仁美, アカゲラの舌（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2022年3月10日
- 105) 長谷仁美, フクジュソウとイトウ（コラム ゆのみ 連載）、苫小牧民報、2022年3月31日
- 106) 北嶋由紀, ヤオシケツカムイ（クモの神様）タマサイをイメージ アイヌ文様の美も表現 3, 苫小牧民報、2021年11月6日
- 107) 竹内隼人,（連載 ウポポイオルシペ 13）先人の技に触れる 彫刻と装飾、科学的に解析, 北海道新聞、2021年4月14日
- 108) 笹木一義,（連載 ウポポイオルシペ 15）探究展示 テンパテンパ, 北海道新聞、2021年5月17日
- 109) 矢崎春菜,（連載 ウポポイオルシペ 20）ゴールデンカムイ特別展, 北海道新聞、2021年7月22日
- 110) マーク・ウィンチェスター,（連載 ウポポイオルシペ 21）「ゴールデンカムイ」とアイヌ民族の歴史, 北海道新聞、2021年8月6日
- 111) 深澤美香,（連載 ウポポイオルシペ 22）「ゴールデンカムイ」特別展 22日まで, 北海道新聞、2021年8月18日
- 112) 藪中剛司,（連載 ウポポイオルシペ 24）「ビーズ展 アイヌモシリから世界へ」, 北海道新聞、2021年10月6日
- 113) 鈴木建治,（連載 ウポポイオルシペ 25）北海道のビーズの歴史, 北海道新聞、2021年10月13日
- 114) 関口由彦,（連載 ウポポイオルシペ 28）グローバル時代のビーズ, 北海道新聞、2021年11月24日
- 115) 立石信一,（連載 ウポポイオルシペ 30）「みる」から「さわる」展示へ, 北海道新聞、2022年1月7日
- 116) 宮地 鼓,（連載 ウポポイオルシペ 31）交流室展示「さわる、みる、きく」／音楽と民具にふれる, 北海道新聞、2022年1月20日

- 117) カサド・バルド・ケラール, (連載 ウポポイオルシペ 33) 交流室展示「さわる、みる、きく」／誰もが参加できる博物館に, 北海道新聞, 2022年2月16日
- 118) 北嶋由紀, イコロ 資料にみる素材と技 第9回 複数の技法で構成, 苫小牧民報, 2021年4月10日
- 119) マーク・ウィンチェスター, イコロ 資料にみる素材と技 第10回 日本発 アイヌ文化大辞典, 苫小牧民報, 2021年4月24日
- 120) 赤田昌倫, イコロ 資料にみる素材と技 第11回 色が持つ意味と役割, 苫小牧民報, 2021年5月8日
- 121) 大江克己, イコロ 資料にみる素材と技 第12回 実情知る手がかり, 苫小牧民報, 2021年5月22日
- 122) 立石信一, コロナ禍でも「さわる」展示を「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく、国立アイヌ民族博物館」を開催して, アートスケープ「キュレーターズノート」, 2021年10月1日
- 123) 立石信一, ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく、国立アイヌ民族博物館, 点字毎日, 2021年7月22日
- 124) 立石信一, 人はなぜさわらなければならないのかー「ユニバーサル・ミュージアムーさわる! “触”の大博覧会」の試み, アートスケープ「キュレーターズノート」, 2022年1月15日
- 125) マーク・ウィンチェスター, 書評 石原真衣著『<沈黙>の自伝的民族誌』, 北海道新聞, 2021年4月25日
- 126) マーク・ウィンチェスター, 「ゴールデンカムイ」とアイヌ民族の歴史 日露戦争と強制移住説明, 北海道新聞, 2021年8月6日
- 127) 谷地田未緒, 宇梶剛士が描く 物語の力 劇場版『永遠の矢(トワノアイ)』に寄せて, 北海道新聞, 2022年3月23日
- 128) 霜村紀子, 【大人の教養・日本美術の時間】わたしの偏愛美術手帳 vol. 26- 上・下 平沢屏山「アイヌ風俗十二ヶ月屏風(7月~12月)», (web) 日本美を守り伝える「紡ぐプロジェクト」公式サイト, 2022年3月16日・19日
- 129) 田村将人, アイヌの歴史と文化, 公園文化の集い in ウポポイ, 2021年5月1日
- 130) 竹内隼人, 私のイチオシコレクション, 毎日新聞, 2021年4月27日
- 131) 宮地 鼓, アイヌの華やかな装い, 渋谷区松濤美術館特別展図録「アイヌの装いとハレの日の着物ー国立アイヌ民族博物館の開館によせて」
- 132) "OKI, 谷地田未緒, トンコリでルーツと表現を繋ぐ OKI の音楽世界 (The Music of OKI' s World Rooted in the Tonkori and the Unique Expression it Inspires) (日英), Performing Arts Network Japan (ウェブマガジン), 2021年5月5日"
- 133) Yachita, M., How Dare You Call It a "No-One's Land", Curious Patterns(ウェブマガジン), 2021年6月4日
- 134) 佐々木史郎, アイヌ文化の情報発信のために——国立アイヌ民族博物館の役割——, 第61回北海道図書館大会記録
- 135) 佐々木史郎, 国立アイヌ民族博物館の役割ーアイヌ文化研究の方向性ー, 北海道立北方民族博物館(編)『大林太良・学問と北方文化研究 ー大林太良先生没後20年記念シンポジウムー』(第35回北方民族文化シンポジウム網走報告書)

6. 図書

※著者名，論文名，編者名，書名，出版社，発行年，担当ページ，総ページ数

- 136) 長谷仁美，朝倉書店，「ユカラ」「イヨマンテ」「カムイ」『郷土史大系 領域の赤痢と国政関係（上）前近代』，2021年
- 137) 立石信一，小さ子社，展覧会図録国立民族学博物館編『ユニバーサル・ミュージアム ーさわる！“触”の大博覧会』，2021年
- 138) マーク・ウィンチェスター（訳者），岩波書店，リチャード・シドル著『アイヌ通史～「蝦夷」から先住民へ』，2021年
- 139) Fukazawa, M., Shobo, H., "'Sun' in Ainu," "'Rice plant' in Ainu," "'Milk' in Ainu," "'Wind' in Ainu," "'Iron' in Ainu," "Numeric quantification in Ainu, Accent in Ainu, and "It rains' in Ainu" Endo, M. (eds), Linguistic Atlas of Asia, 2021年
- 140) 田村将人（共著），青土社，「解説『あいぬ物語』とその時代」「年譜 山辺安之助と樺太アイヌの150年」（山辺安之助著、金田一京助編『あいぬ物語』青土社），2021年

2) 外部資金の獲得状況

当館はまだ科学研究費助成事業（科研費）への応募資格を有していないが、研究員・学芸員が所属（兼務）する他の機関から申請することで、科研プロジェクトに研究代表者、研究分担者になったり、あるいは研究協力者として参画したりすることはできる。

2021年度の科研費を含む外部資金獲得状況は以下の通りである。

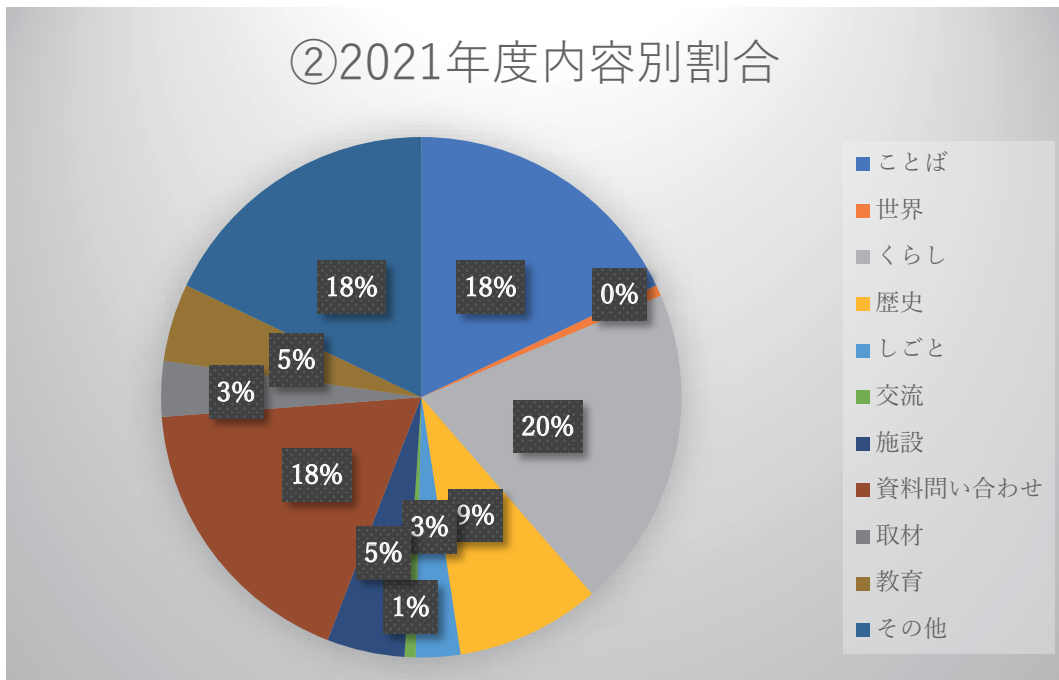
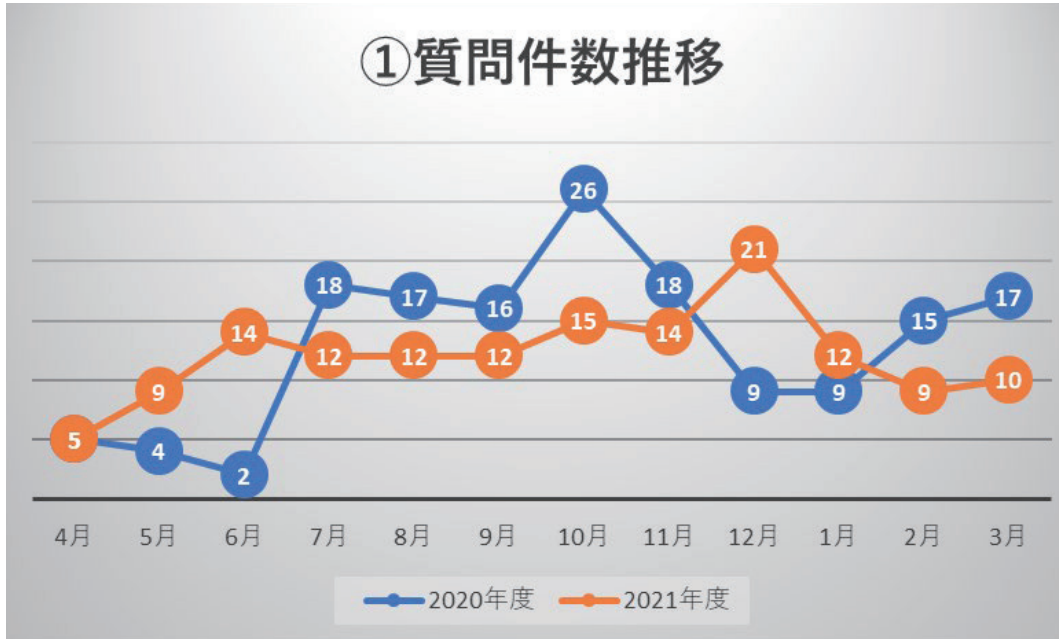
- 141) 笹木一義，科学研究費助成事業 基盤研究（C），2021-2023，アイヌ文化の何をどう学ぶか—多文化共生のための博物館活用文化学習のデザインと評価（研究協力者）
- 142) 古田嶋智子，科学研究費助成事業 若手研究，2019-2022，木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案（研究代表者）
- 143) 古田嶋智子，ポーラ美術振興財団 助成事業，2021，「収蔵庫・展示室の建材等から放散する有機酸等の定量評価のための開発研究（研究分担者）
- 144) 立石信一，科学研究費助成事業 挑戦的研究（萌芽），2020-2022，国公立博物館における先住民の権利実現の可能性と課題—アイヌとマオリの比較研究（研究協力者）
- 145) 是澤櫻子，北極域研究加速プロジェクト ArCS II 社会文化課題 サブ課題3，2021-2025，「食とアイデンティティをめぐる先住民社会」（研究協力者）
- 146) 田村将人，科学研究費助成事業 基盤研究（B），2020-2023，サハリンアイヌの交易と文化変容、その学際的研究（研究分担者）
- 147) 宮地 鼓，科学研究費助成事業 基盤研究（B），2019-2022，巨大噴火・津波の痕跡を軸とした17世紀アイヌ文化と環境に関する学際的研究（研究代表者）
- 148) 大江克己，科学研究費助成事業 基盤研究（A），2018-2021，古代～中世の「鑰石」と「真鑰」の研究—金に等しい価値があったころ—（研究協力者）

IV-04-05 レファレンス

1) 概要

・レファレンス対応件数 145件（2021年4月から2022年3月）

2) 2020年度間合せの内容別件数と特徴



- ・全体的な傾向：2020年度に比べ、くらし、ことばに関する一般的、学術的な問合せが増加した。展示室に関連した質問はそれほど多くない。質問内容は、伝統的なくらしに関するものが依然多いが、現在のアイヌ語話者や伝統文化の継承などに関心がある質問者も目立った。内容別の傾向は以下のとおりである。
- ・「ことば」：「アイヌ語で〇〇（日本語）を何というか」「〇〇（アイヌ語）の意味を教えてください」など多数。
- ・「くらし」：主な内容として、植物について（7件）、音楽について（ムックリ含む）（5件）、チセについて（2件）、文様のデザイン・利用について（3件）。
- ・「教育」：博物館実習の問合せ（2件）、Zoomを用いた解説の希望（1件）。
- ・「資料」：資料の詳細情報を求めるもの（7件）、寄贈（6件）、画像利用（7件）に関する問合せが多い。
- ・「施設」：展示替えの時期、テーマ展示、特別展示の開催予定時期を知りたい（4件）。
- ・「その他」：自説、持論に対するコメントを求めるもの（6件）、職員との個人的なつながりを求めるもの（4件）。

3) FAQの更新について

2020年度からウェブサイトにて公開したFAQについて、新規7件を検討した。

IV -04-06 外部資金獲得のための体制整備

当財団における公的研究費の管理・監査および研究活動における不正行為への対応等に関する規程・要領について周知し、日本学術振興会による研究倫理eラーニングコースを受講した。また、査読付きの学術論文執筆に向けての研究体制について検討した。

IV -04-07 国内外の博物館等が所蔵するアイヌ資料の調査の実施

2021年度はむかわ町穂別博物館所蔵のアイヌ資料145点について調査を行い、調書の作成と写真撮影を行った。調査報告は『国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ資料調査報告書2—むかわ町穂別博物館所蔵資料目録』として800部作成し、約500部を関係各所に送付した。

IV -04-08 刊行物

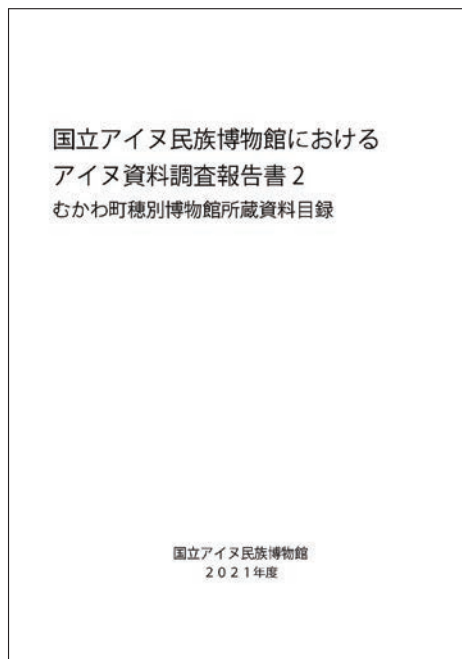
1) ニュースレター「アヌアヌ」

2021年度は4号から7号まで刊行した。部数は各3000部で、関係各所に送付した。



4号から7号までの表紙

2) 『国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ資料調査報告書2』



国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ資料調査報告書2

IV -04-09 国際交流

国際オフィスの活動

国際オフィスは、博物館の専門グループとして「博物館機能強化系」「調査研究系」の二つのグループからは独立して設立された。2021年度は2名体制で、1名は博物館多言語化担当（展示企画室）、1名は国際交流担当（研究交流室）となった。以下は、研究交流室・国際交流担当の実績である。

1) 国際対応の環境整備等

- ・国際案件は、博物館及び国立民族共生公園、札幌の財団本部の3部署の担当者からなる「国際タスクフォース」（2020年立上げ）が情報共有をしながら対応した。
- ・組織・部署名、肩書等の正式な英語名称をアップデートした。
- ・博物館における海外発信文書及びレターヘッドの整備、発出補助を行った。
- ・海外要人の対応や協定に向けての取り組みは、2020年に策定された基本方針に従い国際タスクフォースとして行った。

2) 海外要人受け入れ（大使等）

以下7件の海外要人を受け入れた。

2021年4月7日 ノルウェー王国 インガ M. W. ニーハマル (Inga M. W. NYHAMAR) 大使

2021年10月19日 フィンランド共和国 ペッカ・オルパナ (Pekka ORPANA) 大使

2021年10月29日 ニューージーランド ヘイミッシュ・クーパー (Hamish COOPER) 大使

2021年11月19日 米国 レイモンド・F・グリーン (Raymond F. GREENE) 臨時代理大使

2021年12月3日 台湾 粘信士 台北駐日経済文化代表処札幌分処処長

2022年1月12日 パキスタン・イスラム共和国 イムティアズ・アハマド (Imtiaz Ahmad) 大使

2022年2月4日 ボスニア・ヘルツェゴビナ シニシャ・ベリヤン (Sinisa BERJAN PhD) 大使

3) 国際交流・国際支援

(a) 海外の博物館との交流・情報提供

ラウテンシュトラウフ・ヨースト博物館 (Rautenstrauch-Joest Museum / ドイツ・ケルン市) への 展示協力

同館はアイヌ民族に関連するコレクションを保有しており、当館シアターで上映されている「世界が注目したアイヌの技」へも登場している。2020年9月に同館が企画する展示への協力依頼があり、企画段階においてアイヌ文化を専門とする学芸員・研究員が民具資料や写真資料に関して情報提供を行った他、アイヌ民具の保存修復への助言、ウポポイに関連する近年の記録映像の提供などの協力を実施した。「A Soul in Everything – Encounters with Ainu from the North of Japan」と題された展示は2021年11月5日から2022年2月20日まで開催された。新型コロナウイルスの影響により、展示自体が一度延期になったほか、当館職員も現地に赴くことができなかったが、オープニング・セレモニーでは当館館長が録画による挨拶を行った。

ミネアポリス美術館 (Minneapolis Institute of Art / 米国・ミネソタ州) への情報提供

同館が収集しているイクパスイヤーアットゥシの着物について照会を受け、情報提供を実施した。特に新規購入資料であったアットゥシの着物は、貝殻などの装飾が施されたもので珍しい品であることが判明した。

(b) 教育普及や博物館機能に関する国際業務の支援

東京大学教養学部国際研修、東京大学大気海洋研究所国際研修の受け入れに国際オフィスとして協力を実施。また、フランス、ポーランド等のメディアからの取材への対応補助を実施。

(c) 民族共生象徴空間ウポポイとしての国際連携協定の見直し
1984年に締結された、(旧)アイヌ民族博物館とサーミ博物館（現 The Sámi Museum SIIDA）との連携協定の見直しのため、双方の現状を共有するプレゼンテーション交流企画を計画した。

IV-05 資料の収集、保管、活用

IV-05-01 アイヌ文化関係資料等の受入及び貸出

1) アイヌ文化関係資料等の受入

a) 資料の買取

資料買取の結果は、申出者9名、資料39件45点。概要や関係会議等は下記のとおり。

◆第1回購入：申出者5名、資料16件22点

資料は民具全般と古文書。これからの基本展示や調査等に向けて、イクパスイ、マキリ、イタ、衣服（木綿）、衣服（樹皮）などを中心に購入した。

<関係会議等>

2021（令和3）年度第1回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2021年8月6日
2021（令和3）年度第1回国立アイヌ民族博物館買取協議会	2021年8月20日
2021（令和3）年度第1回国立アイヌ民族博物館買取評価	2021年9月15・16日

◆第2回購入：申出者4名、資料23件23点

資料は民具全般と古文書。タマサイ（首飾）や木製煙草入れなどを購入した。また、基本展示、特別展示での利用回数が多い三国通覧図説も購入した。

<関係会議等>

2021（令和3）年度第2回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2021年12月8日
2021（令和3）年度第2回国立アイヌ民族博物館買取協議会	2022年1月6日
2021（令和3）年度第2回国立アイヌ民族博物館買取評価	2022年1月18日

b) 資料の寄贈

新規寄贈の結果は、申出者計4名、資料計7件8点。資料の概要や関係会議等は下記のとおり。

<概要>

北海道内外から寄贈の申出がなされた。サパンペ（幣冠）、エムシアツ（刀下帯）などの民具資料や、木彫作品（木彫り熊）を受贈した。さらに民具研究家の田中忠三郎が所蔵していた資料についても受贈した。

<関係会議等>

2021（令和3）年度第2回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2021年12月18日
2021（令和3）年度第1回国立アイヌ民族博物館寄贈評価	2022年1月18日

2) 資料の貸出

渋谷区立松濤美術館に1件2点の貸出。期間：2021年5月17日～8月23日。

3) 資料の寄託

新規寄託の結果は、申出者1名、資料1件2点。

勇払弁天地区出土丸木舟 2 艘、申出者は苫小牧市教育委員会。

4) 関係要領、収蔵品の定義、収集方針、買取基準等の制定

- ・ 2020 年に定めた収蔵品の定義をもとにアイヌ関係資料等の受入を行った。なお、第 1 回鑑査会議において「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ文化関係資料等収集方針」と「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ文化関係資料等買取基準」を改めた。
- ・ 2021 年に定めた「国立アイヌ民族博物館鑑査会議、買取協議会、買取評価員、寄贈評価員の運営等に関する要領」「国立アイヌ民族博物館文化財貸借要領」のもと、各委員会および資料貸与を行った。

5) 資料受入の大まかな流れ

- ・ 買取：希望申出⇒鑑査会議⇒買取協議会⇒買取評価⇒合意の上、契約へ
- ・ 寄贈：希望申出⇒鑑査会議⇒寄贈評価⇒合意の上、契約へ
- ・ 寄託：希望申出⇒鑑査会議⇒合意の上、契約へ

6) 関係会議の概要

- ・ 鑑査会議：8 名で審議。収集方針の策定、文化財の買取、寄託者からの受託、寄贈者からの贈与、列品への編入又は解除、列品の修理、その他博物館において規定する事項を審議する。
- ・ 買取協議会：5 人以上で審議。鑑査会議をうけて、資料等の買収の適否について、外部有識者の公正な意見を求めるために開催。
- ・ 買取評価：7 人以上で行う。買取協議会をうけて、買取予定価格算定のため、外部有識者の意見に基づいて客観的に行う。
- ・ 寄贈評価：5 人以上で行う。寄贈資料の評価額算定のため、外部有識者の意見に基づいて客観的に行う。



2021 年 12 月 8 日開催の鑑査会議

IV-05-02 博物館内及び旧社台小収蔵庫における列品等の整理及び整備

1) 旧社台小収蔵庫からの列品等の移送

2021年4月～10月、当館への列品等の移送に備えて、旧社台小収蔵庫に保管している全資料の資料番号照合、箱と中身の確認、クリーニング作業、チェックリスト作成等を行った。また、2021年9月13～21日まで、旧社台小収蔵庫と1階ロビーにおいて列品等の燻蒸を行った。各回の移送に関して、詳細は以下のとおり。第2回搬送にて、旧社台小収蔵庫で保管していた列品等をすべて当館収蔵庫へ移送完了した。旧社台小収蔵庫は2021年度末で賃借契約を終了し、原状復帰をはかった。

①第1回収蔵資料等移転搬送

・2021年7月20日～2021年7月30日

・収蔵資料：約970点

平成29年度文化庁購入資料、当財団資料（田中忠三郎資料、高橋資料、絵画資料、文献史資料）等

②第2回収蔵資料等移転搬送

・2021年10月18日～2021年11月19日

・収蔵資料：約8,500点

平成30年度文化庁購入資料、令和元（平成31）年度文化庁購入資料、当財団資料（児玉資料、旧（一財）アイヌ民族博物館未登録資料、舟）、寄託資料（亮昌寺資料、札幌市寄託資料）等

③写真映像音声資料

映像音声資料は約3,260点。写真資料は段ボール箱約70箱（2022年3月31日現在で56,992点あることを確認）。

2) 2021（令和3）年度資料クリーニング点

集計 2021/4～2022/3

2021年	4月	307
	5月	225
	6月	63
	7月	665
	8月	131
	9月	67
	10月	89
	11月	0
	12月	0
2022年	1月	0
	2月	0
	3月	0
	合計	1,547

IV-05-03 収蔵品管理システムへのデータ登録、外部公開、保守管理

国立アイヌ民族博物館では、アイヌの歴史・文化等に関する調査と研究を行うため、展示や研究対象となる資料を収集している。当博物館収蔵品について、目的・用途に応じて体系的に分類・整理のうえ、データベースとして一元的に管理し、適切な保存に努める。あわせて、収蔵品情報を一般の利用に供

する。一元管理用の管理システムと一般の利用に供する公開システムがある。

- ・収蔵品管理システム：データベースのうち、当館収蔵品及び利用等に関する履歴、教育活動の記録等の情報をデータベース化して一元管理するシステム。
- ・収蔵品公開システム：データベースのうち、収蔵品管理システムで管理する収蔵品等の主な情報を抽出して公開し、一般の利用に供するシステム。

1) 収蔵品管理システム登録状況

旧アイヌ民族博物館の資料と2015（平成27年）度から2020（令和2）年度までの文化庁購入資料について登録作業を行った。2022年3月10日時点での登録件数。

a) 資料に関わる登録

- ・資料登録件数 11,430 件
- ・画像登録件数 7,551 件

b) その他、特別利用・辞書機能に関する登録

- ・展示 67 件：基本展示や特別展示等で使用した資料を登録
- ・貸与 1 件：渋谷区松濤美術館への貸与について登録
- ・修理 37 件（5,953 点）：資料クリーニングについて月ごとでの登録
- ・教育 1 件：教育コンテンツとしての登録
- ・和暦辞書 27 件：公開用の単語を登録
- ・アイヌ語辞書 81 件：公開用の単語を登録
- ・和名辞書 27 件：公開用の単語を登録
- ・住所録 15 件：美術資料の作者名や資料貸借の担当者名などを登録
- ・コレクション 19 件：年度別の購入資料について登録
- ・分類 85 件：大分類・中分類・小分類について登録
- ・テーマ 59 件：公開用のための検索ワードとして登録

2) 公開件数

当館公式ウェブサイトにて公開 (<https://archives.nam.go.jp/DB/>)。アクセス数は総計 68,731（2022年2月時点）。

- ・資料公開件数：155 件
- ・画像公開件数：408 件

3) 保守管理

システムの定期メンテナンスを2回実施。2021年10月20日、2022年3月3日ともに異常なし。

IV-05-04 資料の熟覧・画像利用

博物館が所蔵する資料の利用に係る規定、要領、要項とは以下の通り。

- ・国立アイヌ民族博物館列品管理規定
- ・国立アイヌ民族博物館資料利用要項
- ・国立アイヌ民族博物館職員資料利用要領
- ・国立アイヌ民族博物館特別観覧要領

1) 列品等の特別観覧

・6件24点のうち、5件23点の対応を行った

2) 資料等の画像利用

・45件86点の申請のうち27件64点の許可の対応を行った（財団事業二課との共同決裁含む）

3) 特別観覧等の計画

共同研究における列品等の特別観覧申請0件。2021年度より、職員の観覧を計画的に実施するため、職員列品観覧、観覧マニュアル及び職員列品観覧申請書を作成した。2021年10月より運用開始。職員観覧42件317点の対応を行った。

4) 列品等の出品調整

当館事業の基本展示・特別展示等に係る列品等の出品の調整について、職員列品陳列申請を作成し、メール等で案内し、整備した。またそれを基に収蔵品管理システムを使い、各展示にて使用した履歴やこれから使用するという情報を登録し、同時期に使用できないことに気づかせる仕組みにした。また、展示後に収蔵庫へ保管してから365日間は休日とし、その期間に当てはまる列品の使用は極力控えるように促した。

IV -05-05 分析機器運用

CTなど調査分析機器等を適切に運用するとともに、良好な状態で使用できるよう保守管理を行った。

1) X線回折装置のアタッチメントの調達

今年度計画していた、サンプルチェンジャー、大型試料ステージの調達を行った。年度内に納品し、使用に問題ないことを確認した。

2) 科学分析装置の運用

当館設置の複数の科学分析装置の運用を実施した。加えて、科学分析装置の利用に関するマニュアル案や利用届の整備を進めた。運用実績（件数/使用数）を下記に記す。

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| a) 蛍光X線分析装置 | : ニンカリ、イコロ、顔料試料等の元素分析（10件/98回） |
| b) 携帯型蛍光X線分析装置 | : ニンカリ、イコロ、顔料試料等の元素分析（8件/33回） |
| c) X線回折装置 | : 顔料試料の構造解析（5件/17回） |
| d) 走査電子顕微鏡 | : 染色繊維試料等の拡大観察及び元素分析（8件/27回） |
| e) X線CT装置 | : 収蔵品等の構造調査及び3Dデータの取得（23件/103回） |
| f) レントゲン撮影装置 | : 出土金属製品、衣類等の内部観察（2件/66回） |
| g) デジタルマイクロスコープ | : 繊維試料、刺繍試料等の拡大観察（3件/10回） |
| h) 三次元蛍光分光分析装置 | : 顔料試料等の分光分析（6件/20回） |
| i) ハイパースペクトルカメラ | : 染色資料片等の分光分析（4件/35回） |
| j) キセノン型耐候試験機器 | : 染色資料片等の劣化試験（1件/1回） |
| k) 恒温恒湿装置、恒温装置 | : 調湿剤の調湿、空気質試験に伴う利用（3件/3回） |
| l) 真空凍結乾燥機 | : 展示標本の作成（2件/4回） |
| m) 三次元スキャナ | : 舟、刺繍等の三次元データの取得（12件/41回） |

- n) 三次元プリンタ : ホリデーイベント、出力試験等での利用（11件/43回）

3) 科学分析装置の保守管理について

調査研究等で利用できるよう保守管理を実施した。下記に実施内容を記す。

- a) 蛍光X線分析装置 : 機器点検（1回実施）
b) X線回折装置 : 機器点検（2回実施）
c) 走査電子顕微鏡 : 機器点検（1回実施）
d) X線CT装置 : 機器点検（1回実施）
制御用ソフトウェアのバージョンアップ（1回実施）
制御用ソフトウェアの不具合対応（3回実施）
e) 三次元蛍光分光分析装置 : 機器点検（1回実施）
f) ハイパースペクトルカメラ : 機器点検（1回実施）
g) キセノン型耐候試験機器 : 機器点検（1回実施）
初期不良による部品交換（1回実施）
h) 純水製造装置 : 機器点検（1回実施）
i) 恒温恒湿装置、恒温装置 : 機器点検（1回実施）
k) 三次元プリンタ : 1年点検、機器点検（2回実施）

4) 共同研究等に応じた、分析等計画調整

当館設置の科学分析装置の運用として、当館研究プロジェクトでの調査研究に利用した。該当する研究プロジェクト名及び利用実績（件数/使用数）を下記に記す。

- a) 蛍光X線分析装置 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（9件/95回）
b) 携帯型蛍光X線分析装置 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（6件/30回）
c) X線回折装置 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（5件/17回）
d) 走査電子顕微鏡 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（6件/15回）
e) X線CT装置 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（13件/74回）
f) デジタルマイクロスコープ : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（2件/8回）
g) 三次元蛍光分光分析装置 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（2件/6回）
h) ハイパースペクトルカメラ : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（1件/26回）
i) 三次元スキャナ : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（5件/12回）、
2021A07 チャシの形成に関する考古学的研究（4件/19回）
j) 三次元プリンタ : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（6件/13回）

5) 苫小牧市発見の舟の修復計画の策定

苫小牧市教育委員会より寄託を受けた勇払弁天海岸出土丸木舟について、協定に基づき保存修復計画の策定を施した。保存修復の実施に伴い、初めの施工として舟が含有する塩分等の含有成分の除去として脱塩処理を行い、10月20日～11月30日（42日）の間で実施した。次年度、再度脱塩処理を行い、その後の強化処理等が行えるよう対応を行う予定である。

6) 借用の毀損資料の修復方法の策定及び対応

特別展示開催にあたり発生した毀損資料（琥珀玉：1点）について、保存修復を行った。加えて、借用

品の中で脆弱な状態であった資料（琥珀玉：2点、牙製装飾品：1点）について、予防的保存処置も合わせて施した。文化財修復の原則（可逆性のある薬剤の利用、オリジナルの尊重等）に従い保存修復の工程の設計を経て施工し、修理監査（1回実施）にて問題なく保存修復が行われていることを確認し、保存修復を完了した。

IV-05-06 資料収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）

博物館における文化財資料の収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）に関する計画を作成し、適宜実施した。

1) 収蔵庫の空気汚染物質について

収蔵庫内における空気汚染物質濃度の測定を実施した。収蔵庫内にて送風機の設置工事や収蔵品搬入等の作業を行ったが、その後の測定において有機酸濃度、アンモニア濃度共に東京文化財研究所の指針値以下の値を確認し、収蔵品に影響がない状態を維持できていた（収蔵庫：3地点測定）。

2) 収蔵庫内の温湿度制御について

空調による一般収蔵庫、特別収蔵庫内の温湿度制御を実施した。管理目標値を温度20℃、相対湿度55～60%程度として安定した値の推移が維持できるよう、収蔵庫内温湿度測定を実施し、管理した（測定箇所：17箇所、温湿度データ回収：12回実施）。ただし、令和3年7月20日に当館内空調に不具合（外調機の冷却チャラーの温度上昇に伴う空調停止）が発生したため、収蔵庫内の温湿度に影響があった。本件については、是正対応を行い、令和3年8月には通常の状態に復旧した。空調不具合発生時の対応として、サーキュレータでの空気循環や除湿機等を用いた応急対応を実施し、管理目標値の温湿度に戻した（対応：20日程実施）。

3) 展示室及び展示ケース内の温湿度制御

空調による基本展示室、特別展示室の温湿度制御を実施した。管理目標値を温度22℃±2℃、相対湿度55%±4%として安定した値の推移が維持できるよう、展示室及び展示ケース内温湿度測定を実施し、管理した（測定箇所：77箇所、温湿度データ回収：12回実施）。展示室及び展示ケースの温湿度は、概ね安定した推移を達成したが、夏季（7～8月）や冬季（12～2月）は基本展示室、特別展示室共に外気の影響による相対湿度の乱れが確認された。空調制御値（設定温度や露点温度の値）を調整し、各室内の温湿度を管理目標値となるよう是正対応を施した（空調調整：20回程実施）。展示ケース内について、設置している調湿剤の交換作業を実施した（交換数：701点）。翌年度の交換が順当に行えるよう調湿剤の再調湿も施した（再調湿実施数：500点）。

4) 展示ケース内の空気汚染物質濃度の低減

基本展示室、特別展示室の展示ケース内の空気汚染物質濃度の調査、ガス吸着剤の設置を実施した。有機酸濃度、アンモニア濃度共に東京文化財研究所の指針値以下の値を確認し、展示資料に影響がない状態を維持できていた（展示室：21地点測定、ガス吸着剤の交換作業：6回実施）。

5) 害虫トラップの設置による虫害の監視

館内各所に害虫トラップを設置し、1ヶ月毎に回収して捕獲された害虫を調査した。館内の害虫の侵入は、少ない状態を維持できていた（トラップ設置箇所：105箇所）。

6) 列品や借用品等の生物処理について

当館内に移送した列品や借用品等について、生物処理が必要な資料が確認された。当館設備の冷凍庫を用いて殺虫処理（凍結処理）を行い対応した（凍結処理数：10件/約50点）。殺虫処理は滞りなく完了し、処理後に害虫被害の発生はなかった。

7) 第3回特別展示に関する重要文化財の借用に伴う環境整備

第3回特別展示（「ピース アイヌモシリから世界へ」2021年10月2日～12月5日）では、国指定重要文化財の借用が計画された。当館は文化財保護法第53条には該当しないが、国指定重要文化財の展示に求められる展示環境と同等の条件を満たす必要があった。そのため、国指定重要文化財の展示に対応する展示・収蔵環境の整備を施し、借用・返却を含め問題なく対応を終えた。

8) 収蔵庫におけるIPMメンテナンスの実施

収蔵庫内への列品等の搬入に伴い、塵埃や汚れ、害虫の侵入を確認した。そこで、収蔵庫内の清浄度を向上させるため、IPMメンテナンス（収蔵庫内の特殊清掃）を実施した。IPMメンテナンスは、一般収蔵庫、特別収蔵庫、収蔵庫前室、及び各室の周囲を巡る空気層も対象として、令和4年2月15日～令和4年2月19日（5日間）に実施し、微細な塵埃や細部の汚れ等の除去を行った。

IV-06 教育普及

IV-06-01 博物館における教育事業の企画立案及び実施

1) 遠隔授業・研修会

遠隔授業・研修会への協力として、下記のオンライン講話、研修会への講師派遣の対応を行った。

- ・幌延町立幌延中学校3年（昨年度からの継続）：修学旅行事前・来館当日・事後学習
- ・埼玉県入間市立金子中学校2年：社会科学授業（令和2・3年度文部科学省・埼玉県教育委員会人権教育研究指定校人権教育研究発表会）
- ・北海道教育委員会胆振教育局：初任段階教員研修会（3年次研修）講師派遣
- ・広島県教育委員会：文部科学省人権教育研究指定に係るオンライン研修会

2) 出前授業

出前授業は、新型コロナウイルス感染症流行により、依頼がなく、当館からの働きかけも自粛したため、実施しなかった。

3) ホリデーイベント

ホリデーイベントについては、新型コロナウイルス感染予防対策を行いつつ、週末の開催を主に通算36回実施した（工作型4件、講演型12件、対話型13件、ガイド型7件）。6月、9月の緊急事態宣言にともなう休館期間のイベントは中止・延期とした。

コロナ禍の状況を鑑み、ハイブリッドでのプログラム運用を館内スタッフ、館内機材環境で行っていくことを試み、特に特別展「ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアン」の関連イベントでは多くの参加者が現地とオンラインで参加した。

また記録及びプログラムの評価・検証のためアンケートを各回で実施した。新型コロナウイルス感染症流行のため実施を控えていた、基本展示室の展示解説ツアーを、これまでの知見をふまえ一回6名規模で試行実施した。今後拡充を行う。また、探究展示の運用試行を、t.3コーナーにユニットを3種移動して感染予防対策をしながら体験するかたちで、昨年度に引き続き4回行った（通算7回実施）。

開催日	タイトル	講師（外部講師のみ、所属は開催時のもの）	計参加人数/名 （事前申込者・内部スタッフ含む）	備考
2021年 4月3日（土）	展示体験「テンパテンパしてみよう！」④		27	午前・午後合計
4月10日（土）	もっと知りたい！「収蔵資料展 イコロ」④		14	
4月17日（土）	NAM・アイヌ文化クイズ！		21	
4月24日（土）	もっと知りたい！「収蔵資料展 イコロ」⑤		26	
5月1日（土）	自分だけのミニタマサイを作ろう！		17	
5月8日（土）	もっと知りたい！「収蔵資料展 イコロ」⑥		11	
5月15日（土）	エゾシカの角でマキリキーホルダーをつくろう！		15	
5月22日（土）	本でめぐるアイヌ文化 at パノラミックロビー		23	
5月29日（土）	みんなのうたおどり♪②		7	
（6月の緊急事態宣言にともなう休館期間のイベントは中止・延期）				
6月26日（土）	展示体験「テンパテンパしてみよう！」⑤		23	午前・午後合計
7月3日（土）	展示体験「テンパテンパしてみよう！」⑥		31	午前・午後合計
7月10日（土）	史料から災害を記憶する－感染症		22	
7月23日（金）	講演会：『ゴールデンカムイ』のアイヌ語監修者・中川先生のお話を聞こう	中川 裕 氏（千葉大学 名誉教授）	会場参加： 91 オンライン参加： 92	ハイブリッド実施
7月31日（土）	研究員・学芸員による特別展示の解説：「日露戦争と、北海道と樺太」		30	
8月7日（土）	講演会：小樽市総合博物館の石川館長のお話を聞こう「いかにして小樽は舞台となったのか？」	石川 直章 氏（小樽市総合博物館 館長）	会場参加： 35 オンライン参加： 65	ハイブリッド実施
8月14日（土）	研究員・学芸員による特別展示の解説：「子守唄から知る、生活の中のうたおどり」		30	
8月21日（土）	講演会「未開の知」に触れる－ユニバーサル・ミュージアムとは何か－	広瀬 浩二郎 氏（国立民族学博物館 准教授）	会場参加： 27 オンライン参加： 15	ハイブリッド実施
8月22日（日）	ゲストトーク：『ゴールデンカムイ』の編集者・大熊さんのお話を聞こう	大熊 八甲 氏（集英社）	会場参加： 51 オンライン参加： 165	ハイブリッド実施
8月28日（土）	ユニバーサルミュージアム＆パーク「音楽を体験してみよう！」		20	
（9月の緊急事態宣言にともなう休館期間のイベントは中止・延期）				
10月3日（日）	アイヌ博×みんなく共催記念 オープニングイベント『世界のピース アイヌのピース』	呉人 恵 氏（富山大学／北海道立北方民族博物館 館長） 池谷 和信 氏（国立民族学博物館） 齋藤 玲子 氏（国立民族学博物館） 下倉 洋之 氏（彫金作家）	39	
10月16日（土）	製作イベント『自分だけのタマサイをつくろう』		15	
11月13日（土）	製作イベント『自分だけのタマサイをつくろう』		11	

2022年	11月20日（土）	講演会『ピース つなぐ・かざる・みせる』	谷澤 亜里 氏（奈良文化財研究所） 池谷 和信 氏（国立民族学博物館）	19		
	12月4日（土）	受け継ぐ、うたおどり		26		
	12月18日（土）	展示体験「テンパテンパしてみよう！」⑦		33	午前・午後合計	
	1月15日（土）	ユ オルシベ ～温泉のお話～		14		
	1月29日（土）	ユニバーサルミュージアム&パーク オープニングイベント「音楽と民具にふれてみよう！」		8		
	2月6日（日）	ユニバーサルミュージアム&パーク「民具をつかってみよう！」		12		
	2月11日（金）	ユニバーサルミュージアム&パーク「音楽を体験してみよう！」		9		
	2月13日（日）	ユニバーサルミュージアム&パーク「音楽を体験してみよう！」		10		
	2月19日（土）	ユニバーサルミュージアム&パーク「民具をつかってみよう！」		16		
	2月23日（水）	ユニバーサルミュージアム&パーク「音楽を体験してみよう！」		11		
	2月27日（日）	ワークショップ「さわる、みる、きく、そしてはなす」		3		
	3月5日（土）	「伝承から自然災害を記憶する 一 津波」		22		
	3月19日（土）	展示を見る前のアイヌ博ガイド「イコロ トゥンプをまわろう！」		11	午前・午後合計	
	3月26日（土）	展示体験「テンパテンパしてみよう！」⑧		31	午前・午後合計	
					1148	



ホリデーイベント 研究員・学芸員による特別展示の解説「日露戦争と、北海道と樺太」（7月31日開催）



ホリデーイベント ユニバーサルミュージアム & パーク「音楽を体験してみよう！」（8月28日開催）



ホリデーイベント「受け継ぐ、うたおどり」（12月4日開催）



ホリデーイベント 展示体験「テンパテンパしてみよう！」（12月18日開催）



ホリデーイベント 展示を見る前のアイヌ博ガイド「イコロ トゥンプをまわろう！」（3月19日開催）

4) ギャラリートーク

ギャラリートークは、新型コロナウイルスを考慮しながら探究展示（「かわりにテンパテンパ」）と「ことば」展示（「Touch itak」）で実施し、通算 2,246 組 4,757 名の来館者に対応した。



ギャラリートーク「かわりにテンパテンパ」



ギャラリートーク「かわりにテンパテンパ」



ギャラリートーク「Touch itak」



ギャラリートーク「Touch itak」

5) 館外での教育普及事業の実施

「こども霞が関見学デー」について、2021年度はオンライン参加として参画した（8月18日、19日）。オンラインプログラムとして、展示室ツアーやワークショップを行い、オンライン配信のライブ事業として実施した。

6) 目や耳の不自由な人への解説対応

目や耳の不自由な人への基本展示室ツアーの試行対応を行いながら、対応フローと必要な解説ツール類、点字冊子等を試作した。

7) 社会人向け研修の実施

大学や外国語ボランティア団体の要請を受けて、来館ツアーや講話などの社会人研修を3回実施した。

IV-06-02 アイヌの文化伝承に資する研修の企画立案及び実施

当館と協定を結んでいる北海道アイヌ協会とのプログラムを実施した。受入について方針を固めたのち、計12日（1泊2日×6回）にわたり札幌アイヌ協会会員1名の受入を行った。調査者の希望から、白老地方を含む北海道噴火湾沿岸部で使用されていたとみられる衣服等の16着の調査を実施した。次年度以降も北海道アイヌ協会と連携、協議して実施する。

IV-06-03 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の検討

新型コロナウイルス感染防止対策及び緊急事態宣言による臨時休園等により、学芸員実習生を受け入れる体制が整わず、実施しなかった。次年度以降の受入れ開始に向けて、実習体制やカリキュラムの整備を進める。

IV-06-04 博物館ライブラリの運営

日本図書館協会のガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染拡大防止策を施して、昨年度（令和2年9月1日より）に引き続き、最大10名の入室制限を行いながら開室し、図書の閲覧（12,406人、うち子どもは2,196名）、複写（78件）、レファレンス（139件）に対応した。

特別展示等とタイアップしてライブラリ内に小展示を2回設置した。

また、図書館システムへの図書の登録作業を9,729冊分行った（登録数総計18,685冊）。7月にOPAC（蔵書検索システム）を公開するとともに、コロナ対策で停止していた、検索用OPAC端末のPCを試験的に1台開架に導入した。

オンラインで国立国会図書館所蔵資料の複写サービスを受けるため、国立国会図書館利用者登録を行った。

また、二層集密書架における空気循環の改善を図るため、ライブラリ閉架移動書架に自動散開プログラムを追加導入した。

加えて、旧社台小学校に仮置きしている図書の輸送、燻蒸、登録を一部行った。

IV -06-05 教育旅行等で来館する学校に対する教育プログラム

主に教育旅行で来館する小学校から高等学校までを対象とした学習プログラム「はじめてのアイヌ博」及び小学3、4年生向けの平易なクイズ形式の学習プログラムを開発し、今年度は延べ196件11,618名の児童生徒及び引率者に対して実施した。実施にあたっては、各校における学習状況を事前に調査するとともに、担当教員と打合せを行い、その学校に合ったプログラムになるよう工夫した。また、事前の打ち合わせを行いながらも、新型コロナウイルス感染拡大による旅行延期や、滞在時間の調整からキャンセルになった学校が合計86校あった。内訳は以下の通り

校種	小学校	85	43%
	中学校	81	41%
	中学校（特別支援学級）	0	0%
	高等学校	24	12%
	特別支援学級	0	0%
	特別支援学校（中学部）	1	1%
	特別支援学校（高等部）	4	2%
	その他	1	1%
	合計	196	100%

学年	小学校	1	1	1%
		2	0	0%
		3	2	1%
		4	29	15%
		5	11	6%
		6	47	24%
	中学校	1	22	11%
		2	27	14%
		3	33	17%
	高等学校	1	4	2%
		2	14	7%
		3	5	3%
	特別支援学級	1	0	0%
		2	0	0%
		3	0	0%
		4	0	0%
		5	0	0%
		6	0	0%
	特別支援学校（中学部）	1	0	0%
		2	1	1%
		3	1	1%
	特別支援学校（高等部）	1	0	0%
		2	2	1%
		3	1	1%

地域	オホーツク	6	3%
	札幌	49	25%
	空知	16	8%
	釧路	2	1%
	後志	8	4%
	根室	2	1%
	宗谷	2	1%
	十勝	7	4%
	上川	5	3%
	石狩	10	5%
	胆振	64	33%
	渡島	9	5%
	日高	7	4%
	留萌	1	1%
	檜山	0	0%
	福島県	1	1%
	千葉県	1	1%
	東京都	1	1%
	神奈川県	1	1%
	愛知県	1	1%
	京都府	1	1%
	大阪府	1	1%
	高知県	1	1%
	合計	196	100%

プログラム	はじめてのアイヌ博	174	89%
	はじめてのアイヌ博（3・4年生）	1	1%
	はじめてのアイヌ博（クイズ）	17	9%
	遠隔授業	1	1%
	教材開発協力	1	1%
	連携学習	2	1%
	合計	196	100%

人数	児童生徒	10,526	91%
	引率	1,092	9%
	合計	11,618	100%

教科等	社会科	18	10%
	地理	1	1%
	歴史	1	1%
	公民	0	0%
	道徳	0	0%
	総合的な学習	130	72%
	特別活動	26	14%
	その他の教科	4	2%

教科がわかるケース	177	90%
教科がわからないケース	19	10%
実施件数	196	100%

※教科等の重複あり。

時間	滞在時間の平均	199分	
	見学時間の平均	54分	

学習事前調査票 / アンケート	調査票の回収	118	60%
	アンケートの回収	91	46%
	実施件数	196	

IV-06-06 学校教育と連携した取り組みの企画立案

アイヌ民族の歴史や文化に対する理解を深める教員向けの研修会として、「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」を8月2日（月）に開催した。受講対象は、研修内容や新型コロナ感染対策を考慮し、現地参加は北海道胆振管内小中学校教員、リモート参加は北海道小中学校教員とした。現地参加44名、リモート参加22名、計66名の教員が参加した。次年度も継続して実施し、アイヌ民族の歴史や文化に対する教員の理解や指導力の向上を図る。

また、北海道教育委員会、近隣の市町教育委員会や校長会と連携し、「アイヌ民族に関する指導教材制作委員会」を設置し、学習指導要領に示された目標や内容に則り、学習活動ができる動画教材（小学校6年社会科、中学校社会科・歴史）を作成した。次年度、その動画教材を活用した授業を実施し、その教育効果を検証する。

学校教育と連携した出前授業・遠隔授業の実施状況については、先述のIV-06-01に記載済み。

IV-07 一般運営業務

IV-07-01 利用サービス

1) 新型コロナウイルス対策全般

混雑時には状況に応じて入場規制を実施し、常に来館者が安心して利用できる環境づくりに努めた。新型コロナウイルス拡大防止のために必要な処置として、来館者へ手指消毒、マスク着用の徹底、日常点検では、車椅子、ベビーカー、座席等を利用した箇所への消毒作業を行った。タッチパネル式モニターや探究展示等も運用停止となったため、該当するモニター等の前には下記の文言を入れた掲示物を作成し、掲示した。

・新型コロナウイルス感染防止のため運用を停止しています。

また、各掲示はできる限り多言語対応も行い、ピクトも同時に用いるなど来館者にわかりやすい掲示になるよう努めた。



飛沫防止パネル

2) 整理券による入館者制限

a) ウェブ予約システムによる入場制限

（公財）日本博物館協会の「博物館における新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」に準じて、展示室における1時間当たりの収容人数を制限するべく、ウェブ予約システムを用いて入場制限を行った。

b) 混雑時の入場規制および待機者の整理

展示室、シアター内、ライブラリ内において、混雑してきて来館者が快適に観覧できない状況の場合は、一時的に来館者への入場規制を実施し、安全確保に努めた。

3) 消毒薬の設置

当館内では7箇所に設置し、徹底的な消毒を促した。

当館職員の取り組みとして、北海道知事の要請に応じて、マスク着用の徹底、検温及びアルコール消毒等を実施した。



アルコール消毒スタンドの設置

4) 観覧者の利便性向上のための対策

a) 館内での利用案内

来館者が快適に博物館を利用できるように、館内では1階、2階と案内スタッフをポジションごとに配置し、展示室への案内、障がい者、高齢者等の利用サポート、外国人への多言語案内等、常に来館者のニーズに合った対応ができるように努めた。

b) 受付

来館者の要望に応えられるように、各施設でプログラムの案内、チラシやパンフレットの配布、また来訪者への連絡対応、外国人来館者への多言語対応等の各種サービスの提供を行った。

c) 電話対応

ウポポイお問合せ窓口への自動音声案内導入に伴い、令和2年12月15日より博物館に関する電話問い合わせの対応を行っている。また、今年度より紙媒体の管理簿からエクセルデータへ移行し、問い合わせと対応内容について情報を蓄積した。職員と情報を共有することで、電話対応の向上に努めた。

d) 館内放送

来館者からの要望で、迷子等の捜索や拾得物の問合せがあった場合は、無線機等でスタッフ間での情報共有を行い対応した。

定期的に新型コロナウイルス感染拡大防止の対策について放送し、来館者に注意喚起を行った。

e) 障がい者・高齢者等の利用サポート

車椅子、杖の利用者、またご高齢の来館者については、積極的に声掛けを行い、要望への対応、各展示室への案内等、ニーズに合ったサポートを行った。

また、視覚障がい者福祉連合会から利用サポートの改善点について提案があった(令和3年12月1日)エレベータ内の左右の壁及び2階多目的トイレの呼び出しボタンに点字表記を追加した。

f) ガイドアプリの利用案内

公式ウェブサイトダウンロード方法等について掲載し利用案内を行った。

g) 外国人来館者への多言語対応

エントランスロビーに多言語の当館リーフレットを設置し、外国人来館者への利用案内を行った。

また、外国人の当館の利用促進を確保するため、公式ウェブサイトでも多言語による利用案内や、英語による特別展示やテーマ展示の案内を行った。

h) 対応言語数

最大8言語（アイヌ語、日本語、英語、中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語、ロシア語、タイ語）。

このうちメインとなる言語はアイヌ語、日本語、英語、中国語簡体字、韓国語の5言語。

i) 来館者等からの苦情・要望等への対応

当館に関する質問等については、展示室対応をはじめ、メール、電話、FAX等にて広く受け付けた。リファレンスでは、今年度、メール137件、電話4件、郵便4件に対応した。

j) 施設利用アンケートによる来館者の満足度やニーズの把握

ウポポイ来場者アンケートの内容をエクセルデータで蓄積し、随時当館職員へ共有することで、来館者への対応の向上に努めた。

k) 日常点検

研究員、学芸員、アソシエイトフェロー、エデュケーター全28名が、チェックシートの項目に沿って、交代で基本展示室及び特別展示室の点検、確認を行った。

また、年4回に分けて基本展示室と特別展示室の展示ケースについて定期点検を実施した。

このように周期を定めた点検作業を実施することで異常の兆候をできる限り早く見つけ、すぐに適切な処置をすることにより、突発的な故障、不具合などによる業務への支障を未然に防いだ。

IV-07-02 広報企画

1) 特別展示・テーマ展示のポスター・チラシの作成と配布及びメディア取材関係

a) 第2回特別展示（ゴールデンカムイ）

- ・第2回特別展示ポスター



© 野田サトル／集英社

・ 広報物製作部数・配付先

チラシ 50,000部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 1,625 件

パンフレット 20,000部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 770 件

・ 内覧会の取材

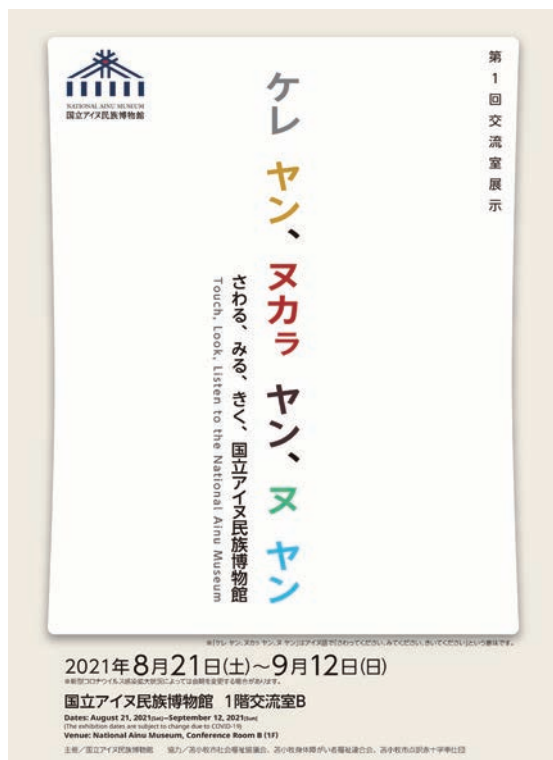
メディア数 9社

朝日新聞社、朝日新聞苫小牧支局、しらおい振興センター、苫小牧民報社、NHK 苫小牧支局、北海道新聞苫小牧報道部、毎日新聞社、室蘭民報社、読売新聞苫小牧支局

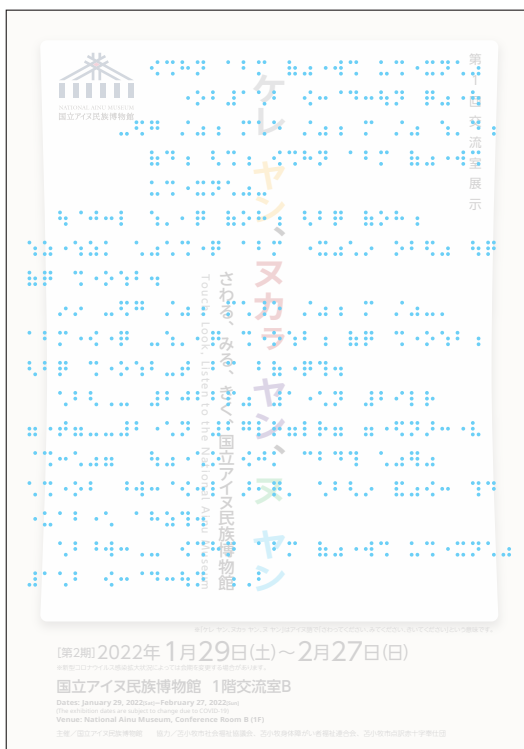
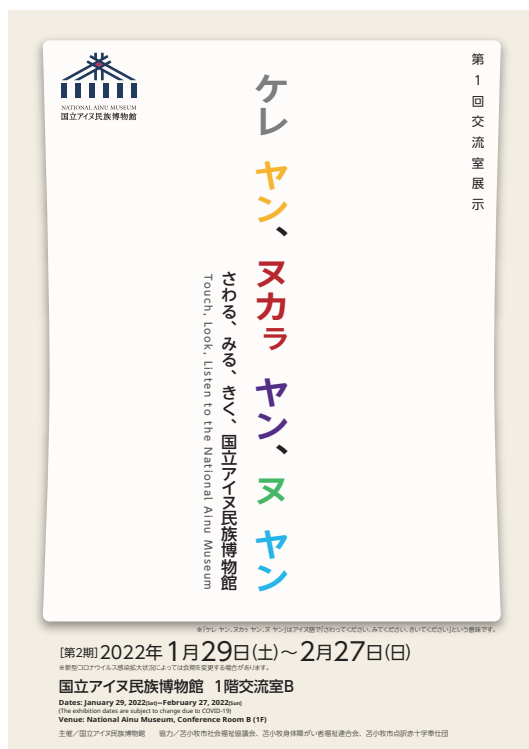
b) 第1回交流室展（さわる）

[1期]

- ・ 第1回交流室展チラシ



- ・ 広報物製作部数・配付先
 チラシ 20,000部
 全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 1,535 件
 [2期]
- ・ 第1回交流室展チラシ



チラシには点字を施した

- ・ 広報物製作部数・配付先
 チラシ 20,000部
 全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 1,662 件
- c) 第3回特別展示（ビーズ）
 - ・ 第3回特別展示ポスター



- ・ 広報物製作部数・配付先
 チラシ 50,000部
 全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 1,649 件
 パンフレット 20,000部
 全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 735 件
- ・ 内覧会の取材
 メディア数 8社
 朝日新聞苫小牧支局、NHK 苫小牧支局、しらおい振興センター、苫小牧民報社、北海道新聞社、毎日新聞社、室蘭民報社、読売新聞苫小牧支局

d) 第2回テーマ展示（白老）

- ・第2回テーマ展示ポスター



- ・広報物製作部数・配付先

チラシ 50,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 2,373 件

パンフレット 10,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 702 件

- ・内覧会の取材

メディア数 7 社

HBC、NHK 室蘭放送局、しらおい振興センター、苫小牧民報社、北海道新聞社、室蘭民報社、読売新聞苫小牧支局

2) 博物館を含むウポポイの情報発信及び各種広報

a) 公式ウェブサイト

当館公式ウェブサイト (<https://nam.go.jp/>) では、常に最新の情報を閲覧者に提供できるよう、展示情報、お知らせ、イベント等の博物館情報について更新を行うとともに、公式ウェブサイトに異常が発生しないよう管理を行った。

b) SNS

2つの SNS を運用し、各種広報を行った。

Facebook : <https://www.facebook.com/upopoy/>

Instagram : <https://www.instagram.com/ainumuseumpark/>

c) 園内マップ・パンフレット

来園者に各施設やプログラムについて情報を提供するため、園内マップ及びプログラムのパンフレットを製作し配布した。プログラムに変更があった場合は随時内容の修正を行ったほか、臨時の変更があった場合や、特別イベントの実施時には、ウポポイ公式ウェブサイト及び園内のデジタルサイネージへの掲載や、ポスター等を設置することで、常に最新の情報を来園者へ提供した。

d) そのほかの広報

施設やプログラム等の営業情報、イベント等の企画情報等を各種報道機関、雑誌や Web 等に発信した。また、取材対応し、施設の認知、利用促進への広報活動を図った。

3) ロゴマーク並びに PR キャラクターを利用した広報活動

公共団体や報道メディアほか、一般事業者や団体などからのロゴマーク並びに PR キャラクター「トウレツポン」の利用依頼について対応を行った。

利用の周知のために公式ウェブサイトに専用ページを作成し、専用のアドレスにて利用申請を受付し管理運営を図った。

<https://ainu-upopoy.jp/download>

4) 教育旅行誘致に関する事業

「北海道教育旅行説明会・相談会」＜東京・名古屋・大阪＞への参加。

新型コロナウイルスの影響により、予定をされた事業の大半は中止になったが、北海道観光振興機構主催の教育旅行誘致の事業は2年ぶりに開催となり、各エリアの教育旅行事業者、学校の関係者に向け、博物館を含むウポポイ PR 説明、体験プログラムなどについて個別説明を行った。

大阪 令和3年12月7日（火）：AP 大阪茶屋町

名古屋 令和3年12月8日（水）：AP 名古屋

東京 令和3年12月9日（木）：AP 品川

5) 地方自治体等が行うウポポイ PR 活動等との連携

第1回日本観光ショーケース in 大阪・関西への出展。

新型コロナウイルスの影響により、予定をされたウポポイ PR に資する事業の大半は中止となったが全国の観光エリア等が行うウポポイ PR 活動等と連携し、効果的な広報宣伝活動情報を発信する大規模イベントでは、ウポポイとして出展した。

北海道各地の情報ブースも参画し、ウポポイの出展ブースでは博物館スタッフによる展示に関する説明や、教育旅行プログラムの問合せ対応などに当たった。

期間 令和4年3月25日（金）～3月27日（日）

会場 インテックス大阪

IV -07-03 事業予算

当館は文化庁直営だが、その運営は公益財団法人アイヌ民族文化財団に委託されている。その事業費は文化庁から財団に送られる委託費と入場料やテナント料などの事業収入とでまかなわれる。

収入		支出	
内 訳	予算額（千円）	費 目	予算額（千円）
入場料・テナント料等	513,526	設備備品費	127,328
委託費	1,287,522	人件費	389,056
		事業費	638,932
		再委託費	482,000
		一般管理費	163,732
計	1,801,048	計	1,801,048

本誌は当博物館公式ウェブサイト上で電子版を公開しています。
This annual report is available online on our museum website below.
<https://nam.go.jp/>

国立アイヌ民族博物館

年報 2021（令和3）年度

National Ainu Museum Annual Report 2021

発行日 2023年10月13日

編集・発行 国立アイヌ民族博物館
北海道白老町若草町2丁目3番1号
<https://nam.go.jp/>

Edited and Published by National Ainu Museum
2-3-1, Wakakusa cho, Shiraoi, Hokkaido, JAPAN
<https://nam.go.jp/>
Not for Sale

ISSN 2758-5131

非売品

© 2023 国立アイヌ民族博物館

an=ukokor aynu ikor oma kenru
National Ainu Museum
Annual Report
2021



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間